

埼玉県加須市

# 騎西城武家屋敷跡

第17・28・35・36・39・41・43次調査

加須市埋蔵文化財調査報告書 第1集

騎西城武家屋敷跡

第17・28・35・36・39・41・43次調査

加須市教育委員会

2011  
加須市教育委員会

埼玉県かぞ加須市

き さい じょう ぶ け や しき あと  
騎西 城武 家屋 敷跡

第17・28・35・36・39・41・43次調査

2011

加須市教育委員会





17次 煙管 (No.34) 出土



17次 火打金 (No.36) 出土



第17次 陶磁器



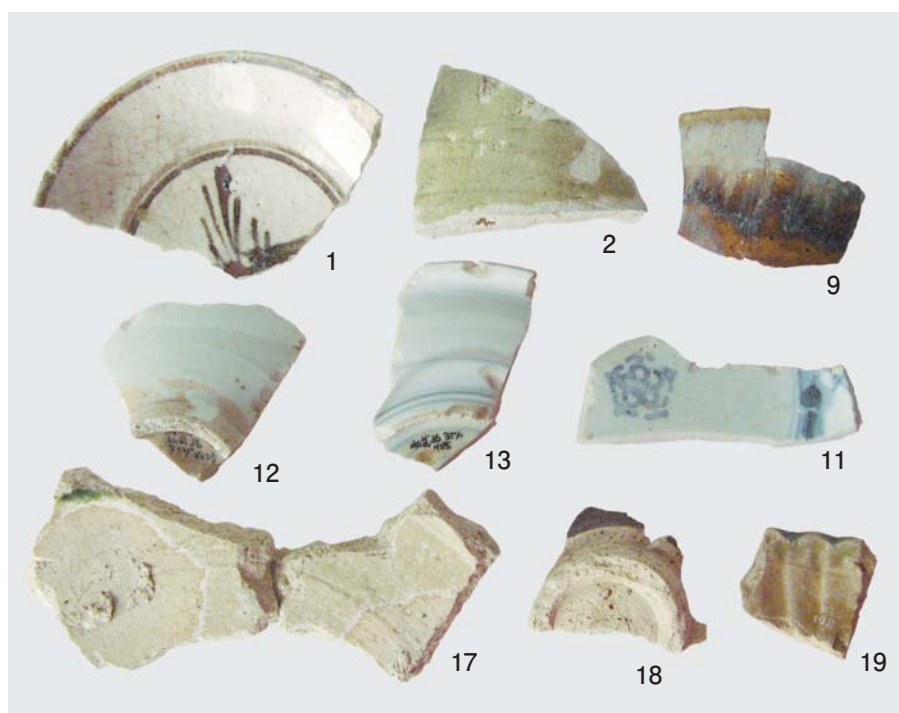
第28次 かわらけ集中



第28次 陶磁器



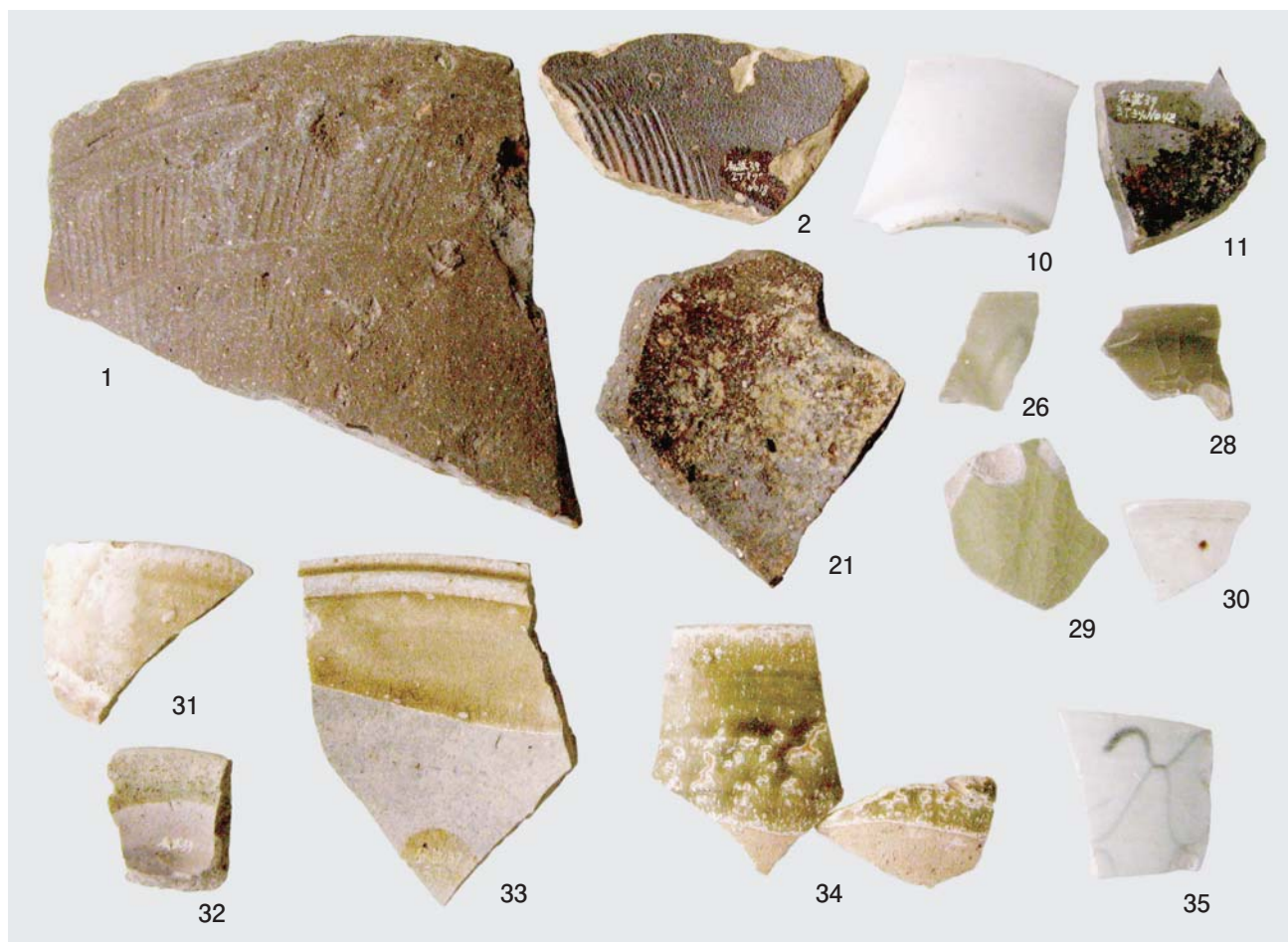
第35次 陶磁器



第36次 陶磁器



口絵 4



第39次 陶磁器



第39次 桶底板



下駄



有孔石製品



第41次 完掘



第41次 7号土壙 遺物出土





第41次 8・27・32号土壙 遺物出土



第41次 32号土壙 遺物出土



第41次 板碑 (No. 4)



同左 金泥付着状況



第41次 陶磁器



第43次 完掘



第43次 陶磁器

## 序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

今回報告いたします騎西城跡が所在する騎西地区はその中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地区であります。

地区内には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が所在いたしますが周辺の市町村とともに都市化が進み、景観が著しく変貌しております。

今回の調査報告は、平成2～6年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡第17・28・35・36・39・41・43次発掘調査の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成23年3月

加須市教育委員会

教育長 若山 勝彦

# 例 言

1 本書は埼玉県加須市市内遺跡の発掘調査報告書である。

※騎西町は平成22年3月23日に市町合併により加須市となった。

2 発掘調査は住宅建設に先立つもので、平成2～6年に、報告書刊行作業は平成22年に国・県の補助金を受けて実施したものである。

3 事業実施組織

発掘調査 調査主体者 騎西町教育委員会  
担 当 者 各調査に記載  
調査協力員 同 上  
報告書刊行 加須市教育委員会  
教育長 若山勝彦  
教育部長 松本 清  
教育副部長 小暮 弘  
騎西教育事務所 所長 正能晴雄  
生涯学習担当 主幹 嶋村英之  
主査 坂本征男

4 本書の刊行に際して次のように分担して業務に当たった。

(1) 執 筆 嶋村英之  
基礎データ 陶磁器 島村範久  
(加須市教育委員会生涯学習課)  
銭貨 坂本征男

かわらけの年代は島村編年案により嶋村が比定した。

(2) 写真撮影は現場のものは調査担当者が、その他は嶋村英之の下整理協力員が行った。

(3) 出土品の整理・図版の作成は下記の指導者の下、整理協力員が行った。

陶磁器・石金属製品の一部 島村範久  
銭貨 坂本征男  
ほか 嶋村英之

木製品は嶋村薫が実測した。

※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編2』使用のものを加工した。

整理協力員

新井博子 小川美津子 遠井恭子 長谷川恵  
松村順子

5 本書の編集は嶋村英之が行った。

6 資料は加須市教育委員会が保管している。

7 挿図について

○縮尺は以下の通りである。

遺構 溝 土層堆積 1/40・断面 1/60  
井戸状遺構・土壌 1/60  
遺物出土 1/40

遺物

縄文 土器片 1/3 石器 1/1 1/3  
中近世

陶磁器類 1/3 金属 1/1～1/2 (銭貨 1/1)  
木製品 1/3 石製品 1/2～1/4 (板碑・石臼 1/4) 石器 (磨石・砥石) 1/1～1/3

○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。

8 本文および表について

○ ( ) の数値は残存値である。

○土層説明は土層色調/含有物の順に記載した。

略称凡例

※テフラ=T、ローム=L、炭化物=C、焼土=S、酸化鉄=FE、黒褐色=BB、黒色=B、褐色=Br

※粒子=R、ブロック=B

※非常に多い=☆、多量=◎、少量=△、微量=▲、  
万遍なく=アンダーライン

※やや明るい=やや明、やや暗い=やや暗、

※非常に軟らかい=軟度高・軟らかい=軟質・やや  
軟らかい=軟度低 ・硬い=堅緻

※縮まり良し=縮良・縮まり悪し=縮悪・粘性強し  
=粘強・粘性有り=粘有

9 整理報告に際して下記の方からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

藤澤良祐氏

# 目次

## 序／例言／目次

### 第Ⅰ章 遺跡の立地と環境

- 第1節 遺跡の位置……………1
- 第2節 遺跡の地理的環境……………1
- 第3節 遺跡の歴史的環境……………2

### 第Ⅱ章 第17次調査

- 第1節 調査の概要……………7
- 第2節 遺構と遺物……………7

### 第Ⅲ章 第28次調査

- 第1節 調査の概要……………14
- 第2節 遺構と遺物……………14

### 第Ⅳ章 第35次調査

- 第1節 調査の概要……………25
- 第2節 遺構と遺物……………25

### 第Ⅴ章 第36次調査

- 第1節 調査の概要……………32
- 第2節 遺構と遺物……………32

### 第Ⅵ章 第39次調査

- 第1節 調査の概要……………38
- 第2節 遺構と遺物……………38

### 第Ⅶ章 第41次調査

- 第1節 調査の概要……………47
- 第2節 遺構と遺物……………47

### 第Ⅷ章 第43次調査

- 第1節 調査の概要……………68
- 第2節 遺構と遺物……………68

### 第Ⅸ章 まとめ……………77

## 引用参考文献／図版／報告書抄録

# 挿図目次

- 第1図 遺跡の位置……………1
- 第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡 ……3
- 第3図 周辺の微地形分類と城館跡……………3
- 第4図 各調査区の位置……………6
- 第5図 第17次周辺の調査と遺構位置図……………8
- 第6図 第17次遺構1……………9
- 第7図 第17次遺構2……………10
- 第8図 第17次遺物1……………11
- 第9図 第17次遺物2……………12
- 第10図 第28次周辺の調査と遺構位置図……………15
- 第11図 第28次遺構1……………16
- 第12図 第28次遺構2……………17
- 第13図 第28次遺構3……………18
- 第14図 第28次遺物1……………20
- 第15図 第28次遺物2……………21
- 第16図 第28次遺物3……………22
- 第17図 第35・36・41次周辺の調査……………24

- 第18図 第35次遺構位置図……………26
- 第19図 第35次遺構1……………27
- 第20図 第35次遺構2……………28
- 第21図 第35次遺物1……………29
- 第22図 第35次遺物2……………30
- 第23図 第36次遺構位置図……………33
- 第24図 第36次遺構1……………34
- 第25図 第36次遺構2……………35
- 第26図 第36次遺物1……………36
- 第27図 第36次遺物2……………37
- 第28図 第39次周辺の調査と遺構位置図……………39
- 第29図 第39次遺構図1……………40
- 第30図 第39次遺構図2……………41
- 第31図 第39次遺物1……………42
- 第32図 第39次遺物2……………43
- 第33図 第39次遺物3……………44
- 第34図 第39次遺物4……………45

第35図	第41次周辺の調査と遺構位置図	49	第47図	第41次遺物 2	63
第36図	第41次遺構 1	50	第48図	第41次遺物 3	64
第37図	第41次遺構 2 (土壌位置図)	51	第49図	第41次遺物 4	65
第38図	第41次遺構 3	52	第50図	第43次遺構位置図	69
第39図	第41次遺構 4	53	第51図	第43次遺構 1	70
第40図	第41次遺構 5	54	第52図	第43次遺構 2	71
第41図	第41次遺構 6	55	第53図	第43次遺構 3	72
第42図	第41次遺構 7	56	第54図	第43次遺物 1	74
第43図	第41次遺構 8	57	第55図	第43次遺物 2	75
第44図	第41次遺構 9	58	第56図	各調査区の武家屋敷内の推定位置	77
第45図	第41次遺構 10	59	第57図	第35・36次遺構群の変遷	78
第46図	第41次遺物 1	62			

## 表目次

第 1 表	第17次遺構一覧表	10	第 9 表	第39次遺構一覧表	45
第 2 表	第17次遺物一覧表	13	第10表	第39次遺物一覧表	46
第 3 表	第28次遺構一覧表	19	第11表	第41次遺構一覧表 1	60
第 4 表	第28次遺物一覧表	23	第12表	第41次遺構一覧表 2	61
第 5 表	第35次遺構一覧表	26	第13表	第41次遺物一覧表 1	66
第 6 表	第35次遺物一覧表	31	第14表	第41次遺物一覧表 2	67
第 7 表	第36次遺構一覧表	33	第15表	第43次遺構一覧表	73
第 8 表	第36次遺物一覧表	37	第16表	第43次遺物一覧表	76

## 図版目次

図版 1	第17次遺構 1	図版17	第39次遺構 2	図版33	第41次遺構14
図版 2	第17次遺構 2	図版18	第39次遺構 3	図版34	第41次出土遺物 1
図版 3	第17次遺構 3	図版19	第39次出土遺物	図版35	第41次出土遺物 2
図版 4	第17次出土遺物	図版20	第41次遺構 1	図版36	第43次遺構 1
図版 5	第28次遺構 1	図版21	第41次遺構 2	図版37	第43次遺構 2
図版 6	第28次遺構 2	図版22	第41次遺構 3	図版38	第43次遺構・出土遺物
図版 7	第28次遺構 3	図版23	第41次遺構 4		
図版 8	第28次遺構 4	図版24	第41次遺構 5		
図版 9	第28次出土遺物 1	図版25	第41次遺構 6		
図版10	第28次出土遺物 2	図版26	第41次遺構 7		
図版11	第35次遺構 1	図版27	第41次遺構 8		
図版12	第35次出土遺物	図版28	第41次遺構 9		
図版13	第36次遺構 1	図版29	第41次遺構10		
図版14	第36次遺構 2	図版30	第41次遺構11		
図版15	第36次遺構・出土遺物	図版31	第41次遺構12		
図版16	第39次遺構 1	図版32	第41次遺構13		

# 第1章 遺跡の立地・環境

## 第1節 遺跡の位置(第1図-遺跡の位置)

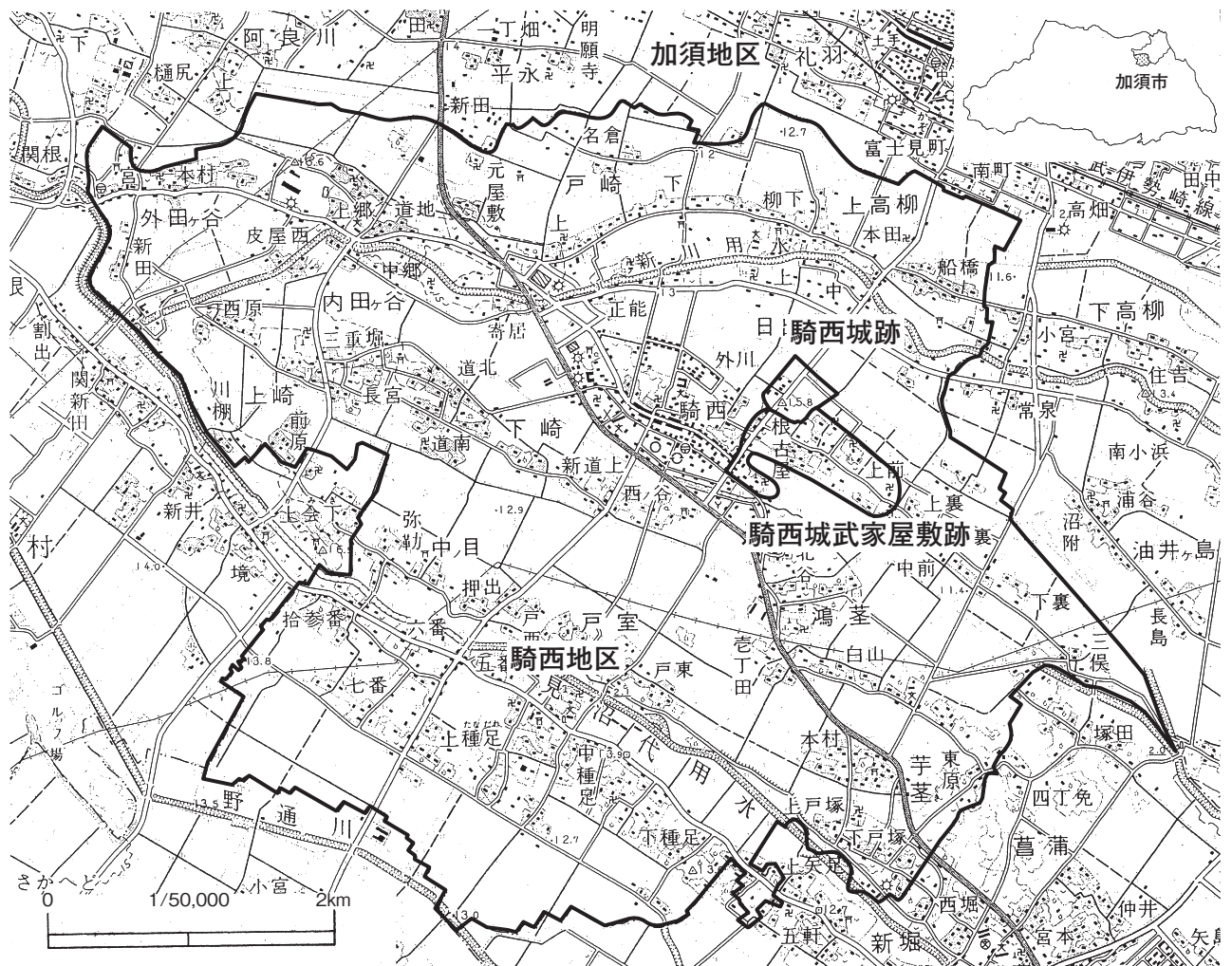
加須市騎西地区は埼玉県北東部に位置し、騎西城武家屋敷跡は地区のほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治9年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

## 第2節 遺跡の地理的環境

(第2図-周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在騎西地区内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。



第1図 遺跡の位置



## 第3節 遺跡の歴史的環境

(第2図及び第3図) ※ (遺跡名) は騎西町史考古資料編1に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直した。

### 1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、(道上)遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

### 2 縄文時代

草創期に(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・(前)・(道上)遺跡で撚糸文系土器、(前)遺跡では集石遺構が、(道上)遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で土器が出土しており、特に修理山・(中宿)遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・(前)・(道上)で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に(道上)・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に(中宿)遺跡で柄鏡形住居・(道上)遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかった。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で加曾利B～後期安行式が出土している。晩期では安行3a～3d式が修理山・町並・(道上)・(前)・(中宿)遺跡で出土している。

### 3 弥生時代

騎西地区内の遺跡は少なく中期では上種足三番遺跡で磨製石鏃が、(道上)遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

### 4 古墳時代

古墳跡は小沼耕地遺跡※で6～7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が、(内田ヶ谷中郷)遺跡で勾玉や埴輪片、(前)遺跡の埴輪片や隣接する(中宿)遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材(地区内の玉敷神社所在)を考えあわせるとこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・(中宿)遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上)遺跡・(中宿)遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地区内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

※町史の上種足三番遺跡を含む

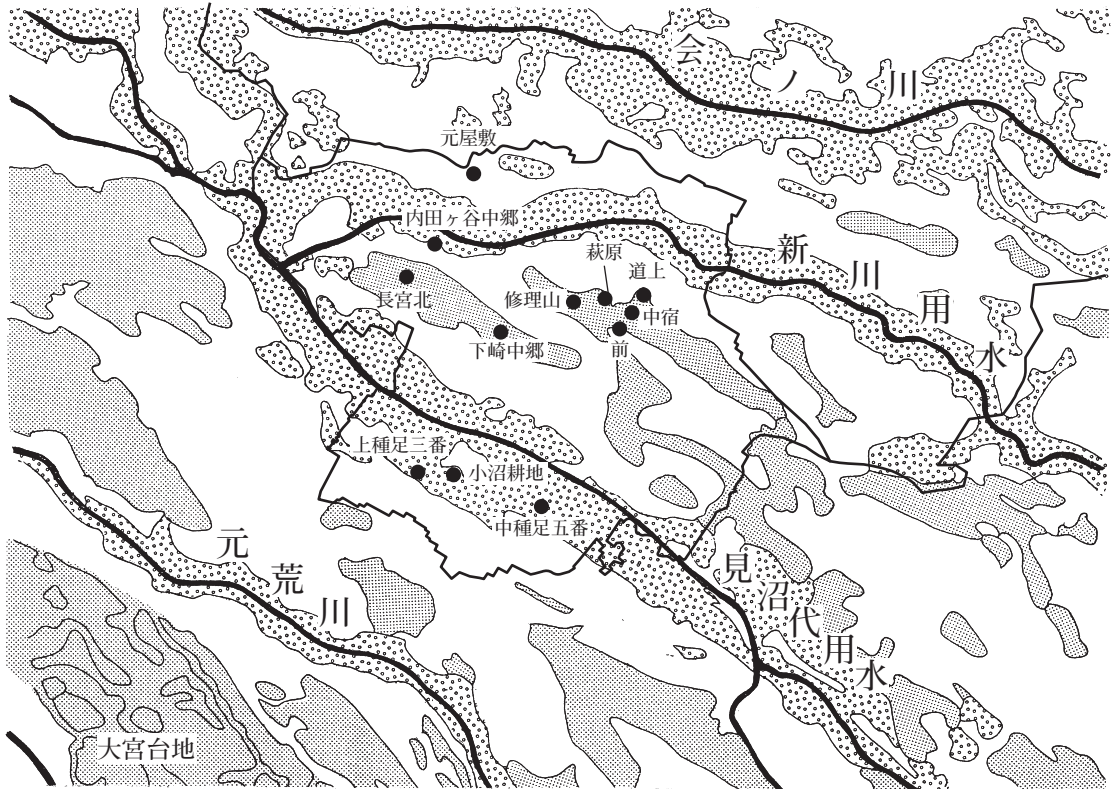
### 5 奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは(道上)遺跡・上種足三番遺跡で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、(中宿)遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦出が土している。

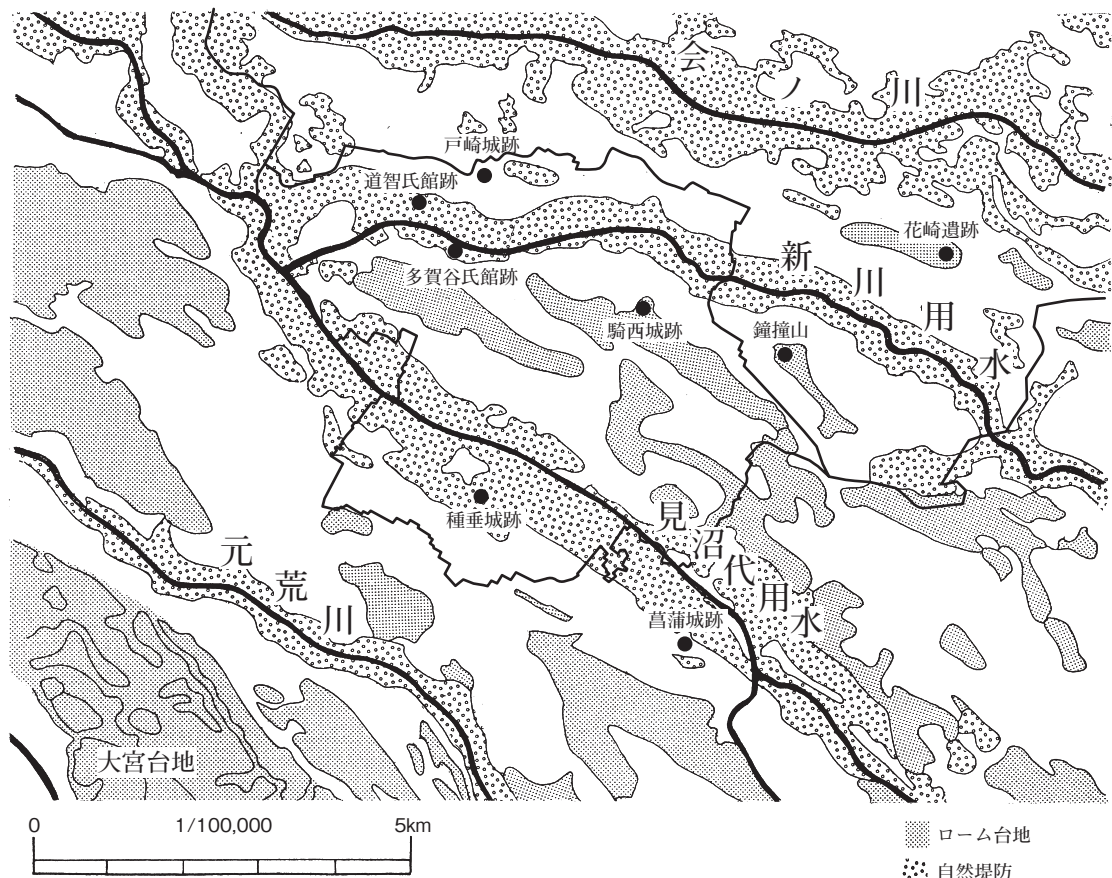
### 6 鎌倉～江戸時代

騎西地区内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏の館は大字内田ヶ谷の大福寺を中心にあつたものと思われ、建久元年(1190)多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年(1251)多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間(1429-41)初め頃に



第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第3図 周辺の微地形分類と城館跡

結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北で、土壙から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

**道智氏館**は、大字道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

**種垂城跡**は、大字上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田顕家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆碗・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・籠状木製品が出土している。

**小沼耕地遺跡**では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

やや南よりの**中種足五番遺跡**では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

**戸崎城跡**は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允の居跡なりとの記載がある。また『吾妻鏡』には戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

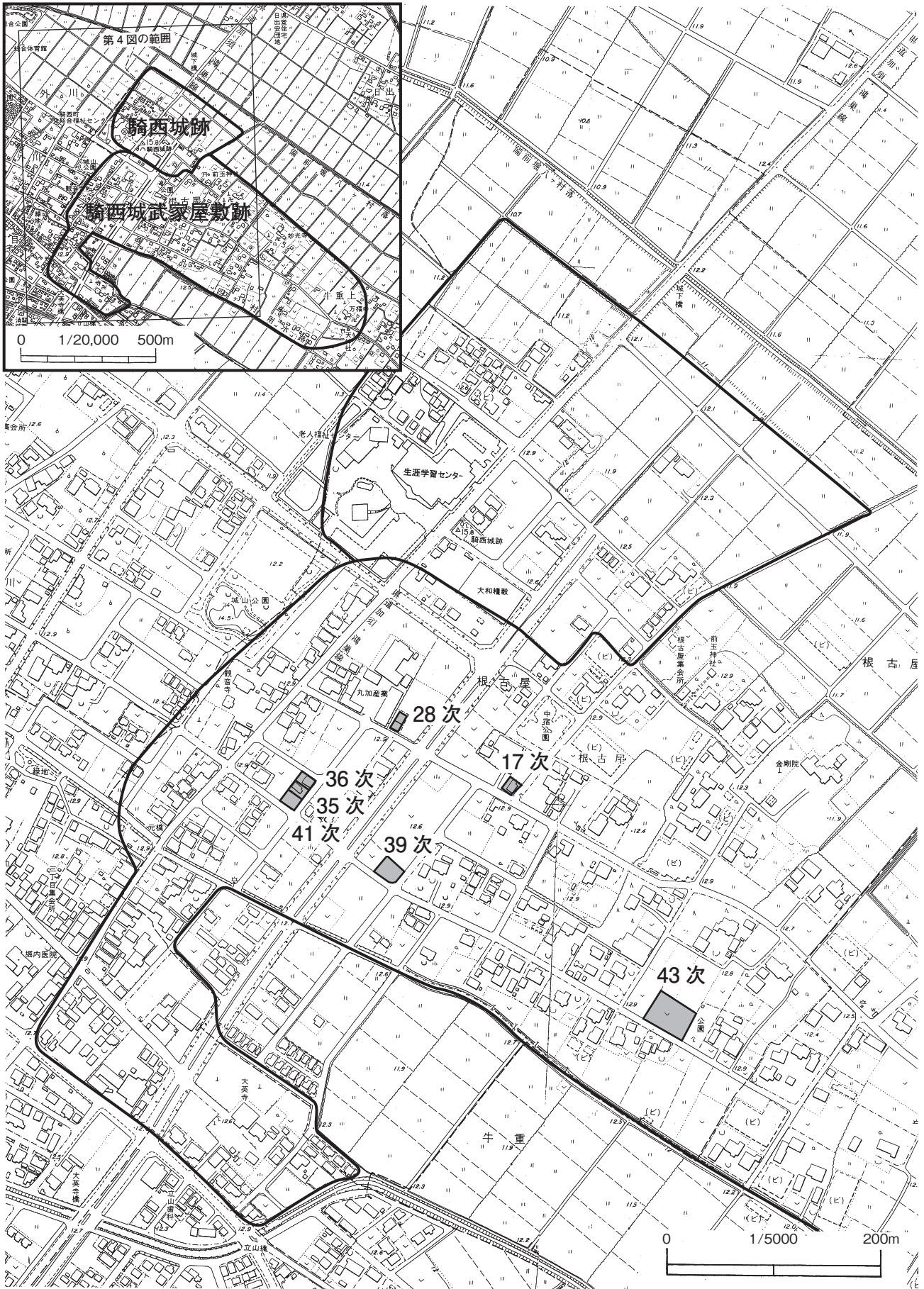
**騎西城**（年表参照）は文献や江戸初期の『武州騎

西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀4ヶ所・橋跡2ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。武器武具では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野杓・腰刀・薙鎌など、生活品では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆碗杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、生業では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鑄型・垣塙・金粒付着土器など、信仰では護符・呪符・舟形・位牌・銅碗・数珠など、流通では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を計れる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

このほかに、大字日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、大字下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

## 騎西城周辺年表

- 康正元年（1455） 足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・疋鼻和など）を攻略する。
- 文正元年（1466） 足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
- 応仁元年（1467） ★応仁の乱
- 文明3年（1471） 上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
- 文亀2年（1502） 騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）・雲祥寺を復興。忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
- 天文8年（1539） 騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる。
- 天文12年（1543） ★鉄砲伝来
- 永禄3年（1560） 長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略。騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。
- 永禄4年（1561） 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱めを受け、北条方となる。助三郎も同様
- 永禄6年（1563） 北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
- 永禄12年（1569） 上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
- 天正2年（1574） 上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩槻城を焼き払う
- 天正3年（1575） 小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
- 天正4年（1576） 騎西城主成田泰喬、家臣に知行を行う
- 天正6年（1578） 小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
- 天正18年（1590） ★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西城2万石を与える
- 天正19年（1591） 松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑1町歩を寄進する
- 慶長元年（1596） 康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる。根古屋・金剛院、日出安から移転する
- 慶長4年（1599） 松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
- 慶長5年（1600） ★関ヶ原の戦い
- 慶長7年（1602） 大久保忠常、騎西城2万石を拝領する
- 慶長8年（1603） ★徳川家康、江戸に幕府を開く
- 慶長11年（1606） 騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
- 慶長16年（1611） 忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西城2万石を拝領する
- 慶長19年（1614） 大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、騎西城主忠職は閉門に処せられる
- 寛永4年（1627） 大久保忠職、久伊豆大明神に社領を寄進する
- 寛永9年（1632） 騎西城廃され、代官所置かれる



第4図 各調査区の位置

## 第Ⅱ章 第17次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成元年10月7日、真田保氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地52街区16画地における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。真田氏と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成2年1月16日付けで真田氏から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

調査協力員

秋池角蔵 新井富子 石井たね 栗原政子  
国分良吉 土屋トヨ 内藤ふく 松村一枝  
柳田典子 吉田美津

文化庁通知 2委保記第5-3805号

平成2年10月22日

調査期間 平成2年7月9日～9月4日

調査面積 67m<sup>2</sup>

(調査の経過)

9.5m×7mの調査区は建設予定地の敷地一杯であるため、排土置き場を確保するため、調査は東と西に分割して行った。初めに西側半分の調査を行った。人力により表土をローム面まで掘り下げ、土壇・井戸・1～3号溝などの調査を行った。遺構の図化は各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより、調査区全体は平板測量により実測した。図化後埋め戻しし、東側の調査も同様に行った。基準杭の標高は区画整理に先立つ発掘調査区(KB1区)に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

私武8・9次、KB16区が北に接しており、未報

告であるが、私武8次では3号溝の延長が、KB16区では障子堀等が確認されている。

### 第2節 遺構と遺物

遺構は調査区全域に広がり、溝はほぼ中央部、土壇は西寄りに分布する。溝は3条・井戸2基・土壇7基が検出されている。

【溝】 ほぼ南北方向に平行するものが3条ある。いずれもしっかりした掘り込みの溝で1・3号溝は断面形箱薬研を呈する

1号溝 幅125cmで3・4号土壇より新しい。

3号溝 幅170cmで規模が最も大きい。

○出土遺物 大窯3期の瀬戸美濃天目(5)・稜皿(6)、油煙付着のかわらけ(7)がある。

【井戸状遺構】 2基を数え中央及び東端に位置する。

1号井戸 3号溝より新しい。漆椀〈腐食〉が出土する。

2号井戸 半分のみ検出。かわらけ(10)出土。土壇と重複し、出土遺物の混入があり得る。

【土壇】 7基検出している。

2号土壇 しっかりした掘り込みで瀬戸美濃播鉢が出土している。

5号土壇 1・4号壇と重複し全形は不明だが長方形と思われる。

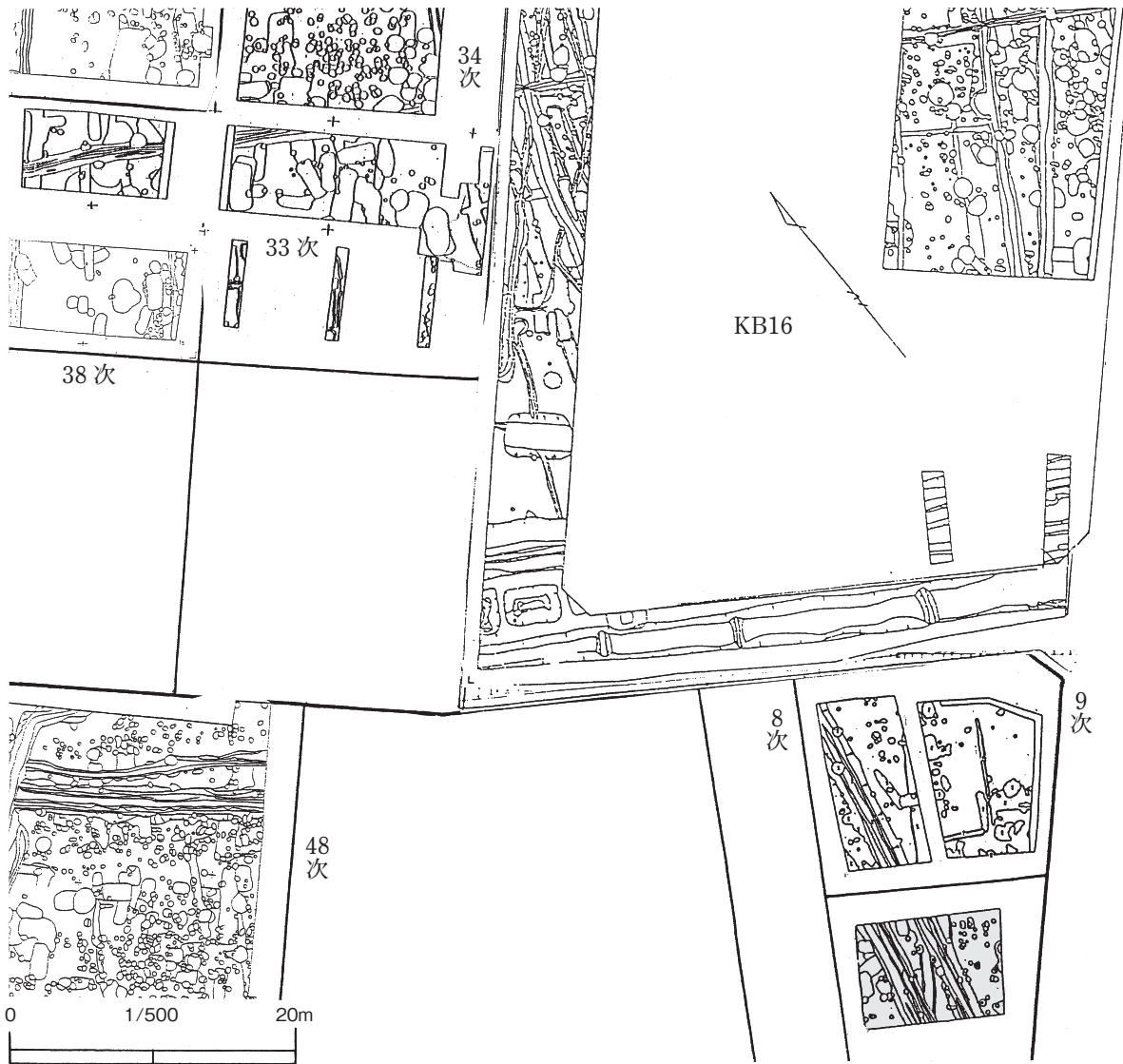
○出土遺物 山形の火打金(15)が出土している。副葬品であろうか。

遺構外遺物

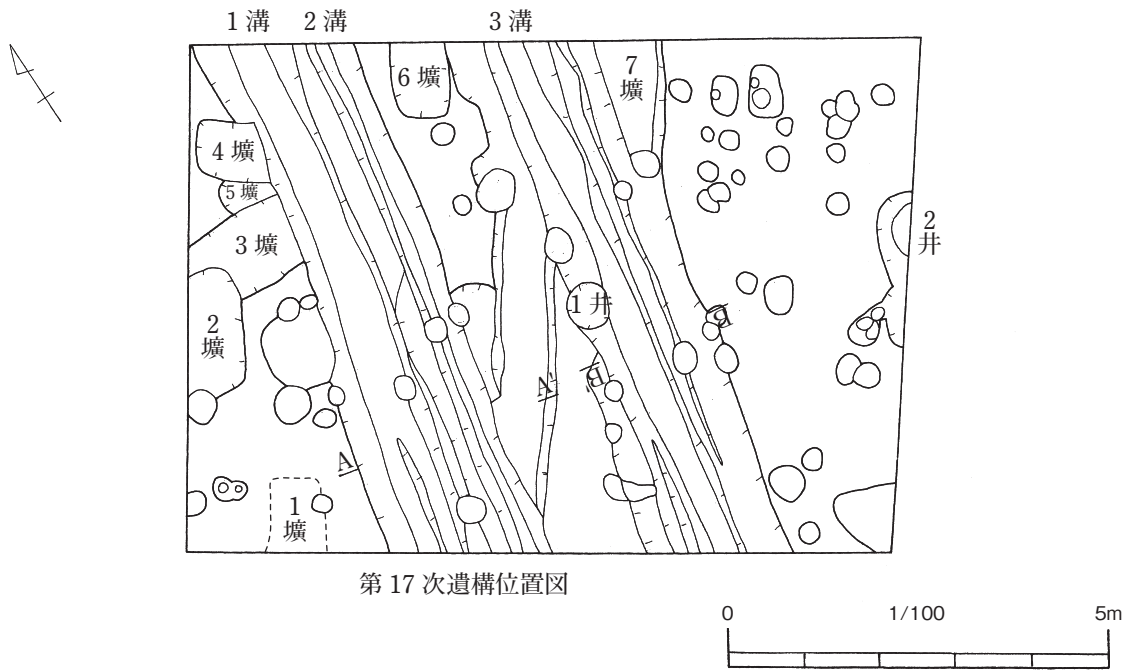
16世紀代の陶磁器も出土している。舶載の盤(19)・皿(20・21)や合子蓋(22)、かわらけがある。金属製品のうち、銅製品では煙管で羅宇を備え完全な物(34)・渡来銭(35)が、鉄製品では火打金(36)・兜の鉢様製品(37)がある。

石製品は粉挽き臼(38)やよく使用された角閃石安山岩製の磨石(39・40)がある。

他に縄文時代後期安行式などの土器片(41～43)や無茎石鏃(44)・磨石(45)がある。

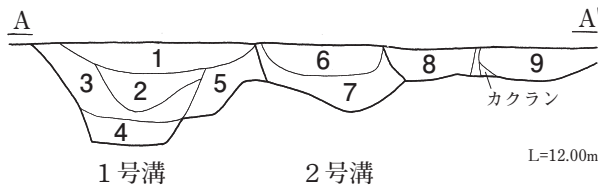


第17次周辺の調査

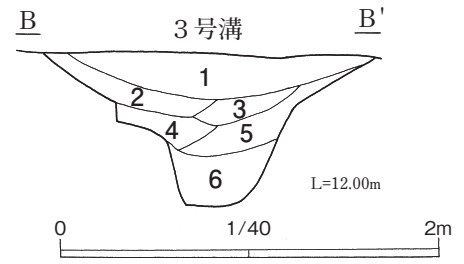


第17次遺構位置図

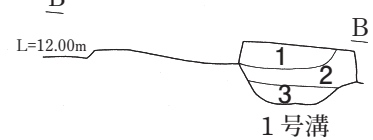
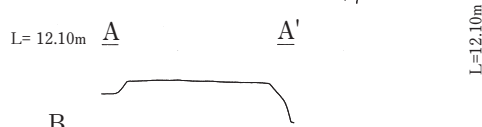
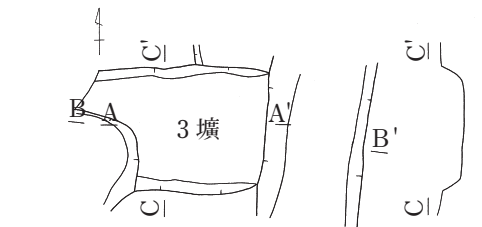
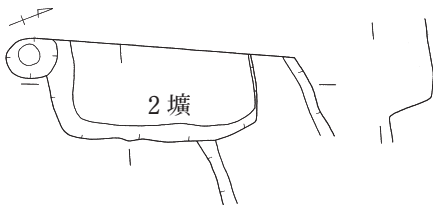
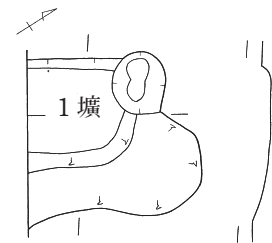
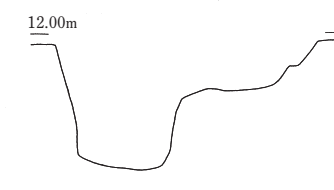
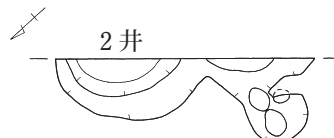
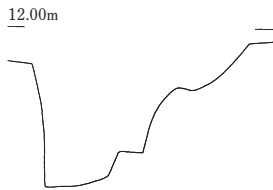
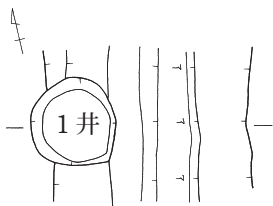
第5図 第17次周辺の調査と遺構位置図



- 1 溝 2 溝 セクション
- 1 暗灰褐色 / LR△, FE, FER やや堅緻
  - 2 暗灰褐色 / LR△, FE, C▲ 縮良
  - 3 暗灰褐色 (やや灰色) / LB, LR, FE 縮良
  - 4 暗灰褐色 / LB○, LR 縮悪
  - 5 暗灰褐色 / LB○, LR○, BBR, FER 縮良
  - 6 暗灰褐色 / T○, LR△, BBR△, FER 縮良
  - 7 暗灰褐色 / LB, LR△, CR▲ 縮良
  - 8 暗灰褐色 / CR, SR△, LR 縮良
  - 9 暗灰褐色 / CR△, LR△ 縮良

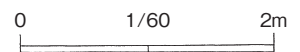


- 3 溝 セクション
- 1 暗灰褐色 / T, FER, LR
  - 2 暗灰褐色 / LR, LB, FE 縮良
  - 3 暗灰褐色 / 白色粘土 B, 白色粘土 R, LR, FE 縮良
  - 4 暗灰褐色 / LB○, LR 縮良
  - 5 暗灰褐色 / FE○, LR 縮良
  - 6 暗灰褐色 (やや暗) / LB, LR, 暗褐色 B△, FE 縮良



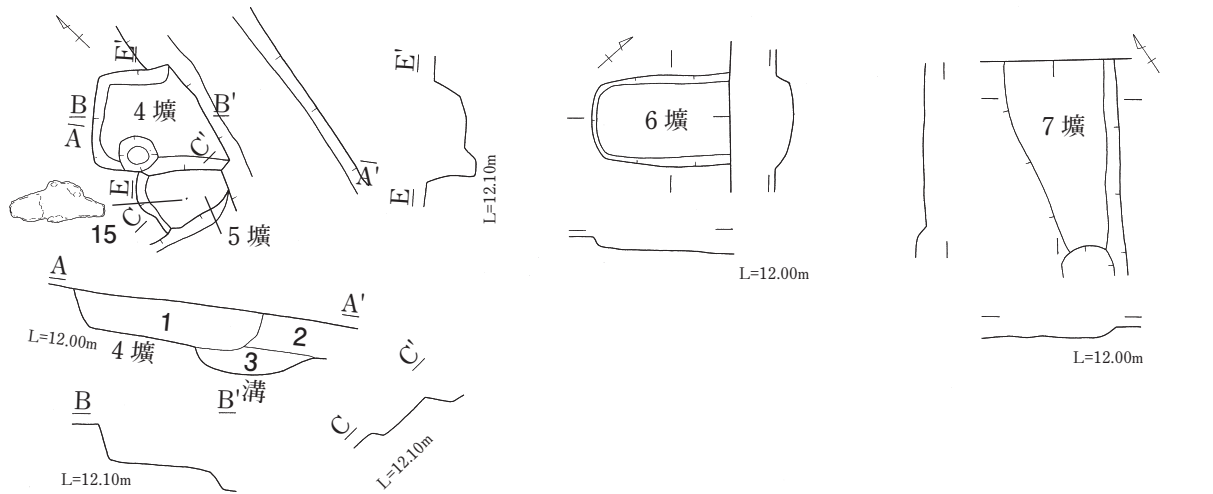
- 土層説明凡例
- 色調/含有物
  - テフラ=T
  - ローム=L
  - 炭化物=C
  - 焼土=S
  - 酸化鉄=FE
  - 黒褐色=BB
  - 黒色=B
  - 褐色=Br
  - 粒子=R
  - ブロック=B
  - 非常に多い=☆
  - 多量=○
  - 少量=△
  - 微量=▲
  - 万遍なく=アンダーライン
  - やや明るい=やや明
  - やや暗い=やや暗
  - 非常にやわらかい=軟度高
  - やわらかい=軟質
  - やややわらかい=軟度低
  - かたい=堅緻
  - 縮まり良し=縮良
  - 縮まり悪し=縮悪
  - 粘性強し=粘強
  - 粘性有り=粘有

- 3 坑 セクション
- 1 暗灰褐色 / LR, CR, 灰色 B 縮良
  - 2 暗灰褐色 / LR, T, FER 縮良
  - 3 暗灰褐色 (灰色) / LB, LR, FER 縮良



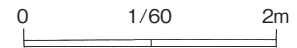
第6図 第17次遺構 1





4 壙セクション

- 1 暗灰褐色 / LB, LR◎, S△, T△ 締良
- 2 暗灰褐色 / LR, T, FER 締良
- 3 暗灰褐色 (灰色) / LB, LR, FER△ 締良

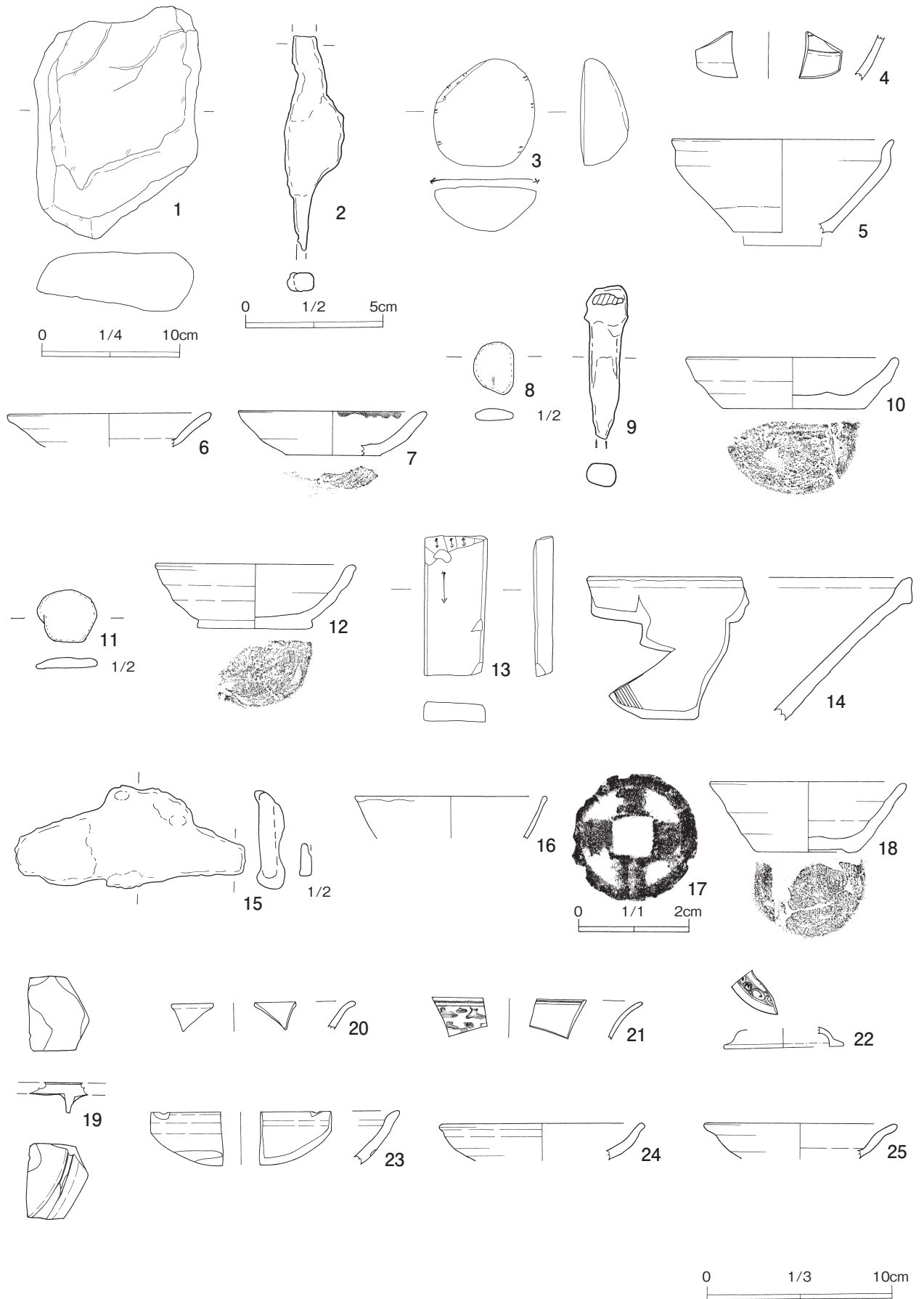


第7図 第17次遺構2

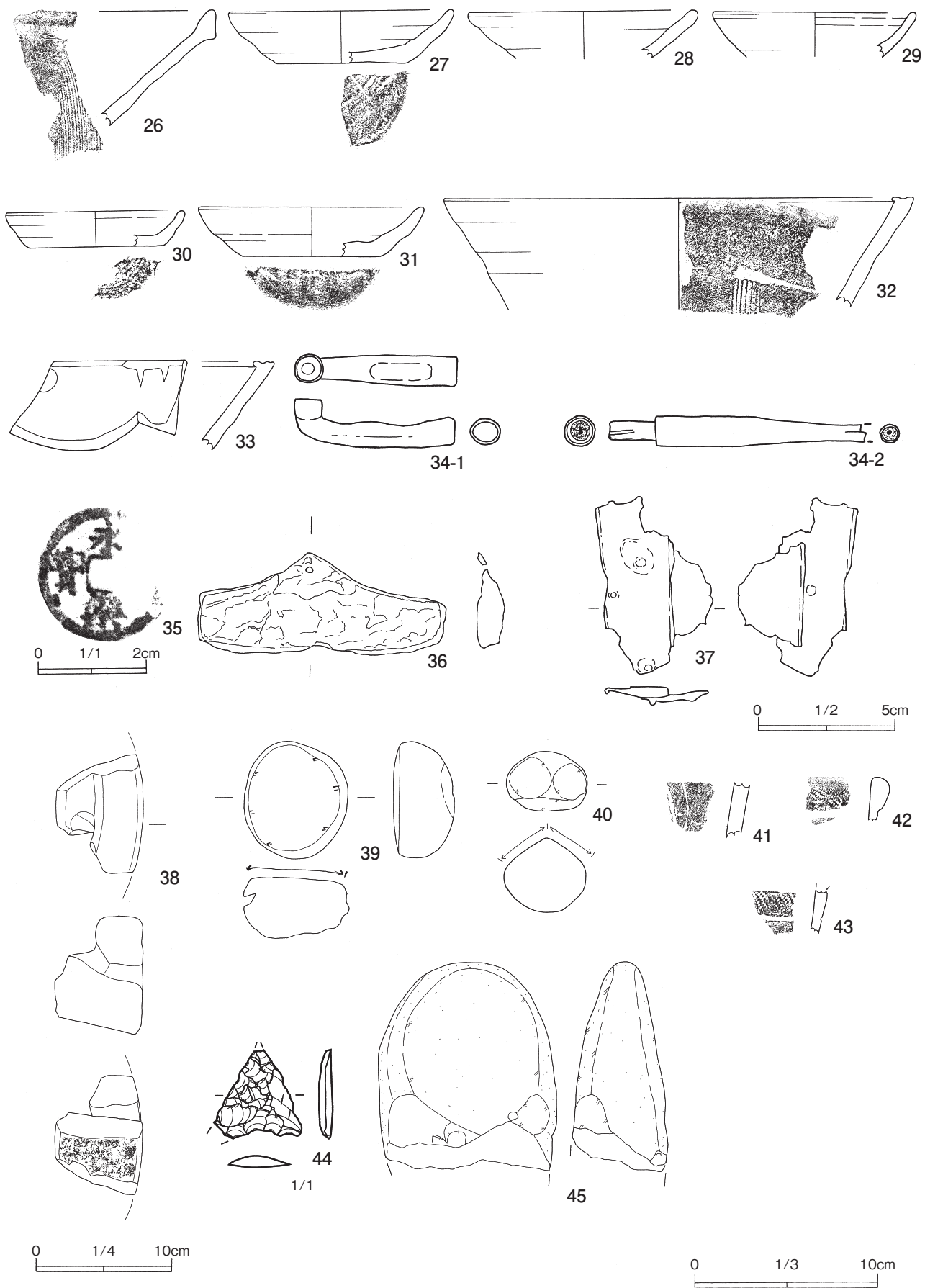
( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該機遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代
1号溝	○→3・4壙、1P / ? 5壙、2溝	直線	箱葉研	幅☆125	☆54	暗灰褐色	焙烙/かわらけ/板碑	
2号溝	1溝	直線	ほぼ直上	幅☆(80)	☆38	暗灰褐色	軽石/釘	
3号溝	○→1井/? 7壙	直線	箱葉研(上部広)	幅☆170	☆84	暗灰褐色/含LR・C・(T) - 上層	龍泉(青磁碗=12中~13c末)/瀬美(稜皿・天目)=大3/かわらけ=15中~16c前/焙烙	16c 後~
1号井戸	3溝→○	円形	ほぼ直上	70	114	暗灰褐色/含上層LR	かわらけ	
2号井戸	なし	円形	ほぼ直上	120	98	不明	素焼播鉢/かわらけ=17c前/焙烙	17c前~
1号土壙	なし	長方形	ゆるやか	88×(87)	12	暗灰褐色/含LR・LB(少)・SR(少)	かわらけ=16c中	
2号土壙	○→3壙	長方形	ほぼ直上	116×(76)	☆36	暗灰褐色/含LB・LR・T(上層)C(上層)	志戸呂(大皿=16~17c前)/かわらけ	16c-
3号土壙	1溝、2壙→○	長方形	ほぼ直上	(138)×102	☆20	暗灰褐色(灰味)/含LB(多)・LR(多)	常滑(甕)/火鉢/素焼播鉢/砥石/かわらけ	
4号土壙	1溝→○	長方形	ほぼ直上	(110)×78	☆32	暗灰褐色/含LB・LR(多)・S・T(少)	瀬美(播鉢)/かわらけ	
5号土壙	4壙→○	長方形?	ほぼ直上	(72)×50	10	不明	火打金	
6号土壙	なし	長方形	ほぼ直上	(110)×72	13	暗灰褐色/含LR・LB・CR(微)		
7号土壙	3溝	不整長方形	ゆるやか	(152)×86	10	不明	中国(白磁碗=16末~17c前)	16c末~

第1表 第17次遺構一覧表



第8図 第17次遺物 1



第9図 第17次遺物2

( ) は残存値、\*は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	磨石	石(緑泥片岩)	1溝(No. 17)	12.7	9.1	3.1			0017-0001	
2	釘(角)	鉄	2溝(No. 16)	7.8	0.6	—			0017-0001	
3	磨石	石(角閃石安山岩)	2溝(No. 15)	5.7	5.6	2.7			石002	
4	青磁碗	龍泉窯系中国	3溝	—	—	—	A-2	12c 中~13c 末	青001	
5	天目	瀬戸美濃	3溝、一括	*12.0	—	—	大3		天001	
6	稜皿	瀬戸美濃	3溝(No. 11)	*11.0	—	—	大3		皿002	
7	かわらけ	在地	3溝(No. 9)	*10.2	*5.2	2.4		15c 中~16c 前	K004	油煙付着
8	碁石?	石	2井	1.9	1.5	0.5			0017-0001	
9	釘(角)	鉄	3井	5.5	1.1	—			0017-0002	楔状
10	かわらけ	在地	2井、4P	*11.6	*7.6	2.8		17c 前	K008	見込ナデ
11	碁石?	石	3井	1.9	2.2	0.4			0017-0002	
12	かわらけ	在地	1壙(No. 2)	*10.8	*6.2	3.5		16c 中	K003	黒色付着物、 見込ナデ
13	砥石	石(泥岩)	3壙、一括	(7.8)	3.3	0.9			石004	
14	播鉢	瀬戸美濃	4壙(No. 1)、一括	—	—	—			鉢004	
15	火打金	鉄	5壙(No. 1)	8.4	3.6	0.6			町金046 0017-0004	
16	白磁碗	中国	7壙(No. 2)	*10.4	—	—		16c 末~17c 前	白001	
17	銭貨(元豊通宝)	銅	7P	—	—	—			0017-0002	
18	かわらけ	在地	9P、No. 13	*10.6	6.0	3.8		不明	K009	
19	青磁盤	龍泉窯系中国	No. 10	—	—	—		13c~14c	青002	
20	白磁皿	中国	一括	—	—	—	C-1	15c 後~16c	白002	
21	染付皿	中国	一括	—	—	—	B-1	15c 中~16c 後	染001	
22	染付合子蓋	中国	一括	*6.4	—	—		16c 末~17c	染002	
23	平碗	瀬戸美濃	一括	—	—	—	古後Ⅲ		碗001	
24	丸皿	瀬戸美濃	一括	*11.2	—	—	大2		皿001	
25	稜皿	瀬戸美濃	一括	*10.4	—	—	大2		皿003	
26	播鉢	瀬戸美濃	一括	—	—	—			鉢003	
27	かわらけ	在地	No. 4	*12.4	*7.2	2.9			K001	見込ナデ
28	かわらけ	在地	一括	*12.4	—	—			K002	
29	かわらけ	在地	一括	*11.2	—	—			K005	
30	かわらけ	在地	一括	*9.8	*7.4	1.9			K006	回転糸切
31	かわらけ	在地	一括	*12.4	*7.6	2.7			K007	
32	播鉢	在地	一括	*25.6	—	—			鉢001	
33	播鉢	在地	一括	—	—	—			鉢002	
34-1	煙管(雁首)	銅	一括	6.0	1.05	1.85			0017-0001	羅字遺存
34-2	煙管(吸口)	銅	一括	9.4	1.1	—			0017-0002	
35	銭貨(永楽通宝)	銅	一括	—	—	—			0017-0001	
36	火打金	鉄	一括	9.1	3.6	—			0017-0003	
37	兜の鉢様製品	鉄	一括	(4.0)	(6.6)	0.2			0017-0005	
38	粉挽き臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	一括	(8.8)	(6.4)	8.6			石003	
39	磨石	石(軽石)	一括	4.4	1.9	—			石001	
40	磨石	石(角閃石安山岩)	一括	3.3	4.4	4.1			00017-0002	
41	縄文土器	土器	3溝	—	—	—				
42	縄文土器	土器	2井	—	—	—	安行			
43	縄文土器	土器	1P	—	—	—	安行			
44	石鏃	石(黒曜石)	一括	16.4	16.1	2.6			0017-0001	
45	磨石	石	11P	(11.5)	9.5	5.2				縄文時代

第2表 第17次遺物一覧表

## 第三章 第28次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成3年12月5日、開発者近藤征夫氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地33街区6画地(の一部)における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成3年12月12日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

調査協力員

梓沢ユキ子 大熊文 岡田光子 小坂忠一  
佐藤ヨシ 山口保夫

文化庁通知 4委保記第5-326号

平成4年4月8日

調査期間 平成4年1月27日～3月13日

調査面積 93m<sup>2</sup>

(調査の経過)

建設予定位置に9.5m×8.5mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。庭予定地の遺構を探るため西側にトレンチを設定した。西北側にサブトレンチを入れローム面を確認しそのレベルまで一気に掘り下げた。途中かわらけ集中や焼土・焼骨が出土した。確認面では溝・井戸土壇・などの調査を行った。西端で確認された1号溝はトレンチ北側で東へ屈曲し規模・断面形態からKB10の4号溝に相当すると思われる。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後にピット・縄文時代遺構の精査を行った。

(周辺の調査)

KB10・4・8区に近い。遺構の連続性を想定で

きるのはKB10区であり、調査区南に「コ」の字状に巡る1・4号溝は15世紀後半～16世紀前半までの陶磁器が出土している。また井戸は54基、ピットは調査区全面に広がる。

### 第2節 遺構と遺物

遺構は溝2条・井戸3基・土壇6基の他に遺物集中箇所がある。

【溝】調査区西端の1号溝が大規模である。

**1号溝** 南端の東西に走る溝の底面は深く、北端ではセクションから切り合いが見られる(第11図Aライン右端)。以上のことから最大3条の溝が重複している可能性がある。しかし溝の南端が東へ屈曲することが確認され、KB10区1・4溝と規模・形態は一致しないが、連続し方形を呈するものとしておく。

○出土遺物 15～16世紀代のもの。古瀬戸平碗(1)

・在地片口鉢・栗の実表皮・銭貨(3～5)がある。

【井戸状遺構】北東寄りで3基、トレンチで1基検出された。

**2号井戸** 不整形で北に段を有する。覆土にテフラを含む。

**3号井戸** 半分のみ調査。覆土上層にソフトロームが2次的に堆積している。

【土壇】5基検出された。

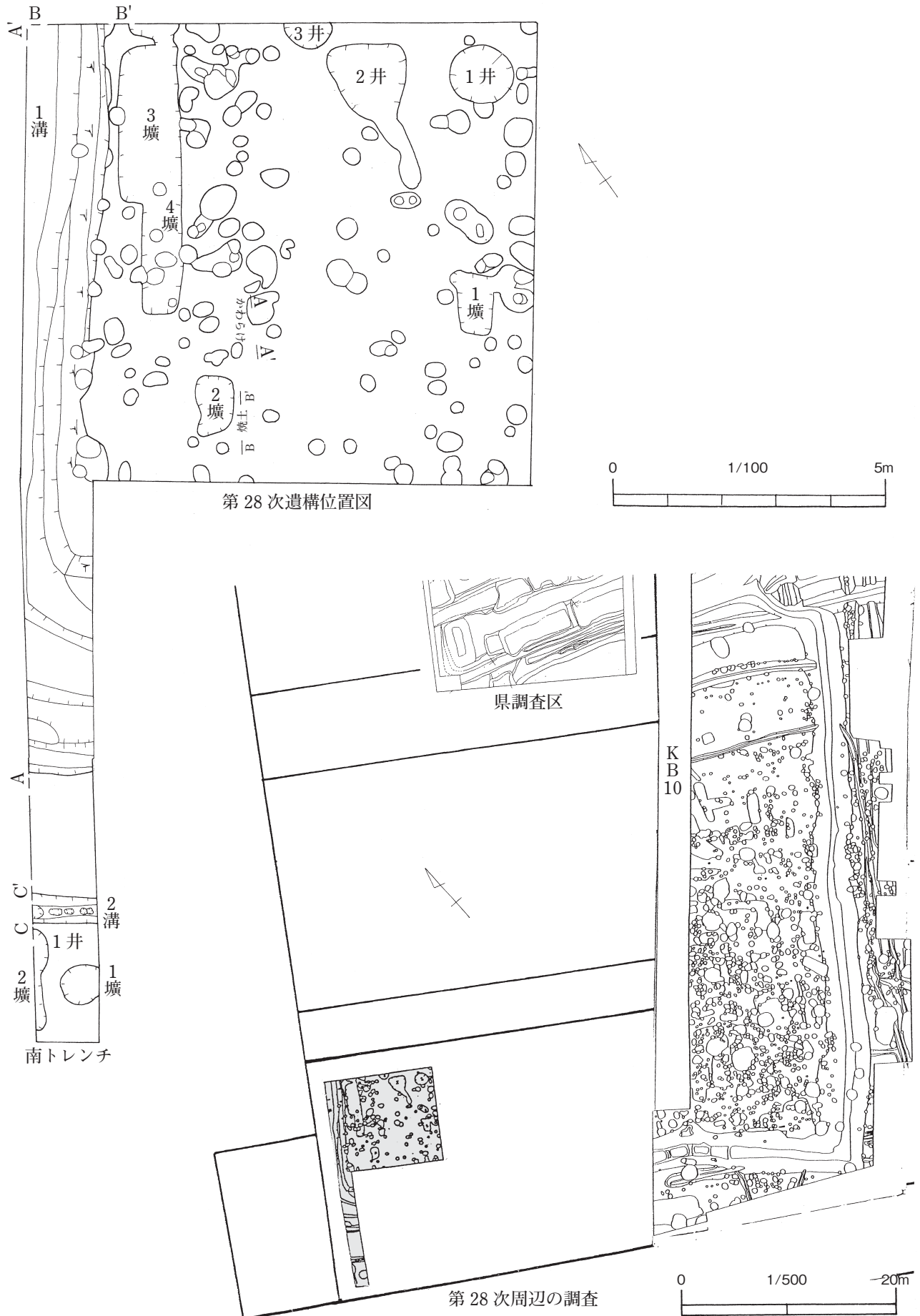
**1号土壇** 長方形を呈し骨が出土している。墓壇。

【ほか】

**かわらけ集中** 調査区南西部に黒色土上20cmでかわらけの良好な破片が5点直列に集中して出土した(11～15)。また竹と木の炭化物を伴う。墓壇か。

**焼土等集中** 調査区南西部(かわらけ集中南)に黒色土を掘り込み、骨片・骨粉・焼土・炭化物が集中する。火葬跡か。

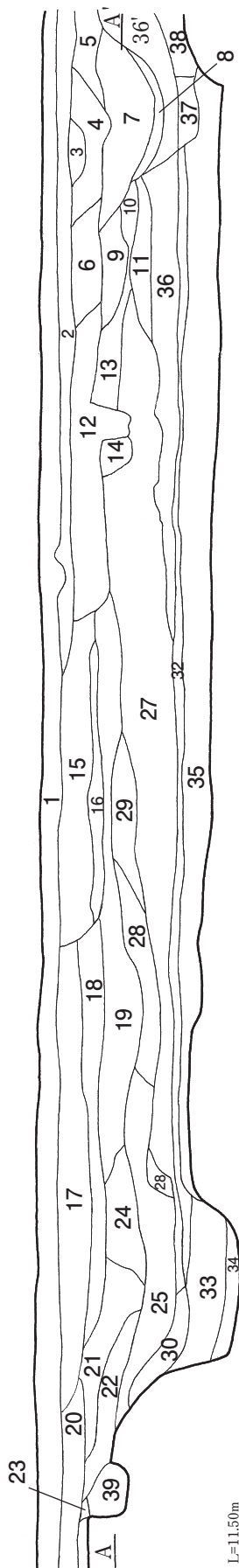
遺構外では13～15C代の青磁(17・18)・白磁(19・20)・染付(21)、瀬戸美濃天目(23・24)・志野皿(25)・縁釉皿(26)・織部向付(28)、砥石(38・39)・石臼(42～44)・五輪塔の水輪様の磨石(45)・吹子の羽口・スラグ660g・縄文土器(46～65)などが出土している。



第28次遺構位置図

第28次周辺の調査

第10図 第28次周辺の調査と遺構位置図



L=11.50m

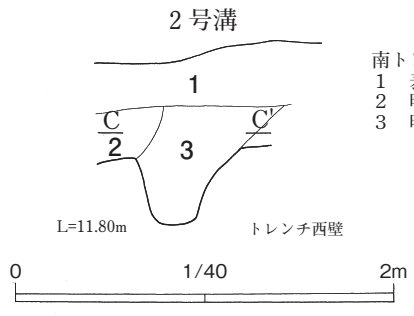
L=11.90m



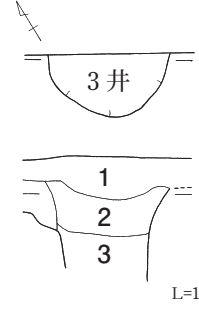
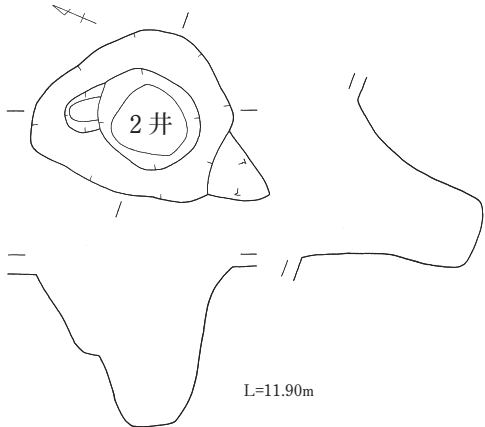
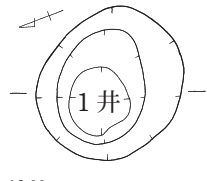
- |  |   |
|--|---|
| 1 溝セクション                               | 21 暗灰褐色/LR-LB☆, BBR, C-SR▲ 縮良             |
| 2 表土                                   | 22 暗灰褐色/LR, LB◎, FE, BBR 縮良               |
| 3 暗灰褐色/T-LR◎, C, SR 縮良                 | 23 暗灰褐色/BBB, LR 縮良                        |
| 4 暗灰褐色/LB-LR◎, C-SR△ 縮良                | 24 暗灰褐色/LB, LR, CR△ 縮良                    |
| 5 暗灰褐色/LR◎, CR◎, LB, T 縮良              | 25 暗灰褐色(灰色)/FE-FER◎, LB, LR, BBR 縮良       |
| 6 暗灰褐色/LR◎, LB, CR, 灰色R 縮良             | 26 欠番                                     |
| 7 LB (ノフト・ハード・フラック) の2次堆積              | 27 暗灰色(灰色)/FE-FER◎, LR, BBR, 灰色・白色・BBB 縮良 |
| 8 灰色/LR, CR, FE◎, SR▲ 縮良               | 28 暗灰色/LB, BBB, BBR, FE, LR 縮良            |
| 9 暗灰褐色/BBR, LR, CR△ 縮良                 | 29 暗灰褐色/LB, T, FE▲, LR                    |
| 10 暗灰色/LR, BBR, FE, FER, CR 縮良         | 30 暗灰色/LB, LR, FE, BBR△ 粘やや有              |
| 11 暗灰色/LR-LB◎, 灰色B, CR△, FER 縮良        | 31 欠番                                     |
| 12 暗灰褐色/C-CR◎, LB, LR, SR, BBR, 灰色B 縮良 | 32 暗灰色粘質土/有機物                             |
| 13 暗灰褐色/LB, LR, FE, FER, BBR 縮良        | 33 灰黒色/LR, FE△, BBR, 有機物 粘有               |
| 14 暗灰褐色/LR☆, LB☆, C, CR, SR△ 縮良        | 34 灰白色粘質土/LR 粘強                           |
| 15 暗灰褐色/LR☆, LB☆, C, CR, SR△ 縮良        | 35 灰黒色/LR, FE△, BBR, 有機物 粘有               |
| 16 暗灰褐色/LR△, FER△, T 縮良                | 36 暗灰色(黄色)/LR, 灰色B, FE◎, CR 粘有            |
| 17 暗灰褐色/LR, CR, T, SR 縮良               | 36' 暗灰色/FE☆, LR, CR 粘強                    |
| 18 暗灰褐色/LR◎, C-BBR◎, LB, 白色R・B 縮良      | 37 暗灰色/FE◎, LR△ 粘強                        |
| 19 暗灰褐色/LR-LB-BBR◎ 下層との接触面に酸化層         | 38 暗灰色/FE, LR, BBR, LB 粘やや強               |
| 20 暗灰褐色/LR, C, SR, BBR 縮良              | 39 暗灰褐色/LR▲, FER 縮良                       |
|  | 40 暗灰色/LR, FER, BBR 縮良                    |

- 土層説明凡例
- 色調/含有物
  - テフラ=T
  - ローム=L
  - 炭化物=C
  - 焼土=S
  - 酸化鉄=FE
  - 黒褐色=BB
  - 黒色=B
  - 褐色=Br
  - 粒子=R
  - ブロック=B
- 非常に多い=☆  
 多量=◎  
 少量=△  
 微量=▲  
 万遍なく=アンダーライン  
 やや明るい=やや明  
 やや暗い=やや暗  
 非常にやわらかい=軟度高  
 やわらかい=軟質  
 ややわわらかい=軟度低  
 かなた=堅緻  
 縮まり=縮良  
 縮まり悪し=縮悪  
 粘性強し=粘強  
 粘性有り=粘有

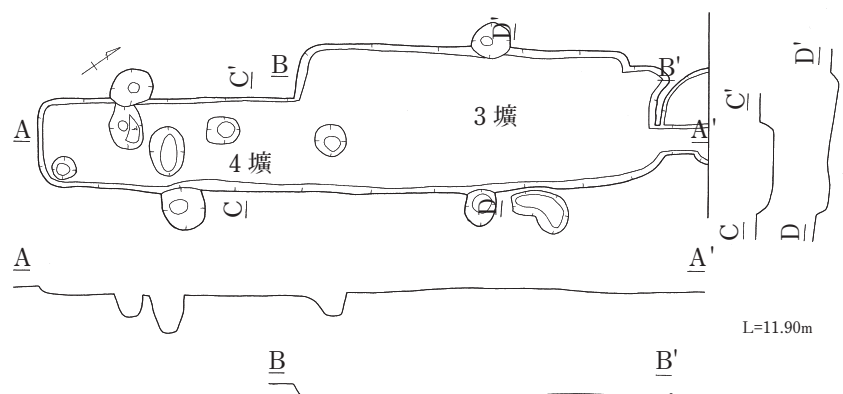
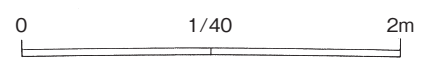
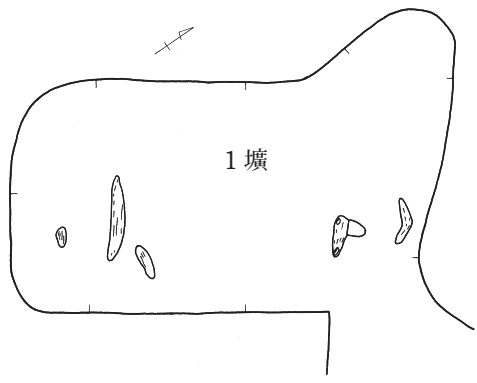
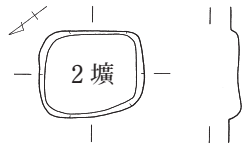
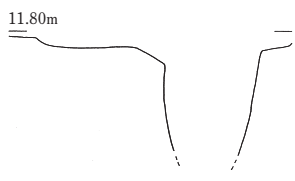
第11図 第28次遺構1



南トレンチ2溝セクション  
 1 表土  
 2 暗灰褐色/LB、BBB、S、CR 縮良  
 3 暗灰褐色/LB、BBB、LR 縮良

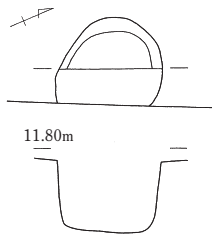


3井セクション  
 1 表土  
 2 L (ハード・ソフト) の2次堆積  
 3 灰褐色/FE、C、LR 縮良

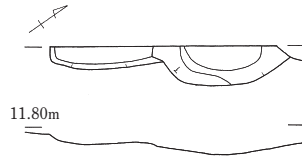


第12図 第28次遺構 2

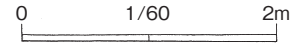




南トレンチ 1 壙



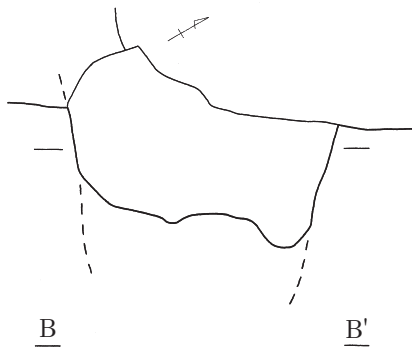
南トレンチ 2号土壙



かわらけ集中

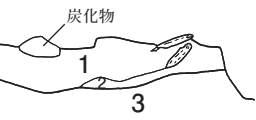
L=12.10m

かわらけ集中セクション  
 1 暗灰褐色/S、CR、LR 締良  
 2 黒褐色/地山

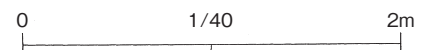


焼土等集中

L=12.10m



焼土等集中セクション  
 1 暗灰褐色/骨片、骨粉、SR・B、C、CR 締良  
 2 暗灰褐色/C、CR  
 3 黒褐色/地山



第13図 第28次遺構3

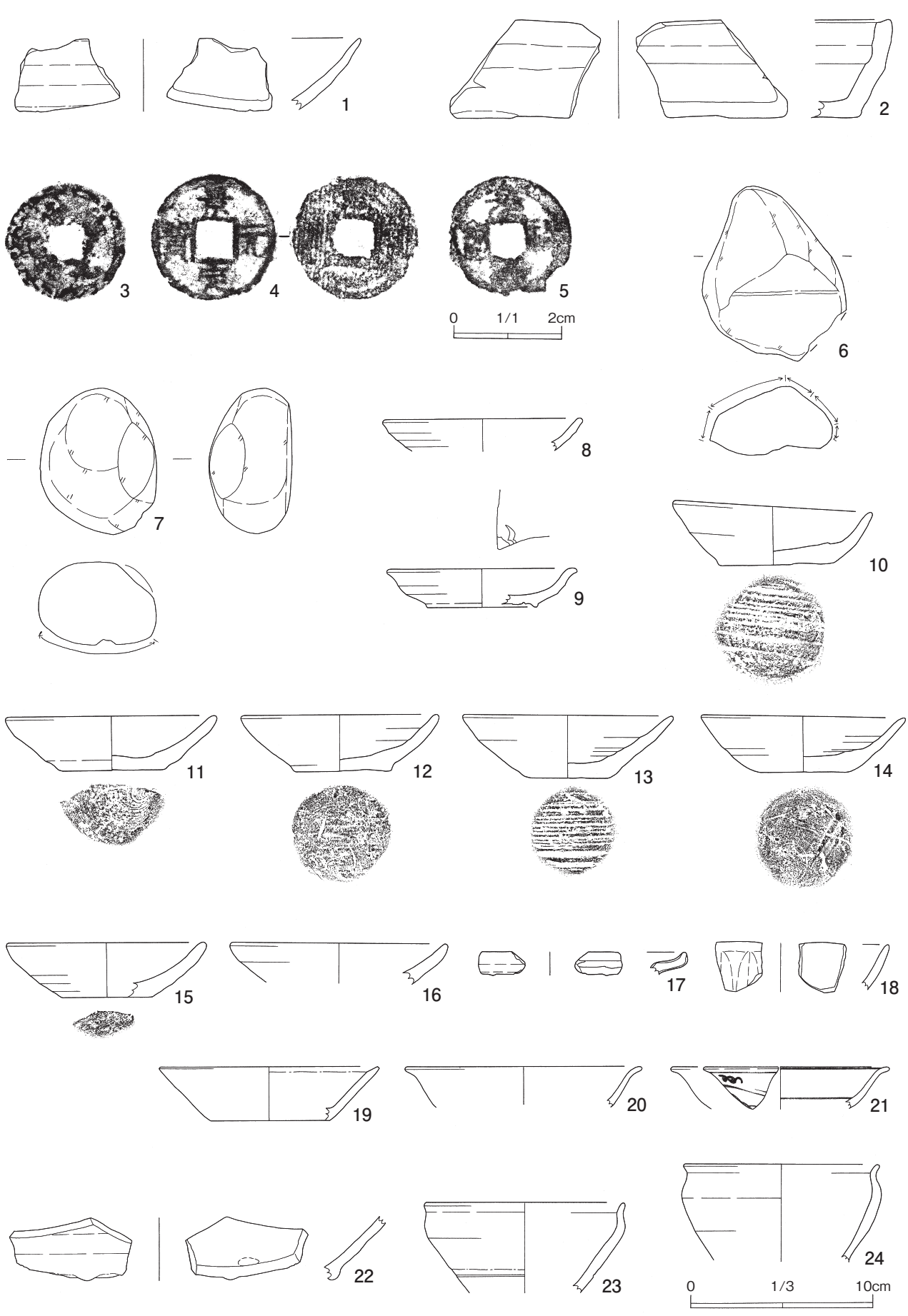
( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	なし	L字形に屈曲する	箱葉研	幅☆(172)	☆138	暗灰褐色	瀬美(平碗=古後Ⅱ)/片口鉢=16c/素焼播鉢/焙烙/桃種子1/スラグ130g	16c～	
2号溝	なし	直線	箱葉研	幅☆(78)	☆64	暗灰褐色/含LB・LR・BBrB			
1号井戸	なし	円形	ほぼ直上	122	138	上層暗灰褐色/含LR・SR・CR・C	焙烙/かわらけ/軽石		
2号井戸	なし	楕円形	ほぼ直上	160×120	126	上層暗灰褐色/含T・SR・CR・LR・LB	瀬美(水滴=不明、丸皿=大3)/素焼播鉢/焙烙/かわらけ/スラグ70g	16c 中～	
3号井戸	なし	円形	ほぼ直上	☆100	☆(80)	上層ロームの2次堆積	素焼播鉢/かわらけ/焙烙		
1号土壇	なし	長方形		116×60	不明	不明	骨・白歯		頭位北?
2号土壇	なし	長方形	ほぼ直上	84×70	10	不明			
3号土壇	4壇	長方形	ほぼ直上	256×(45)	10	不明	瀬美(端反皿=大1)/かわらけ	15c 末～	4壇と同じもの
4号土壇	3壇	長方形	ほぼ直上	495×74	12	不明	瀬美(端反皿=大1)/かわらけ	15c 末～	
南T 1号井戸	○→南T2壇	円形?	ほぼ直上	102×(32)	☆(82)	不明			
南T 1号土壇	なし	円形	直上	80	☆60	暗灰褐色/含LR・BBrB・LB・FeR しまり良し			
南T 2号土壇	南T1井→○	長方形?	ゆるやか	(88)×(20)	☆36	暗灰褐色/含T・LR・BBr・しまり良し			
焼土等集中	2壇→○	不整形		72×42	☆15	暗灰褐色/含骨片・骨粉・SR・SB	骨(腕脚? 150g)/炭化物		遺物のみ火葬跡?
かわらけ集中				80×22	☆20	暗灰褐色/含S・CR・LR	かわらけ=15中～16c前炭化竹30g	15c 中～	遺物のみ墓壇?

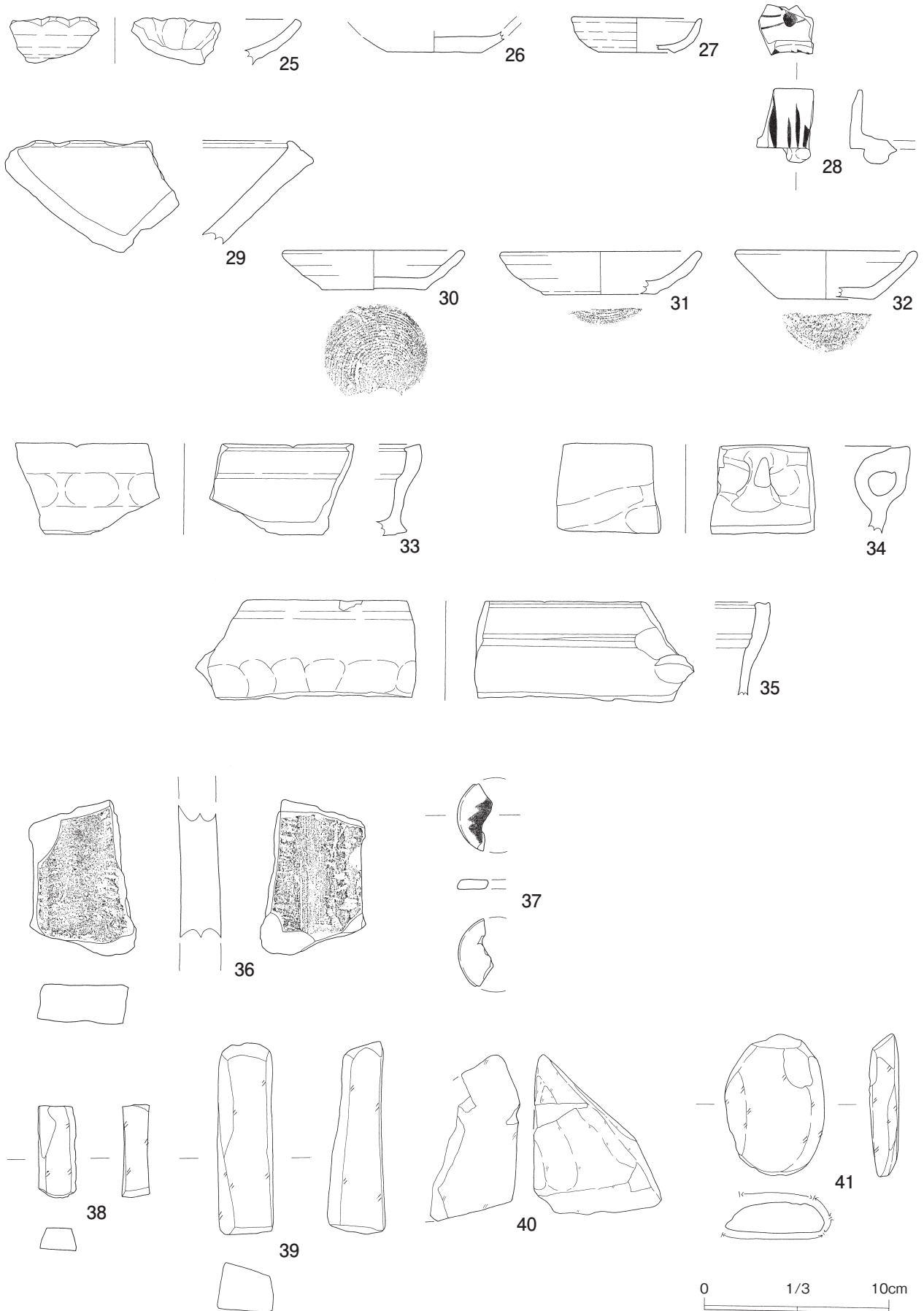
第3表 第28次遺構一覧表



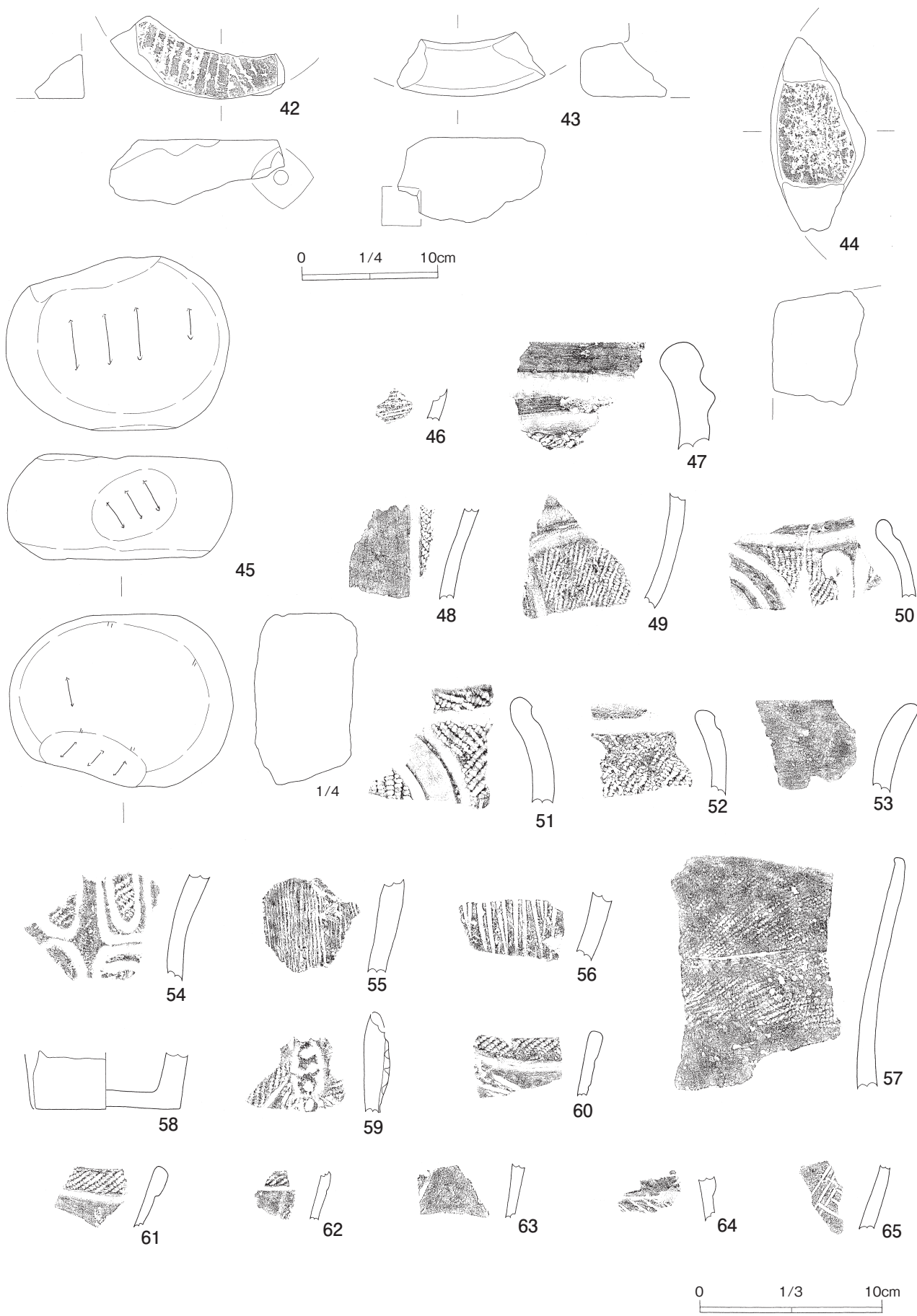
調査前風景



第14図 第28次遺物 1



第15図 第28次遺物 2



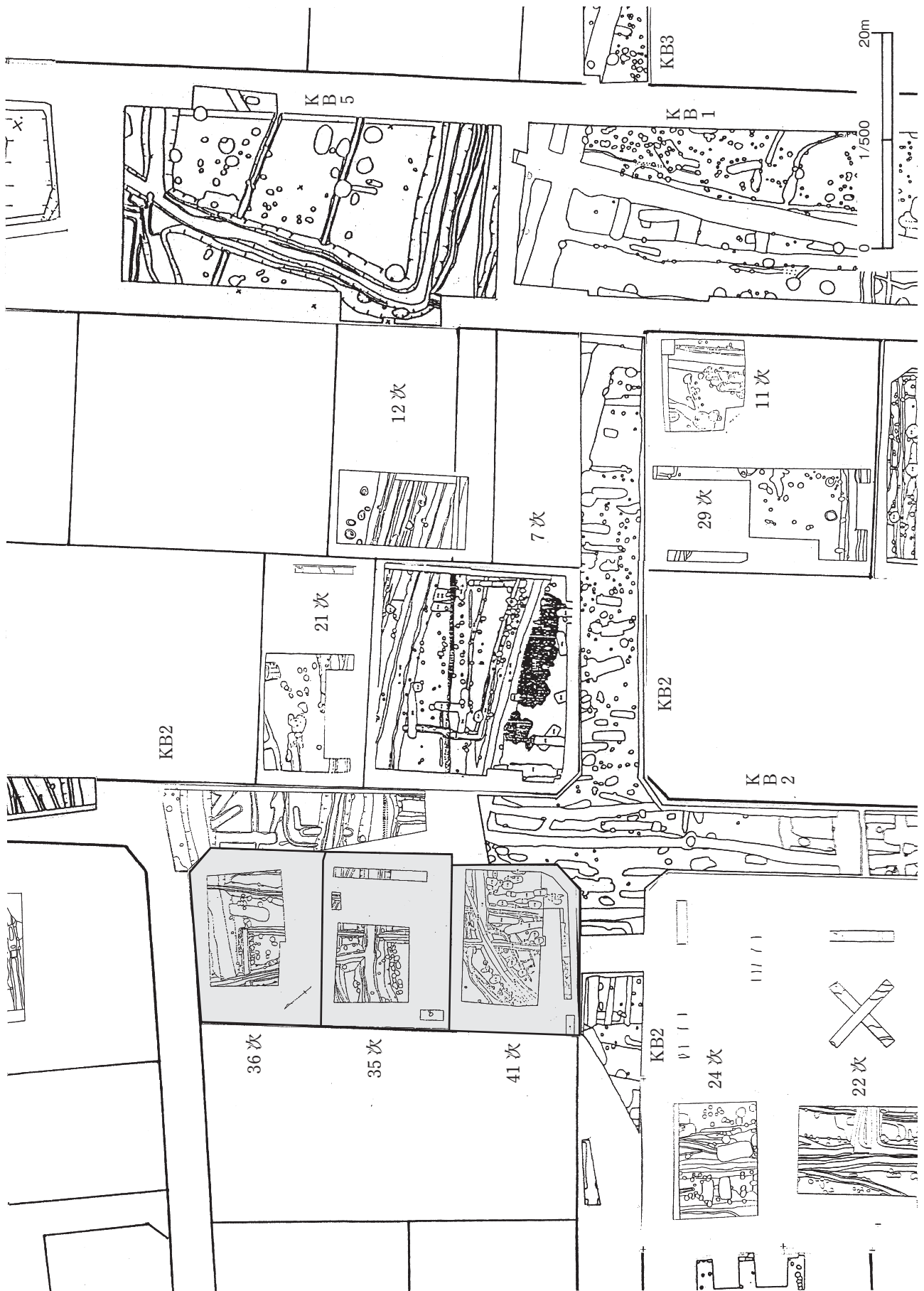
第16図 第28次遺物 3

( ) は残存値、\*は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	平碗	瀬戸美濃	1溝 No. 17	—	—	—	古後Ⅱ		碗001	
2	ほうろく	在地	1溝 No. 7、No. 31	—	—	5.3~5.4			H001	
3	銭貨(祥符元宝)	銅	1溝 (No. 6)	—	—	—			0028-0004	
4	銭貨(景定元宝)	銅	1溝 (No. 4)	—	—	—			0028-0001	
5	銭貨(元祐通宝)	銅	1溝 (No. 4)	—	—	—			0028-0002	
6	磨石	石(角閃石安山岩)	1溝 (No. 21)	9.7	8.1	3.8			0028-0001	
7	磨石	石(角閃石安山岩)	1井	8.4	6.3	4.5			石006	
8	丸皿	瀬戸美濃	2井	*11.0	—	—	大3		皿002	
9	端反皿	瀬戸美濃	3・4壙、8P	*10.4	*5.0	2.1	大1		皿001	
10	かわらけ	在地	集中 No. 6	11.0	6.0	2.9~3.6		15c 中~16c 前	K001	見込ナデ 底面板目
11	かわらけ	在地	集中 No. 1	11.6	5.6	3.0		15c 中~16c 前	K002	見込ナデ
12	かわらけ	在地	集中 No. 3	10.9	5.4	3.1		15c 中~16c 前	K003	見込工具
13	かわらけ	在地	集中 No. 4	11.5	4.6	3.1~3.5		15c 中~16c 前	K004	見込ナデ 底面板目
14	かわらけ	在地	集中 No. 5	11.2	5.0	3.0~3.2		15c 中~16c 前	K005	見込ナデ
15	かわらけ	在地	集中 No. 2	*11.0	*5.0	3.0			K009	
16	かわらけ	在地	集中 No. 2	*12.0	—	—			K010	
17	青磁盤類	龍泉窯系中国	一括	—	—	—		14c~15c	青001	
18	青磁碗	龍泉窯系中国	No. 7	—	—	—	Ⅲ	13c 中~14c 前	青002	
19	白磁皿	中国	一括	*12.0	—	—	X	13c 中~14c	白001	口禿
20	白磁皿	中国	一括	*13.0	—	—	C-1	15c 中~16c 前	白002	
21	染付皿	漳州窯系中国	一括	*12.0	—	—	B-1	15c 中~16c 前	染001	
22	平碗	瀬戸美濃	No. 9	—	—	—	古後Ⅲ		碗002	
23	天目	瀬戸美濃	一括	*11.0	—	—	大3		天001	
24	天目	瀬戸美濃	No. 10	*10.8	—	—		18c 前	天002	
25	志野菊皿	瀬戸美濃	No. 52	—	—	—	登1		皿003	
26	縁釉皿	瀬戸美濃	No. 1	—	5.0	—	古後Ⅲ・Ⅳ(古)		皿004	
27	志野小坏	瀬戸美濃	No. 23	*7.0	*4.0	1.9	登1		他001	
28	織部向付	瀬戸美濃	一括	—	—	—	登1		他002	
29	片口鉢	常滑	一括	—	—	—	Ⅱ形式・Ⅱ		鉢001	よく磨れる
30	かわらけ	在地	No. 14	*9.8	5.5	2.1			K006	
31	かわらけ	在地	No. 44	*10.8	*6.0	2.3			K007	
32	かわらけ	在地	No. 55	*9.8	*5.0	2.6			K008	
33	ほうろく	在地	No. 36・42	—	—	4.9			H002	
34	ほうろく	在地	T No. 1	—	—	—			H003	
35	ほうろく	在地	No. 27	—	—	—			H004	
36	瓦	在地	No. 43	(8.4)	(5.7)	2.1			瓦001	
37	土製円盤	在地	一括	(3.6)	(1.8)	0.6			つぶて石001	黒色付着物
38	砥石	石(泥岩)	一括	(5.1)	2.1	0.4			石003	
39	砥石	石(泥岩)	一括	(10.2)	3.0	2.7			石005	
40	砥石	石(泥岩)	No. 45	9.8	6.9	4.7			0028-0002	
41	磨石	石(軽石)	一括	7.6	5.4	1.5			石007	
42	茶臼(上臼)	石	No. 47	(12.8)	(6.0)	(4.8)			石001	
43	粉挽き臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	No. 11	(10.8)	(4.8)	(6.4)			石002	
44	粉挽き臼(下臼)	石(普通輝石安山岩)	No. 15	(14.4)	(6.8)	(8.4)			石004	
45	磨石	石(角閃石安山岩)	No. 28	16.4	12.8	7.6			石008	五輪塔水輪カ
46	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
47	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
48	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
49	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
50	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
51	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
52	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
53	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
54	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
55	縄文土器	土器	南 T	—	—	—	加曾利 E			
56	縄文土器	土器	一括	—	—	—	加曾利 E			
57	縄文土器	土器	一括	—	—	—	堀の内?			
58	縄文土器	土器	一括	—	—	—	堀の内?			
59	縄文土器	土器	1溝 (No. 16)	—	—	—	安行			
60	縄文土器	土器	1溝	—	—	—	安行			
61	縄文土器	土器	1溝 (No. 4)	—	—	—	安行			
62	縄文土器	土器	一括	—	—	—	安行			
63	縄文土器	土器	1溝	—	—	—	安行			
64	縄文土器	土器	一括	—	—	—	安行			
65	縄文土器	土器	一括	—	—	—	安行			

第4表 第28次遺物一覧表



第17図 第35・36・41次周辺の調査

## 第IV章 第35次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成4年6月4日、開発者小林茂氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋115（仮換地36街区4画地の一部）における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

6月12日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、島村範久が担当した。

調査協力員

今井竜吉 五十嵐喜一郎 伊藤ツネ 小川征子

文化庁通知 4委保記第5-3023号

平成4年10月20日

調査期間 平成4年10月6日～12月10日

調査面積 63m<sup>2</sup>

(調査の経過)

隣接する36次調査と同時並行で調査した。始めに東側に第1トレンチを入れ1～3号溝を確認した。調査・図化の後、建築予定地に7.5m×7mの調査区を設定し調査を開始するが、西端に第2トレンチ・東端に第3トレンチ・中央に第4トレンチを入れ溝の重複関係を確認しながら掘り下げ調査を行った。確認面はローム層である。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文時代遺構の精査を行った。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

南に41次、北に36次、東にKB2調査区が位置する。41次では墓塚が多数検出された。36次・KB2

区では当調査区に存する溝につながるものが確認されている。

### 第2節 遺構と遺物

当調査区では溝が縦横に確認された。溝8条・土壙1基が検出されている。

【溝】

1号溝は5溝あるいは6号溝に接続する。

**1号溝** 幅310cm 深さ124cmの大規模なもので断面形箱葉研を呈する。この溝は、KB2区18ab溝・私武7次1溝・12次3溝につながり、KB1区9ab溝KB3区1溝に連なるものである。

**4号溝** 幅160cm 深さ84cmを計る。南北に走行し、36次4号溝・41次4号溝とつながる。

○出土遺物 常滑の甕(4)・瀬戸美濃の水注(4)・かわらけ(6・7)がある。

**5号溝** 幅330cm 深さ120cmを計り、1溝と連なり中央で北へ屈曲し、36次5溝に接続する。

○出土遺物 縁釉皿(3)・常滑片口鉢(9)・瀬戸美濃播鉢(10)・略完形のかわらけ(11)・碇石様の扁平な丸石(13)などで16世紀代か。

**6号溝** 幅340cm 深さ122cmを計るがセクション図で2つの溝の重複が確認できる。

○出土遺物 瀬戸美濃縁釉皿(14)、板碑片(15～18)がある。

遺構の新旧は旧：6溝・7溝→5溝→4溝：新である。

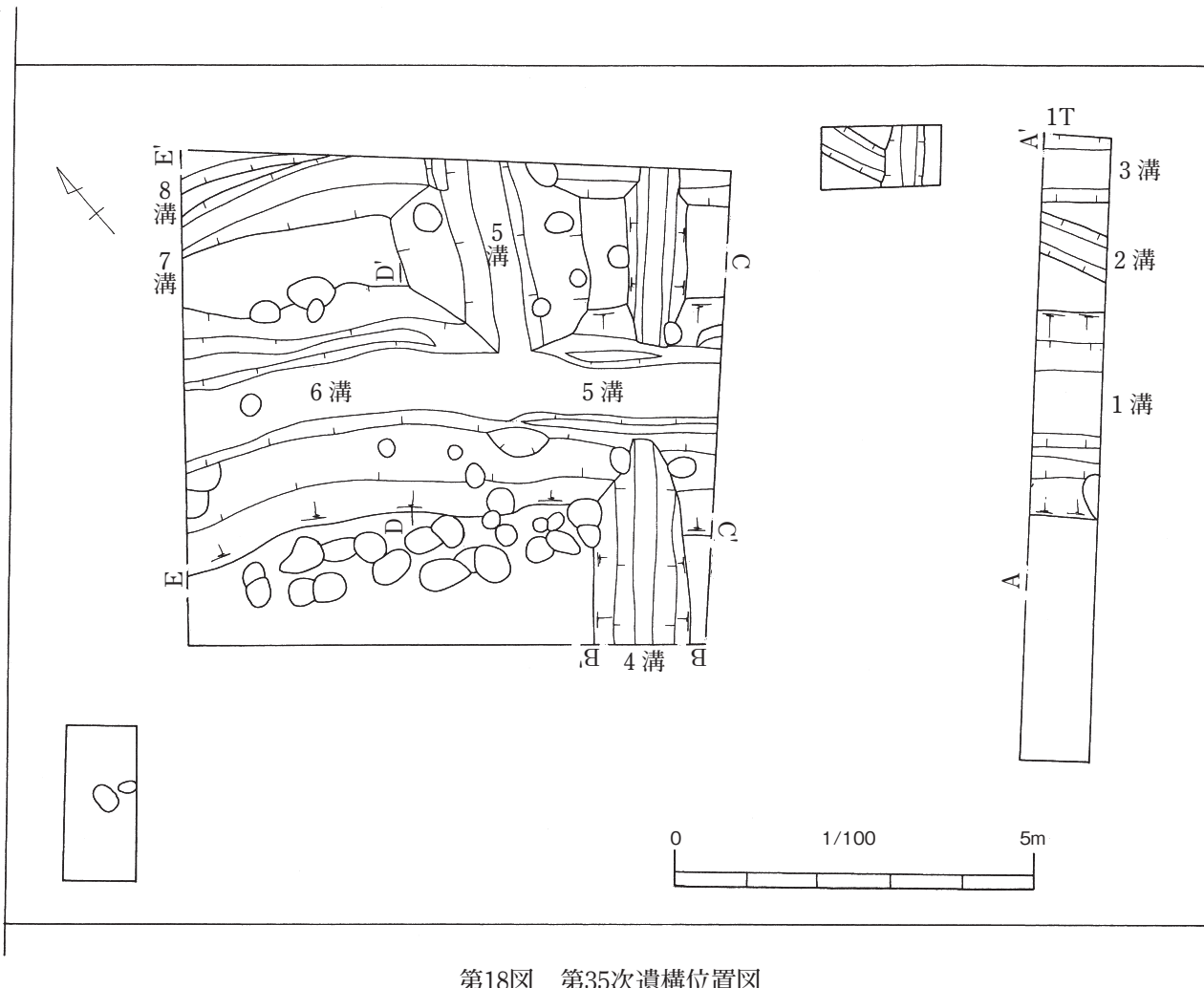
遺構外出土遺物

陶磁器類では瀬戸美濃天目(20・21)、かわらけ(24)がある。

石製品類では、碇石様石製品(25)・碇石(26)・磨石(27)がある。磨石は片面がよく使用されいくつのも碇面が形成されている。

ほかにスラグ10g・縄文時代の土器片(28・29)・剥片(30)・平基の石鏃(31)・磨石?(32)が出土している。



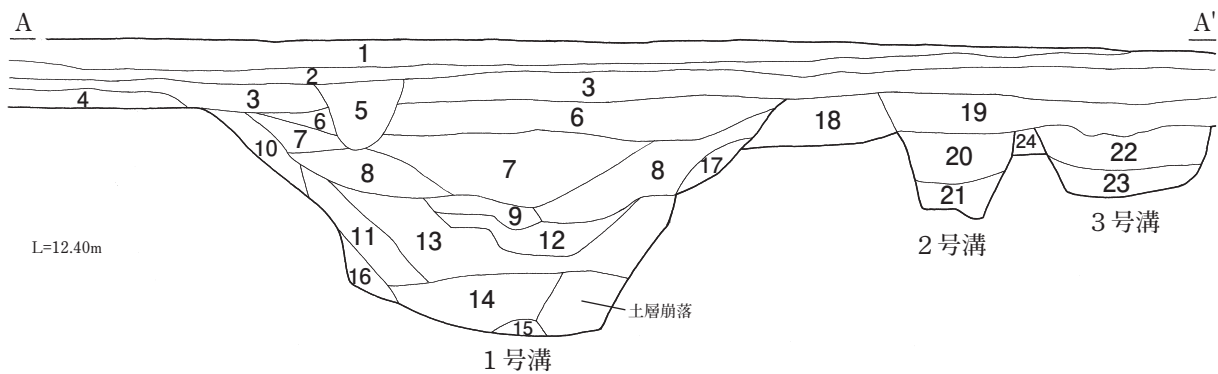


第18図 第35次遺構位置図

( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該機構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代
1号溝	なし	直線	箱葉研	幅☆310	☆124	暗灰褐色	常滑(甕)/素焼播鉢/かわらけ/焙烙	
2号溝	2Tで別の溝と	直線	箱葉研	幅56	☆58	暗灰褐色	常滑(甕)	
3号溝	なし	直線	ゆるやか	幅☆94	☆37	暗灰褐色	瀬美(小坏=18c)/常滑(甕=13c 後)	18c~
4号溝	5溝→○	直線	箱葉研	幅☆160	☆84	暗灰褐色	瀬美(水注=大1~4)/肥前(染付碗=17c 後)/かわらけ/板碑	17c 後~
5号溝	6・7溝→○→4溝	L字形に屈曲	箱葉研	幅☆330	☆122	暗灰褐色	中国(白磁皿=16c 代)/瀬美(縁釉小皿=古後IV新・播鉢=大3後)/常滑(片口鉢=5,6a形式)/焙烙/かわらけ=15中~16c 中/桃種子2/スラグ50g	16c 中~
6号溝	○→5溝,1壙	直線	箱葉研	幅☆340	☆126	暗灰褐色	瀬美(縁釉小皿=古後IV(新)、古後II)/常滑(甕・片口鉢=5,6a形式)	15c 末~
7号溝	8溝→○→5溝	やや曲がる	丸味を帯びる	幅50	☆46	暗灰褐色		
8号溝	○→7溝	やや曲がる	ゆるやか	幅(53)	☆72	暗灰褐色	石臼	
1号土壙	6溝→○	不明	ほぼ直上	不明	☆70	暗灰褐色	京焼系(丸碗=18~19c)・炭化米? 15g	18c~

第5表 第35次遺構一覧表



1 トレンチ西壁 1溝2溝3溝セクション

- 1 盛土
- 2 旧耕作土 暗灰褐色/FE (下部)、T、S 縮良
- 3 暗灰褐色/BBB△、LR S C▲ 縮良
- 4 黒褐色/LB (ソフト) △ 軟質
- 5 暗灰褐色/C△、LR、LB△ 縮良
- 6 暗灰褐色/LR、FE▲ 縮良
- 7 暗灰褐色 (6層より灰色強) /C△、FE△、S△、LR△ 縮良
- 8 暗灰褐色/FE◎、LR△ 縮良
- 9 暗灰褐色/LR、LB (ソフト) ◎ 粘やや有
- 10 暗灰褐色/LB◎、LR (ソフト) ◎、BBB△ 軟質
- 11 暗灰褐色/LB、FE◎ 軟質
- 12 暗灰褐色 (灰色強) /FE◎、LR△ 軟質 粘有

→ピット

1溝

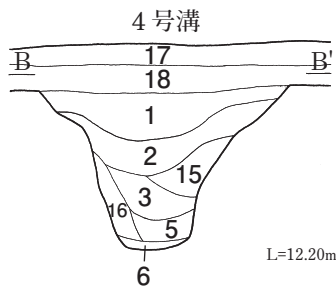
- 13 暗灰褐色 (12層より暗) /FE◎、LR▲ 粘やや有
- 14 暗灰褐色粘質土/FE△、LR▲ 粘強
- 15 LB/LB (ソフト・ハード) 粘強
- 16 暗灰褐色/LB◎、FE△ 縮良
- 17 暗灰褐色/LB△、LR△ 縮良
- 18 暗灰褐色/LB (ソフト) △、C、LR▲ 縮良
- 19 暗灰褐色/灰褐色B△、LR▲ 縮悪
- 20 暗灰褐色 (19層より暗) /FE LR◎ 縮良
- 21 暗灰褐色 (20層より明) /LB◎、FE△ 縮良
- 22 暗灰褐色/LR△、FE△ 縮良
- 23 暗灰褐色 (22層より灰色強) /FE◎、LR、LB△ 堅緻 縮良
- 24 暗灰褐色/LR S▲ 縮良

→4溝

→1溝

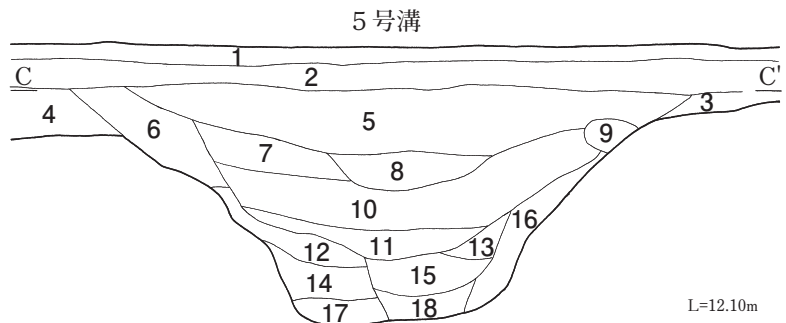
2溝

3溝



4溝セクション

- 1 暗灰褐色/LR△ 縮良
- 2 暗灰褐色/LB、LR、BBB△ 縮良
- 3 暗灰褐色 (2層より灰色強) /LR、S△、FE△ 縮良
- 5 暗灰褐色/FE◎、C、S▲ 粘有 軟質
- 6 暗灰褐色/FE◎、LR▲ 粘強 軟質
- 15 暗灰褐色/LB (ソフト) ◎、LR◎ 軟質
- 16 暗灰褐色/LB (ソフト) △ 軟質
- 17 耕作土/LR、T、FE◎ 堅緻 縮良
- 18 暗灰褐色/T◎、LR S C▲ 堅緻 縮良

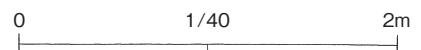


5溝セクション

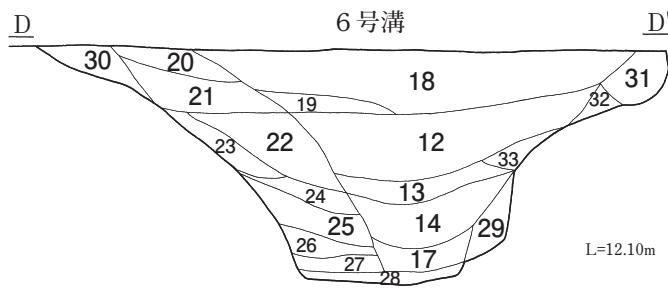
- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色/T◎、LR、S、C△ 縮良
- 3 黒色/暗灰褐色B△ 軟度低
- 4 暗灰褐色/LB△、LR△ 縮良
- 5 暗灰褐色/C LR△ 縮良
- 6 暗灰褐色 (灰色強) /FE△、LR△ 縮良
- 7 暗灰褐色 (灰色強) /LR△ 縮良
- 8 暗灰褐色/LR◎、FE△ 縮良
- 9 LB (ソフト)
- 10 暗灰褐色 (灰色強) /FE◎、LR△ 軟度低
- 11 暗灰褐色 (灰色強) /FE◎ 軟質
- 12 暗灰褐色 (灰色強) /FE△
- 13 暗灰褐色 (さらに灰色強暗) /FE◎ 軟質
- 14 暗灰褐色 (灰色強) /FE◎、LB△、LR△ 粘有 軟質
- 15 暗灰褐色 (灰色強) /FE◎、LB△、LR△ 粘強
- 16 暗灰褐色/FE◎、LR◎ ざらつく 軟質
- 17 暗灰褐色 (灰色強) /C、LB△、LR△ 軟質
- 18 暗灰褐色 (15層より明) /LB LR△ 粘強 軟質

土層説明凡例  
色調/含有物  
テフラ=T  
ローム=L  
炭化物=C  
焼土=S  
酸化鉄=FE  
黒褐色=BB  
黒色=B  
褐色=Br  
粒子=R  
ブロック=B

非常に多い=☆  
多量=◎  
少量=△  
微量=▲  
万遍なく=アンダーライン  
やや明るい=やや明  
やや暗い=やや暗  
非常にやわらかい=軟度高  
やわらかい=軟質  
やややわらかい=軟度低  
かたい=堅緻  
縮まり良し=縮良  
縮まり悪し=縮悪  
粘性強し=粘強  
粘性有り=粘有  
粘性少ない=粘少



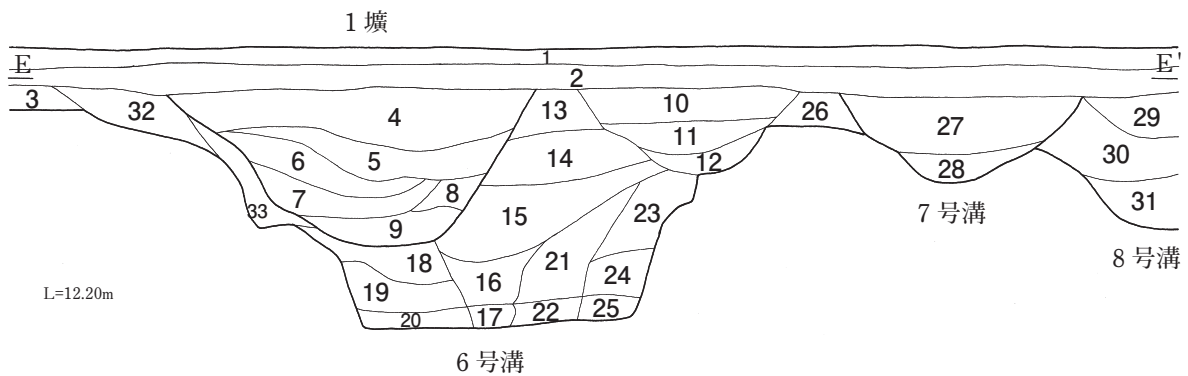
第19図 第35次遺構 1



6 溝セクション

- 12 灰色粘質土 / LR△, FE△, C▲ 縮良
- 13 暗灰褐色 / FE△, LR△ 軟度低
- 14 暗灰褐色 / FE, LR◎ 軟質
- 17 暗灰褐色 (暗) / LB◎, FE△ 軟質
- 18 暗灰褐色 / LR△, C△, LB▲ 縮良
- 19 暗灰褐色 / LR◎ 縮良
- 20 暗灰褐色 / LR▲ 縮良
- 21 暗灰褐色 (20層よりやや灰色強) / LR, S▲ 縮良
- 22 暗灰褐色 / FE◎, LR, C▲ 縮良
- 23 暗灰褐色 (22層より暗) / FE△, LR▲ 軟度低

- 24 暗灰褐色 (暗) / FE△, LR▲ 軟度低
- 25 暗灰褐色 / LR◎, FE▲ 粘少 軟度低
- 26 暗灰褐色 / FE LR△ 軟質
- 27 暗灰褐色 (暗) / LB△, LR△ 粘少 軟質
- 28 LB/LB, LR 粘強 軟質
- 29 暗灰褐色 / FE△, LR▲ 軟質
- 30 暗灰褐色 / BB◎ 縮良
- 31 暗灰褐色 (灰色強) / FE◎, LR△ 堅緻 縮良
- 32 暗灰褐色 / LB (ソフト) △ 縮良
- 33 暗灰褐色 / LB 軟度低



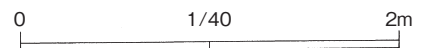
6 溝 1 壙 7 溝 8 溝セクション

- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色 / T◎, LR S C△ 堅緻 縮良
- 3 黒色 / 暗灰褐色 B 軟度低
- 4 暗灰褐色 / LR, C▲ 縮良
- 5 暗灰褐色 (4層より明) / FE C△
- 6 暗灰褐色 / C△, LR▲ 縮良
- 7 暗灰褐色 / C◎, FE△, 骨粉△ 軟度低
- 8 暗灰褐色 / C◎ 縮良
- 9 茶褐色 / C, 骨半分△ 軟質
- 10 暗灰褐色 / C S▲ 縮良
- 11 暗灰褐色 (灰色強暗) / FE◎ 縮良
- 12 暗灰褐色 / LB (ソフト) 縮良
- 13 暗灰褐色 / LR▲ 縮良
- 14 暗灰褐色 (13層より灰色強) / FE▲, S▲ 縮良
- 15 暗灰褐色 (灰色強) / FE◎ 縮良
- 16 暗灰褐色 (灰色強) / FE◎ 粘有 軟質
- 17 暗灰褐色 (16層より暗) / FE◎ 粘有

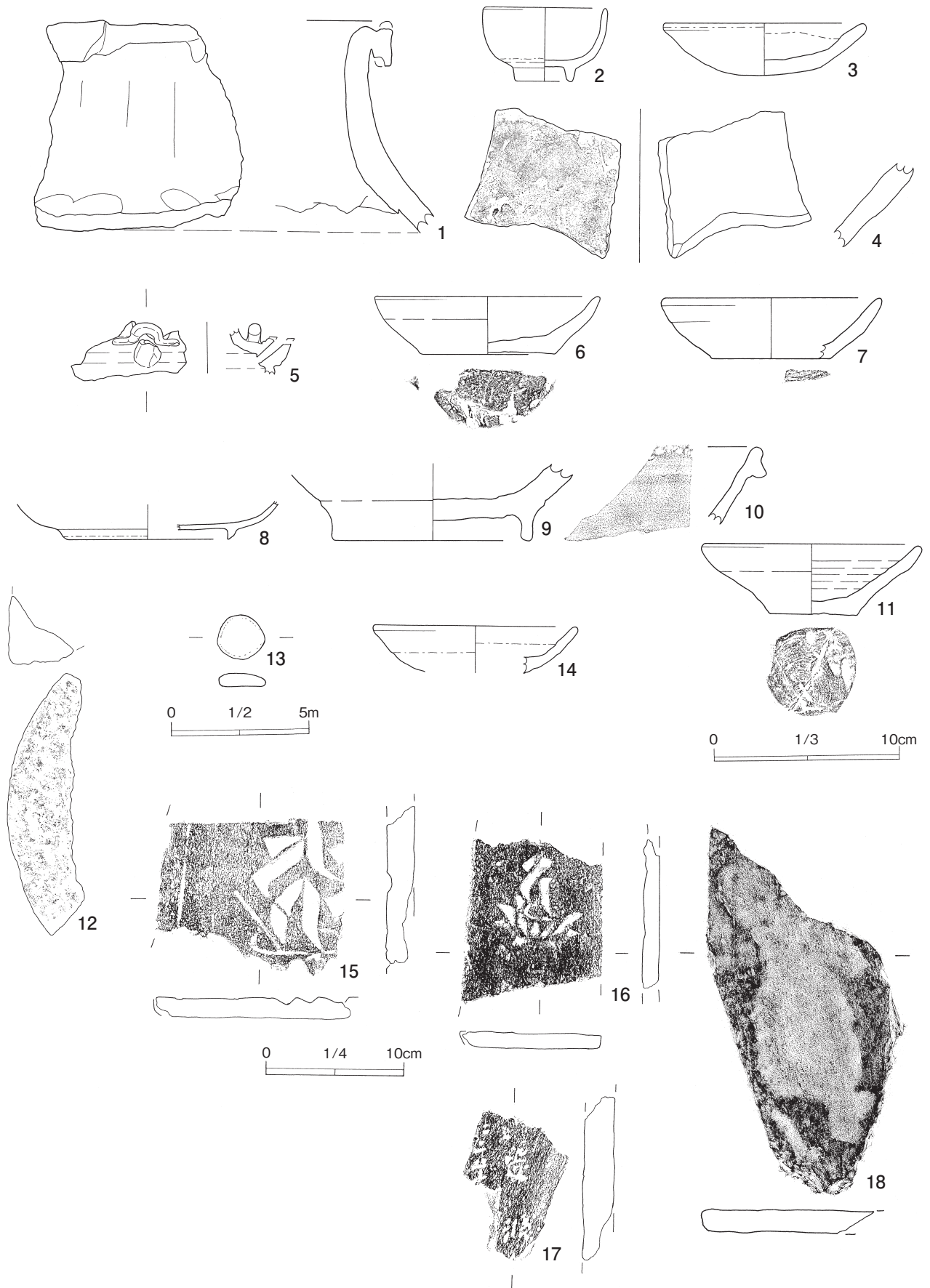
1 壙

- 18 暗灰褐色 / FE△ やや縮悪
- 19 暗灰褐色 / LR, LB◎, FE△ 軟度低
- 20 暗灰褐色 / LB△, LR△, FE△ 粘有 軟質
- 21 暗灰褐色 (灰色強) / FE◎, LR△ 軟度低
- 22 暗灰褐色 / LB△, LR△, FE△ 粘有 軟質
- 23 暗灰褐色 / LR△, FE△ 縮良
- 24 暗灰褐色 / FE◎, LB△ 軟度低
- 25 LB/L (ハード) 粘やや有 縮良
- 26 暗灰褐色 / LR, FE▲ 縮良
- 27 暗灰褐色 / LR, C△ 縮良
- 28 暗灰褐色 (27層より暗) / LR△ 堅緻 縮良
- 29 暗灰褐色 / FE C▲ 縮良
- 30 暗灰褐色 / LR▲ 縮良
- 31 暗灰褐色 (30層より暗) / C, LB△, LR△ 軟度低
- 32 暗灰褐色 / BBB△, LR△ 軟度低
- 33 暗灰褐色 / FE△, C▲ 縮良

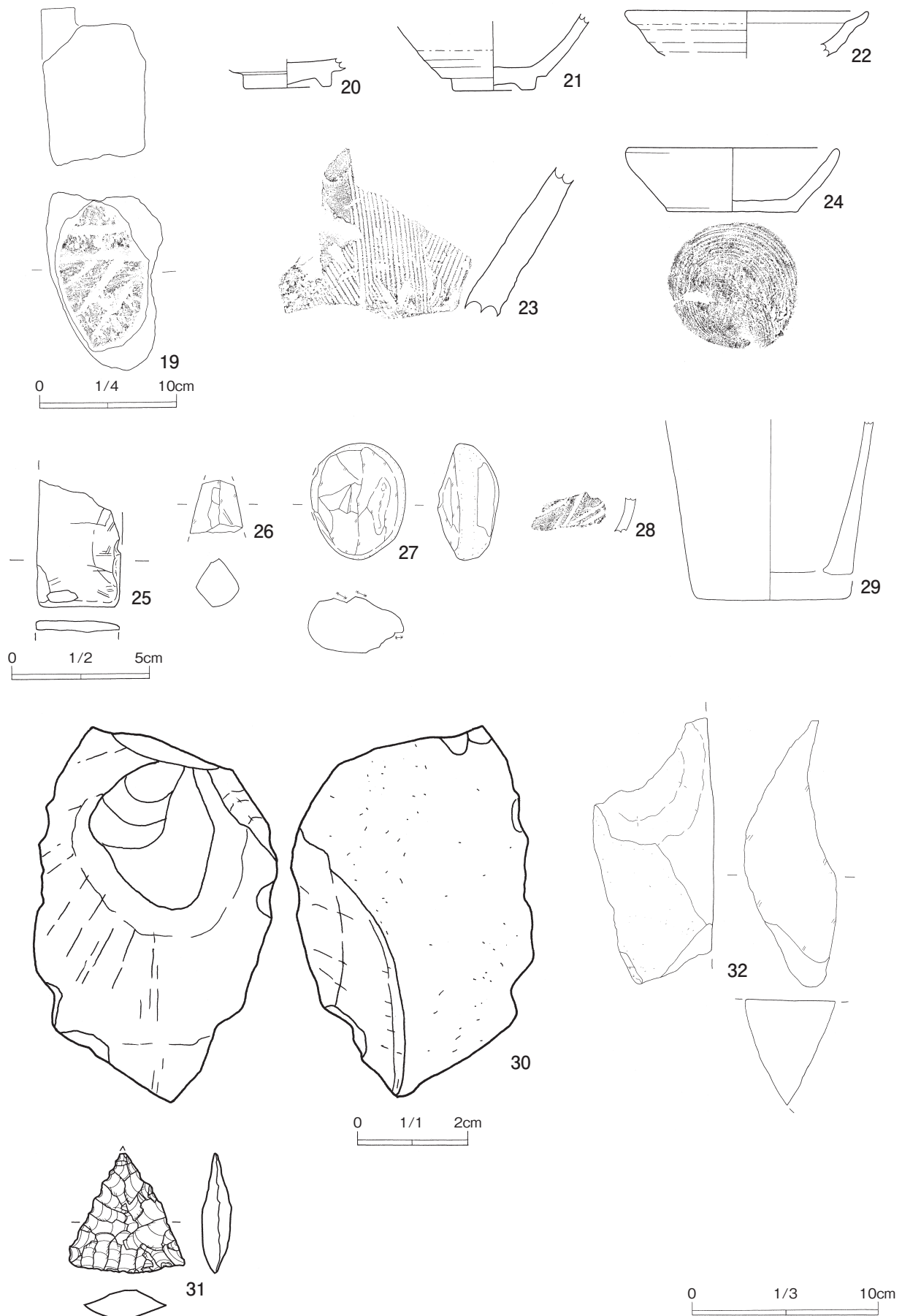
7 溝  
8 溝  
→ 1 壙



第20図 第35次遺構 2



第21図 第35次遺物 1



第22図 第35次遺物 2

( ) は残存値。\*は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No.	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (高さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	甕	常滑	3溝1T	—	—	—		13c 後	袋001	
2	小坏	瀬戸美濃	3溝 (No. 9)	*6.8	*3.2	3.9		18c	他001	
3	緑釉小皿	瀬戸美濃	5溝 (No. 43・51)、4溝、6溝 (No. 1)、3T (No. 9=5溝)	*10.9	*6.0	2.8	古後Ⅳ (新)		Ⅲ001	被熱黒化
4	甕	常滑	4溝3T (No. 15)	—	—	—		不明	袋002	
5	水注	瀬戸美濃	4溝 (No. 21・22)	—	—	—	大1~4		他002	
6	かわらけ	在地	4溝、5溝4T (No. 13・24・?)、2層	*12.0	*7.2	3.1		15c 中 ~16c 前	K001	見込ナデ
7	かわらけ	在地	4溝、5溝 (No. 42)	*12.0	*6.4	3.3		16c 中	K004	
8	白磁皿	中国	4b 溝 (No. 9)、5溝 (No. 25)	—	*9.0	—		16c	白001	
9	片口鉢	常滑	5溝 (No. 19)、6溝 (No. 8)、2層	—	*10.8	—	5・6a		鉢001	
10	播鉢	瀬戸美濃	5溝 (No. 26)	—	—	—	大3後		鉢002	
11	かわらけ	在地	5溝 (No. 27・29・38・30、一括)、5溝4T (No. 3・7)	11.8	4.7	3.8		15c 中 ~16c 前	K003	見込ナデ
12	石臼	石(角閃石安山岩)	5溝 (No. 31)	(19.2)	(6.4)	5.2			石001	
13	碁石?	石	5溝4T (No. 2)	1.7	1.8	0.5			0035-0002	
14	緑釉小皿	瀬戸美濃	6溝 (No. 4)	*11.0	—	—	古後Ⅱ		Ⅲ002	煤付着
15	板碑	石(緑泥片岩)	6溝 (No. 6)	(11.4)	(14.2)	2.0			0035-0002	
16	板碑	石	6溝 (No. 3)	(10.7)	(10)	1.2			0035-0001	
17	板碑	石	6溝 (No. 11)	(11.8)	(7.6)	2.2			0035-0003	
18	板碑	石(緑泥片岩)	6溝 (No. 10)	(26.0)	(15.0)	1.6				
19	石臼(上臼)	石(角閃石安山岩)	8溝 (No. 1)	(13.6)	(8.4)	11.2			石002	
20	天目	瀬戸美濃	2T	—	4.7	—	登2~		天001	
21	天目	瀬戸美濃	1T	—	4.5	—	登1~		天002	
22	丸皿	瀬戸美濃	1T	*13.0	—	—	登2~		Ⅲ003	
23	播鉢	瀬戸美濃	2層	—	—	—	大2~4		鉢003	
24	かわらけ	在地	3T (No. 10・11)	11.5	7.0	3.4			K002	見込ナデ 外面黒斑
25	硯様石製品	石	2T	(4.6)	3.0	0.4			0035-0001	
26	砥石	石(泥岩)	2層	(2.9)	2.9	2.6			0035-0001	
27	磨石	石	3T (No. 6)	6.3	5.1	3.1			0035-0002	
28	縄文土器	土器	1T	—	—	—				
29	縄文土器	土器	1T	—	—	—				
30	剥片	石	1層	(6.9)	(4.3)	1.2			0035-0002	
31	石鏃	石(チャート)	1層	33.6	16.7	4.6			0035-0001	
32	磨石?	石	6溝 (No. 5)	(14.5)	(6.5)	5.7			0035-0001	

第6表 第35次遺物一覧表



調査風景

## 第V章 第36次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成4年6月5日、開発者清水武男氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋1115(仮換地36街区4画地の一部)における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

7月13日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、島村範久が担当した。

調査協力員

石井たね 佐藤ヨシ 関口のぶ 堀越昭二

文化庁通知 4委保記第5-4934号

平成4年11月30日

調査期間 平成4年10月6日～12月10日

調査面積 86m<sup>2</sup>

(調査の経過)

隣接する35次調査と併行して調査を行った。建設予定地に10m×7mの調査区を設定し掘り下げた。ローム面を遺構確認面とし溝・土壌の調査を実施した。4号溝が西に延びることから西側の拡張を行い先行して第1トレンチを入れた。そこで溝の調査を行った。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

南に35・41次、東にKB2調査区が位置する。41次では墓壙が多数検出された。35次・KB2区では当調査区に存する溝につながるものが確認されている。

### 第2節 遺構と遺物

溝が6条縦横に走り、土壌は4基あり中央に大形の1号土壌が検出された。

【溝】

**1号溝** 北側を東西方向に走り、幅230cm、深さ50cmを計り幅広で浅い。西端で南に屈曲し5号溝上を走る。東はKB2区16号溝とつながる。

○出土遺物 登窯1期の瀬戸美濃鉄絵皿(1)、略完形のかわらけ(3)、在地挿鉢(4・5)、煙管の吸口(6)、長方形の火打金(7)がある。

**3号溝** 南北に走り幅166cm深さ80cmで1溝より新しい。

○出土遺物 瀬戸美濃丸碗(9)・蓋(10)、肥前染付皿(11)がある。

**4号溝** 南北方向のもの、一段低い東西方向のもの(4b溝)が接しL字形となる。

○出土遺物 4b溝でかわらけ(15)、釘(16)がある。

**5号溝** 南北に走る。上半を1号溝に攪乱されるが深さは確認面より-120cmで調査区内最深である。

【土壌】

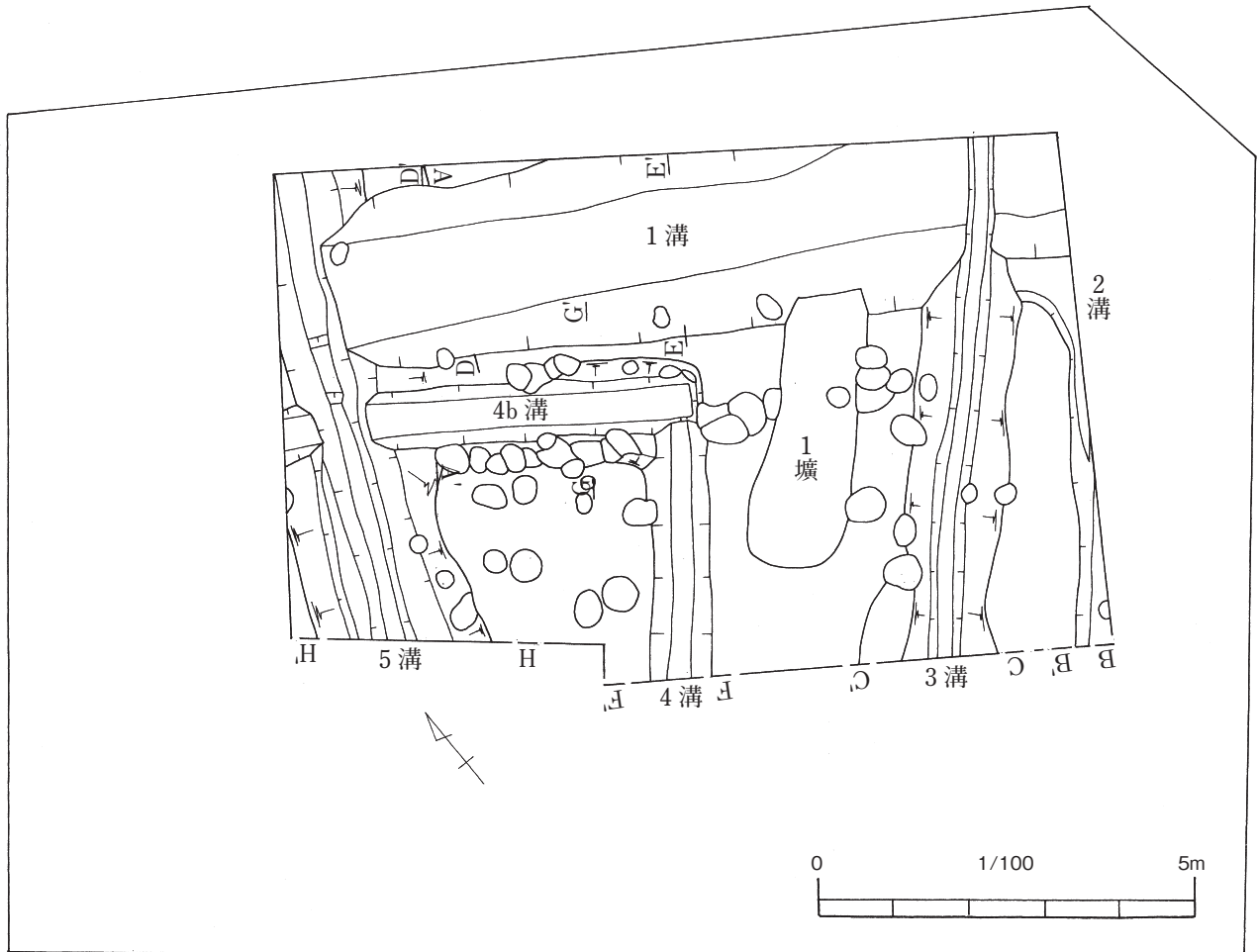
**1号土壌** 平面形長方形を呈し、384cm×120cmを計り大型である。1号溝より古い。

遺構の新旧は、旧：5溝→1溝→4・4b溝→3溝：新である

遺構外出土遺物

陶磁器では瀬戸美濃の黄瀬戸鉢(17)・菊皿(19)がある。スラグは50g出土。

縄文時代の土器(20・21)で20は早期撚糸文期か、ほかに磨石(22)・凹基の石鏃(23)がある。



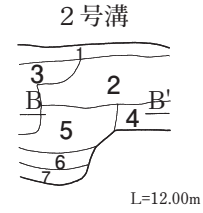
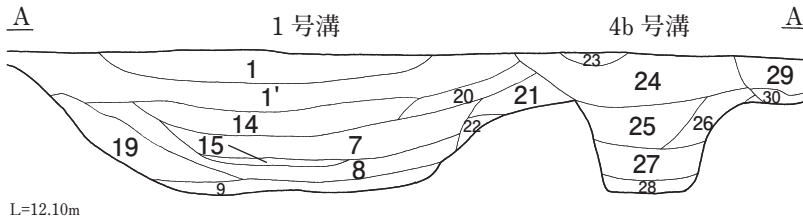
第23図 第36次遺構位置図

( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代
1号溝	1壙、5溝→○→3溝、4b溝	L字形	ゆるやか	幅230	50	暗灰褐色	瀬美(鉄絵皿=登1)・素焼播鉢・焙烙・かわらけ・火打金・スラブ	17c~
2号溝	なし	直線	毛抜き	幅☆(52)	☆44	暗灰褐色	かわらけ	
3号溝	2壙、1溝→○	直線	葉研(上開く)	幅☆166	☆80	暗灰褐色	瀬美(湯呑み=19c・丸碗=18c後)/肥前磁器(染付皿17後~18c・染付皿=18c)/かわらけ=17c/火鉢/スラグ	19c~
4号溝	なし	直線	箱葉研?	幅☆130	☆80	暗灰褐色	常滑(甕)/素焼播鉢/かわらけ	
4b号溝	なし	直線	箱葉研	幅☆(150)	☆80	暗灰褐色	中国(白磁皿=16c代)/常滑(甕)/素焼播鉢/焙烙/かわらけ=15中~16c中	16c~
5号溝	○→1溝	直線	毛抜	下部のみ 幅46	☆(120)	暗灰褐色	常滑(片口鉢=I)/かわらけ	
1号土壙	○→1溝	長方形	ほぼ直上	384×120	☆30	暗灰褐色	かわらけ	
2号土壙	○→3溝	楕円形	ゆるやか	(112)×(66)	8	不明		縄文?
3号土壙	不明	円形	ほぼ直上	74	☆46	黄褐色		
4号土壙	不明	楕円形	ゆるやか	160×94	☆54	褐色		

第7表 第36次遺構一覧表





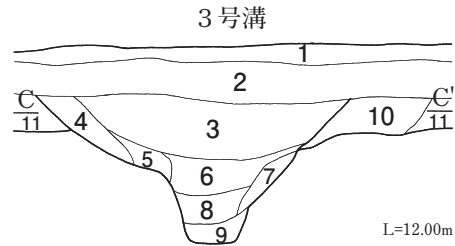
1 溝 4b 溝 セクション

- 1 暗灰褐色 / LR○, LB△, BR○, C, S▲ 縮良
- 1' 暗灰褐色 (暗) / LR△ 縮良
- 7 暗灰褐色 / FE○, LR△ 軟度低
- 8 暗灰褐色 / FE△, 白色粘土△ 軟質
- 9 暗灰褐色 / LB (ソフト) ◎ 粘有 軟質
- 14 暗灰褐色 (1' 層より灰色強暗) / FE△, LR, 灰白色粘土 R▲ 縮良
- 15 灰色粘質土 / LR, FE△ 軟質
- 19 LB/LB○, LR○, FE△ 堅緻 縮良
- 20 暗灰褐色 / LR△ 縮良
- 21 暗灰褐色 (20層より暗) / LB (ソフト) △ 縮良
- 22 暗灰褐色 / LB○, LR○ 縮良
- 23 暗灰褐色 / T○, S, LR▲ 縮良
- 24 暗灰褐色 / LR○, LB△ 縮良
- 25 暗灰褐色 (24層より暗) / LR, LB, C△ 縮良
- 26 暗灰褐色 (24層より明) / LR, LB◎ 縮良
- 27 暗灰褐色 (暗) / FE△, LR△ 軟質
- 28 暗灰褐色 (灰色強27層より明) / FE△, LR△ 軟質
- 29 暗灰褐色 / LR○, T▲ 縮良
- 30 暗灰褐色 / LB△, LR△ 縮良

1 溝  
4b 溝  
ピット

2 溝 セクション

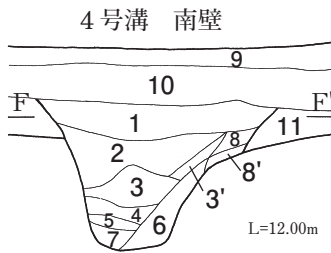
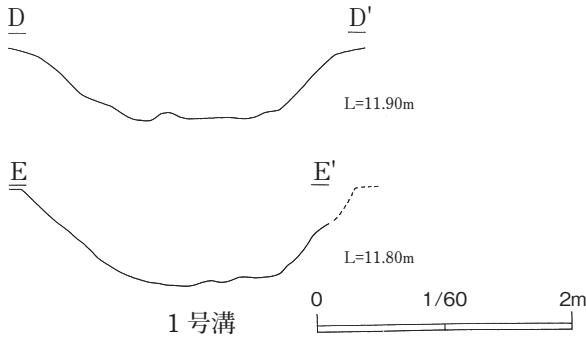
- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色 / T○, FE○, S, C, LR△ 縮良
- 3 攪乱 暗灰褐色 / LB, 灰色 B◎ 縮良
- 4 暗灰褐色 / BBB○, LB△ 軟質  
本来 黒褐色土層と思われる
- 5 暗灰褐色 (暗) / LR▲ 縮良
- 6 暗灰褐色 (灰色強5層より明) / FE△ 縮良
- 7 暗灰褐色 / LR△, LB (ソフト) △ 縮良



3 溝 セクション

- 1 耕作土 / T○, FE○, S, C, LR△ 縮良
- 2 暗灰褐色 / T○, FE○, S, C, LR△ 縮良
- 3 暗灰褐色 / LR, C, S▲ 縮良
- 4 暗灰褐色 / LB (ソフト) △ 軟度低
- 5 暗灰褐色 / LB (ソフト) △, LR△ 縮良
- 6 暗灰褐色 (3層より暗) / LR△, LB▲ 縮良
- 7 暗灰褐色 / LB (ソフト) ◎ 軟度低
- 8 暗灰褐色 / LB△, LR○ 縮良
- 9 暗灰褐色 / LB△, FE△ 軟度低
- 10 暗灰褐色 / LB△, LR△ 縮悪
- 11 暗灰褐色 / BBB○, LB△ 軟質  
本来 黒褐色土層と思われる

3 溝



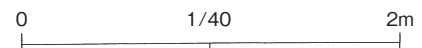
4 溝南壁 セクション

- 1 暗灰褐色 / LR○ 縮良
- 2 暗灰褐色 / LB (ソフト) △, BBB△ 軟質
- 3 暗灰褐色 / LR△, C▲ 軟質
- 3' 暗灰褐色 (灰色強) / FE△ 縮良
- 4 暗灰褐色 / FE△, LR▲ 軟質
- 5 暗灰褐色 (4層より明) / LR○ 軟質
- 6 暗灰褐色 / LR, LB△ 軟質
- 7 暗灰褐色 (灰色強) / FE△, LR, LB△ 軟質
- 8 暗灰褐色 / LR, C▲ 縮良
- 8' 暗灰褐色 / LB (ソフト) △ 軟質
- 9 耕作土 / T○, S, LR, C△ 堅緻
- 10 暗灰褐色 / T○, FE△, C, S, LR△ 堅緻
- 11 黄褐色 / BBB△ 軟質

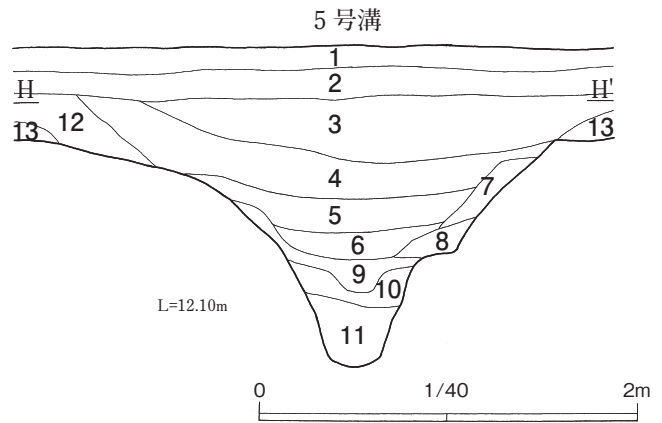
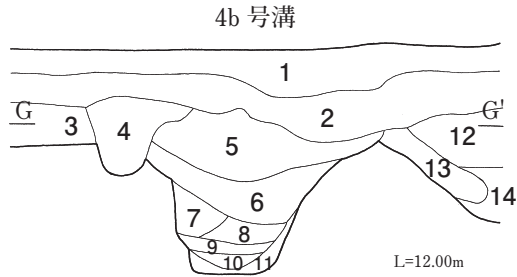
4 溝

土層説明凡例  
色調/含有物  
テフラ=T  
ローム=L  
炭化物=C  
焼土=S  
酸化鉄=FE  
黒褐色=BB  
黒色=B  
褐色=Br  
粒子=R  
ブロック=B

非常に多い=☆  
多量=◎  
少量=△  
微量=▲  
万遍なく=アンダーライン  
やや明るい=やや明  
やや暗い=やや暗  
非常にやわらかい=軟度高  
やわらかい=軟質  
やややわらかい=軟度低  
かたい=堅緻  
縮まり良し=縮良  
縮まり悪し=縮悪  
粘性強し=粘強  
粘性有り=粘有



第24図 第36次遺構 1

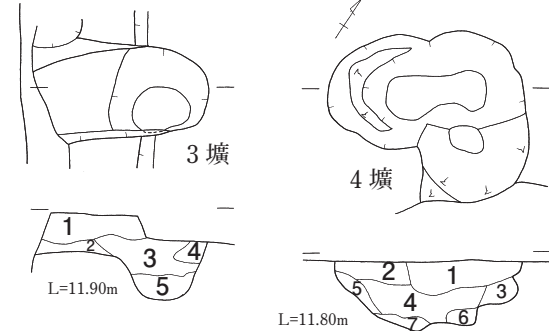
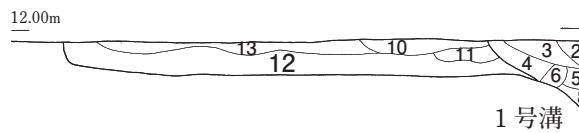
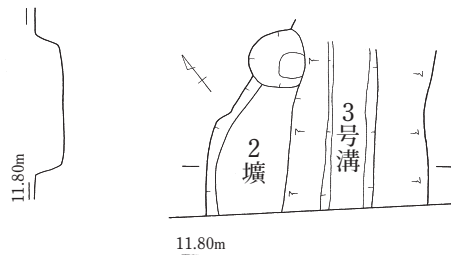
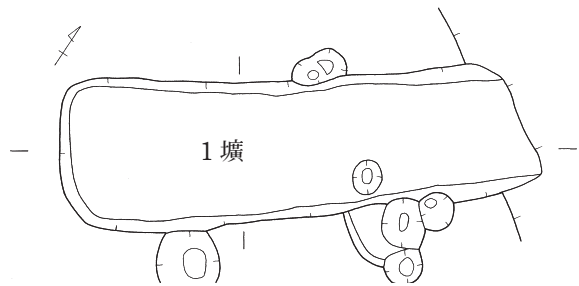


4b 溝セクション

- 1 耕作土/FE,T,LR◎ 堅緻 締良
- 2 暗灰褐色/T◎,FE△,C,S,LR△ 堅緻
- 3 暗灰褐色/LR,LB△ 締良
- 4 暗灰褐色/LB◎,LR◎,T,S▲ 締良
- 5 暗灰褐色/LR◎ 締良 (4溝南壁セクション1層)
- 6 暗灰褐色/LB(ソフト)△,BBB△ 軟質 (4溝南壁セクション2層)
- 7 暗灰褐色/LR,LB△ 軟度低
- 8 暗灰褐色/LR△,C▲ 軟質 (4溝南壁セクション3層)
- 9 暗灰褐色/LR◎ 軟質 (4溝南壁セクション5層)
- 10 暗灰褐色(灰色強)/FE△,LR,LB△ 軟質 (4溝南壁セクション7層)
- 11 灰褐色(明)/LB△,LR△ 軟質
- 12 暗灰褐色/LR◎,LB△,BR◎,C,S▲ 締良 (1溝1壙セクション1層)

5 溝セクション

- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色/T◎,FE◎,S,C,LR△ 締良
- 3 暗灰褐色/LR,LB△ 締良
- 4 暗灰褐色(3層より暗)/LB(ソフト)△,LR△ 締良
- 5 暗灰褐色(灰色強暗)/FE△,LR△ 軟度低
- 6 暗灰褐色(灰色強暗)/FE◎,LR△ 軟質
- 7 暗灰褐色/LR◎ 締良
- 8 暗灰褐色/LR◎,FE△ 軟質
- 9 暗灰褐色(灰色強)/FE△,LR△ 軟質
- 10 灰白色/LB(ハード)△ 軟度高
- 11 LB/LB(ハード・ブラック)◎,FE△ 粘強 締良
- 12 暗灰褐色/LR△,C,S▲ 締良
- 13 黒褐色/LB(ソフト)△ 軟度低



1 壙セクション

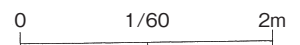
- 2 暗灰褐色(黄色)/LR,LB◎ 締良
- 3 暗灰褐色/C△,T,S▲,LR△ 締良
- 4 暗灰褐色(3層より暗)/LR▲ 締良
- 5 暗灰褐色/FE◎,LR△ 締良
- 6 暗灰褐色/LB(ソフト)◎ やや締悪
- 8 暗灰褐色/FE△,白色粘土△ 軟質
- 10 暗灰褐色/LB△,LR△ 堅緻 締良
- 11 暗灰褐色/LB(ソフト)◎ 締良
- 12 暗灰褐色/BB△,LR△ 締良
- 13 暗灰褐色(10層より暗)/LR△,BR▲ 締良

3 壙セクション

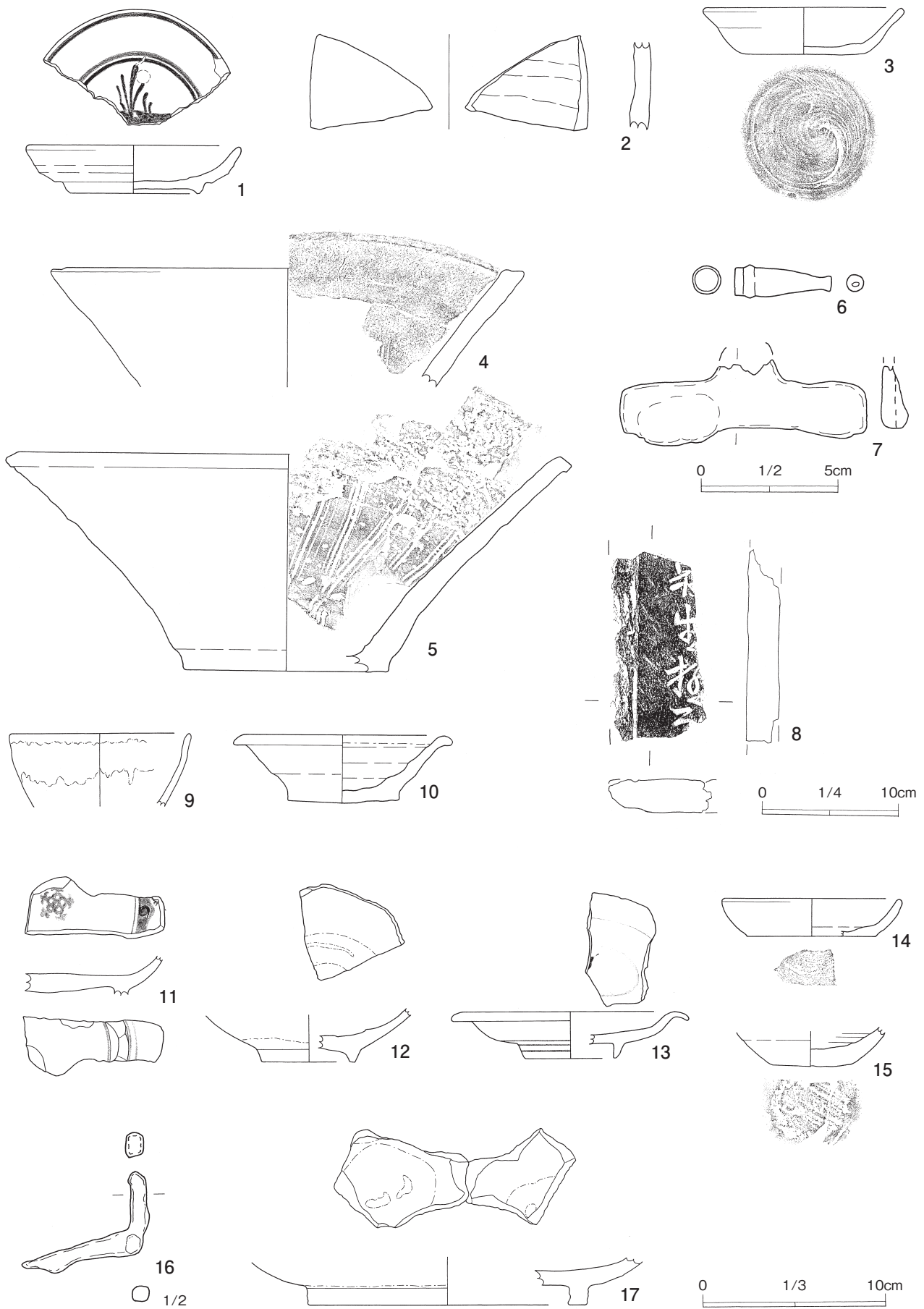
- 1 褐色/LB(ソフト)△ 軟度低
- 2 黄褐色(1層より暗)/LR,LB(ソフト)△ 軟度低
- 3 褐色(暗)/LR△ 締良
- 4 黄褐色/LB(ソフト)△ 締良
- 5 褐色(3層より暗)/LB(ハード・ブラック)△ 締良

4 壙セクション

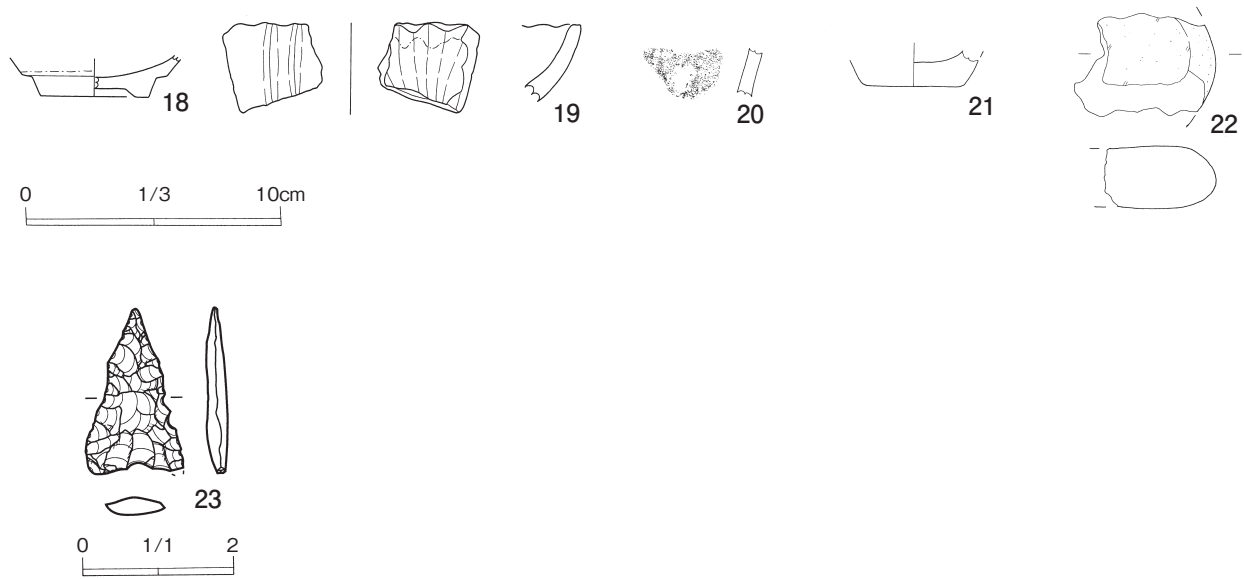
- 1 LB/L(ハード・ブラック),LR△ 締悪
- 2 褐色/LR△,LB(ソフト)△ 締良
- 3 褐色/LR△ 締良
- 4 褐色(暗)/LR◎,LB△ 締良
- 5 褐色/LB(ソフト)△ 軟度低
- 6 褐色/LR◎ 軟度低



第25図 第36次遺構 2



第26図 第36次遺物 1



第27図 第36次遺物 2

( ) は残存値。※は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (高さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式 等	年代	遺物 ID	備考
1	鉄絵皿	瀬戸美濃	1溝8層 (No. 35)	*11.6	*7.0	2.6	登1		III001	
2	梅瓶又は瓶子	瀬戸美濃	1溝1層 (No. 4)	—	—	—	古中		袋001	
3	かわらけ	在地	1溝8層 (No. 1)	11.0	7.2	2.5		不明	K001	
4	挿鉢	在地	1溝 (No. 59・62)	*26.0	—	—			鉢001	
5	挿鉢	在地	1溝 (No. 2・17、一括)、1溝1層 (No. 3・6・10・11・12・13・14・16・22・30)、1溝7層 (No. 28)、2層、	*30.8	*11.0	11.7			鉢002	
6	煙管(吸口)	銅	1溝1層	3.5	小口径 1.0	吸口径 0.6			0036-0001	
7	火打金	鉄	1溝7層 (No. 25)	9.0	2.7	0.5			0036-0001	
8	板碑	石(緑泥片岩)	1溝1層 (No. 32)	(14.0)	(7.8)	2.4			0036-0001	
9	丸碗	瀬戸美濃	3溝 (No. 4・11)	*9.8	—	—		18c 後	碗001	
10	蓋	瀬戸美濃	3溝 (No. 18)	11.8	6.0	3.7		17c~	他001	
11	染付皿	肥前(磁器)	3溝 (No. 21)	—	—	—		17c 後~18c	伊001	
12	染付皿	肥前(磁器)	3溝 (No. 15)	—	*5.0	—		17c 後~18c	伊002	
13	染付皿	肥前(磁器)	3溝 (No. 5)	—	*5.0	—		18c	伊003	
14	かわらけ	在地	3溝 (No. 6)	*9.8	*7.0	2.0		17c 前	K002	
15	かわらけ	在地	4b 溝 (No. 2)、2層	—	4.2	—		15c 中~ 16c 前	K003	見込ナデ 底面板目
16	釘(角)	鉄	4b 溝 (No. 11)	4.7	0.5	—			0036-0003	
17	黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	1P、2層	*15.0	—	—	登1カ		III003	
18	天目	瀬戸美濃	2層	—	*4.3	—	登2~		碗002	
19	菊皿	瀬戸美濃	1・2層	—	—	—		17c 後	III002	
20	縄文土器	土器	一括	—	—	—				
21	縄文土器	土器	1溝8層 (No. 26)	—	—	—		縄文時代		
22	磨石	石	2層	(4.1)	(5.6)	2.5			0036-0001	
23	石鏃	石(チャート)	2溝	21.8	12.9	2.9			0036-0001	

第8表 第36次遺物一覧表

## 第VI章 第39次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成4年11月26日、開発者関根孝夫氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋仮換地50街区4画地)における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地が騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成5年1月22日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課坂本征男が担当した。

調査協力員

岡田金之助 栗原政子 小森谷二三子 関口千代  
関口信幸 福島清作

文化庁通知 5委保記第5-3035号

平成5年11月22日

調査期間 平成4年6月10日～9月8日

調査面積 93m<sup>2</sup>

(調査の経過)

先行して排土置き場となる南東及び南西側にトレンチを4箇所設定し調査を行った。2・3・4Tで溝が確認された。その後建設予定地に10m×6mの調査区を設定し人力により掘り下げた。排水のため北及び西端に側溝を設けた。ローム面を遺構確認面とし溝・井戸・土壇の調査を実施した。15壇を2井に改める。井戸の覆土を洗浄しかわらけ片等確認。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

南及び東にKB3調査区が位置する。南では溝が東西方向に、東では東西・南北方向に走り井戸が数基検出されている。

### 第2節 遺構と遺物

調査区及びトレンチで溝5条、井戸2基、土壇11基検出された。

【溝】

調査区で2条、3T・4Tで比較的大規模なものが確認されている。

**2T1溝** 内外赤色の漆碗片(未図化)出土。

**3T1溝** 3T南端を東西方向に走り、幅170cm(残存値)深さ60cmを計る。

○出土遺物 中国白磁皿(10)・瀬戸美濃縁釉小皿(11)・かわらけ(12)があり15世紀中頃～16世紀代のものである。

**4T1溝** 4T北側に東西方向に走る。幅130cm(残存値)深さ94cmを計る。

○出土遺物 土鍋(14)・在地片口鉢(15・16)・板材(未図化)が出土し13～15世紀代である。

【井戸】

調査区西端に2基接して検出された。

**1号井戸** 断面ロート状で中位に足掛けが設けられる。深さ250cmの深いものである。

○出土遺物 略完形のかわらけ(18)、一部炭化した桶の底板(20)がある。

**2号井戸** 調査区域外に掛かるが186cm(残存値)・深さ215cmを計る大きなものである。下駄の右半分(23)が出土している。前壺・後ろ右壺が残り、歯は確認できない。

【土壇】

**2号土壇** 平面円形で断面ほぼ直上する。覆土にローム粒子・ロームブロック・黒色土を多量に含む(7号土壇も同様)。同規模・形態の7・12壇とともに覆土にテフラを含み廃城後と思われる。

遺構外出土遺物

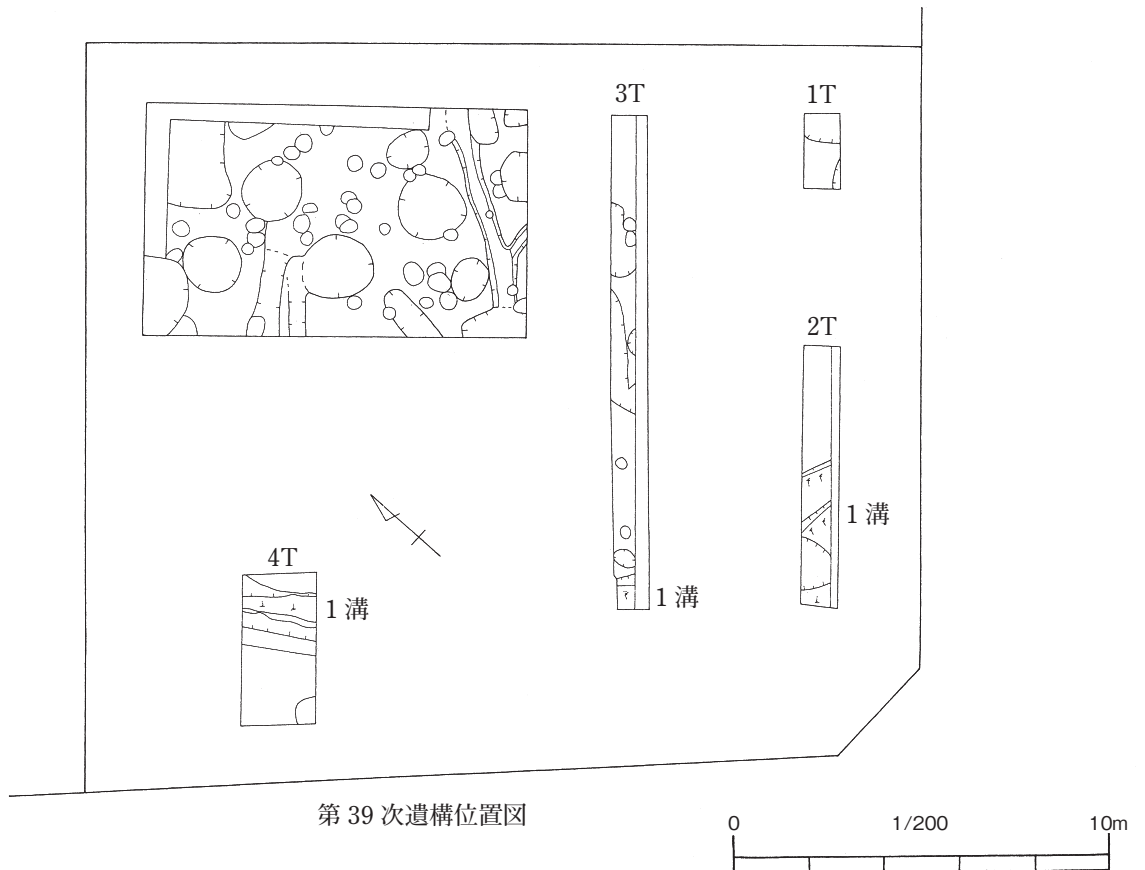
陶磁器では龍泉窯系青磁(28・29)・卸目付大皿(33)・縁釉小皿(32)・略完形のかわらけ(36)がある。

金属製品では銭貨(37～41)・刀子(42・43)がある。木製品ではホゾ孔付加工材(44)がある。

石製品では砥石(45・46)・有孔石製品(47)・火打石?(49)がある。他に縄文時代の石鏃(48)がある。スラグは60g出土。

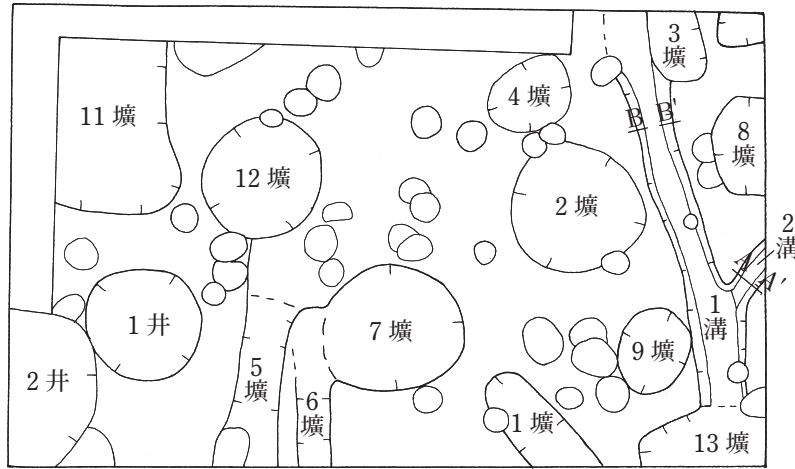


第39次周辺の調査

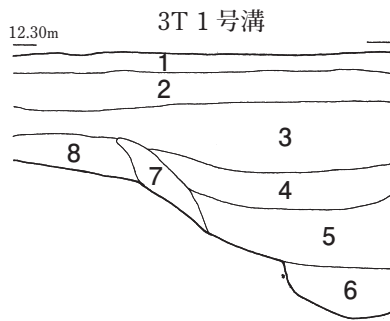
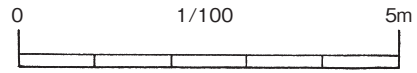


第39次遺構位置図

第28図 第39次周辺の調査と遺構位置図

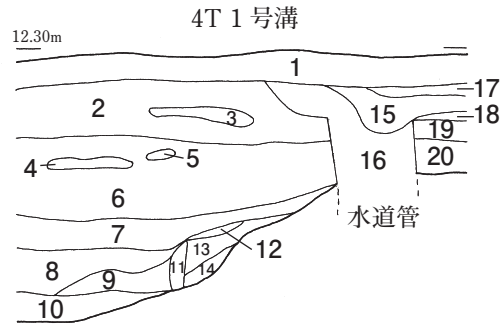


第39次 遺構位置図



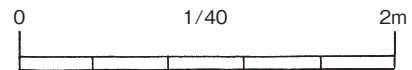
3T1号溝セクション

- 1 暗灰褐色 / T, LR, LB▲ 縮良
- 2 暗灰褐色 / FE◎, T△, LR, LB▲ 縮良
- 3 暗灰褐色 / LR, LB, 黒色土, C▲ 縮良
- 4 暗灰褐色 (灰色強) / LR, LB, FE▲ 縮良
- 5 暗灰褐色 (4層より灰色強) / LR, LB, FE▲, LRは4層より多し 縮良
- 6 暗灰褐色 (暗) / LR, LB▲ 縮悪
- 7 暗灰褐色 / LR, LB△ 縮良
- 8 暗灰褐色 (灰色強) / LR, LB▲, BR▲ 縮良

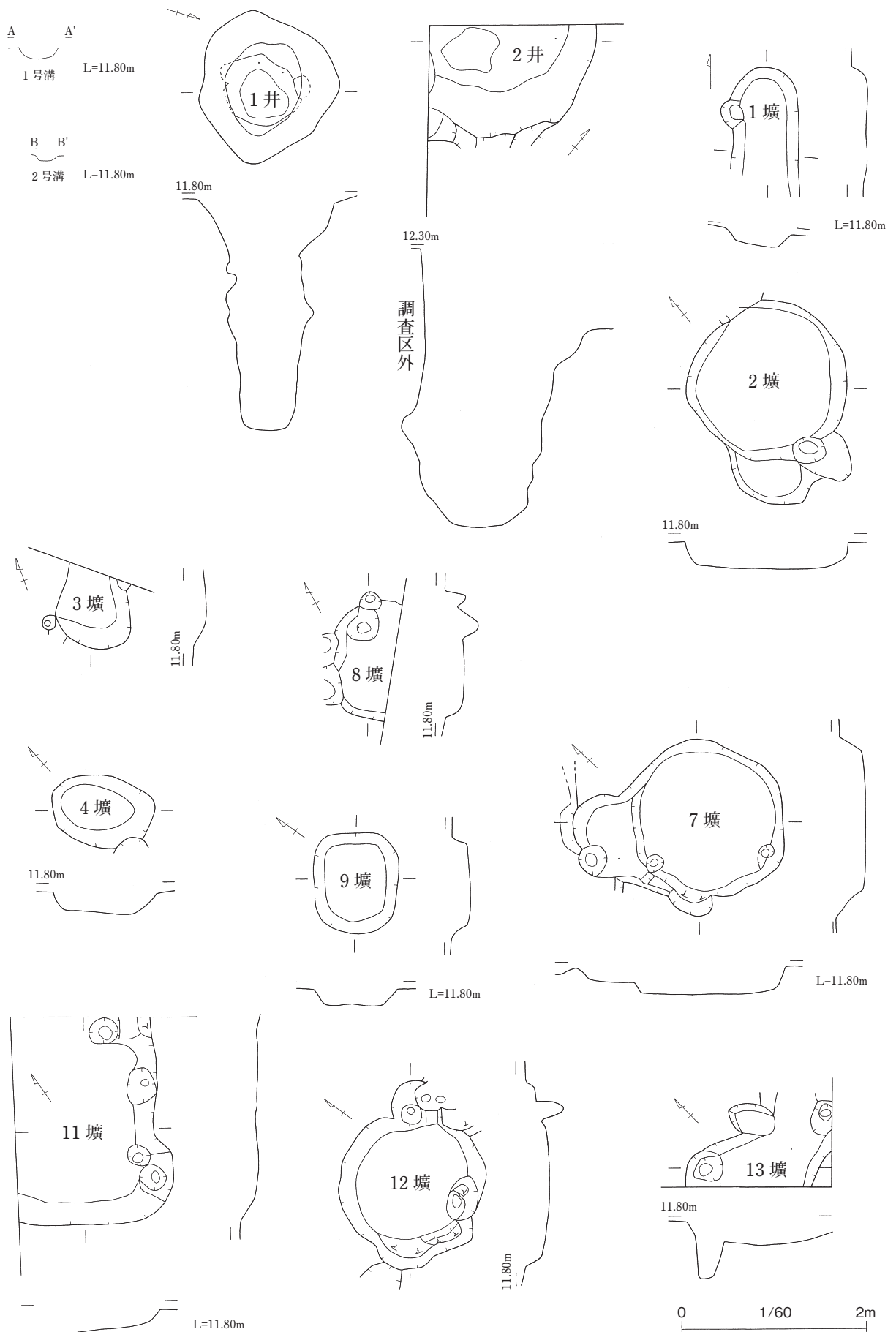


4T1号溝セクション

- 1 表土
- 2 暗灰褐色 / T◎, 砂利▲, LR, LB▲, C▲ 縮良
- 3 暗灰褐色 / T, C◎, LR, LB, 白色R▲ 縮良
- 4 暗灰褐色 / C, 赤色B◎, LR, LB▲ 縮良
- 5 暗灰褐色 / C, 赤色B◎, LR, LB▲ 縮良
- 6 暗灰褐色 / LR, LB, C▲ 縮良
- 7 暗灰褐色 / LR, LB▲, 縮やや悪
- 8 灰褐色 / LR, LB▲, やや粘有 縮やや悪
- 9 灰褐色 / LR, LB, FE▲ 粘有 縮無
- 10 灰褐色 / LR, LB, FE▲ 粘有 縮無
- 11 暗灰褐色 / LR, LB, FE▲ 縮悪
- 12 灰白色 / LR, LB▲ 縮良
- 13 灰褐色 / LR, LB▲ 縮やや悪
- 14 暗灰褐色 / LR, LB, FE▲ 縮悪
- 15 黄褐色 / LR, LB◎, 砂利△ 縮良
- 16 暗灰褐色 / 砂利◎, T◎, LR, LB△ 縮良
- 17 暗灰褐色 / T◎, LR, LB▲ 縮良
- 18 暗灰褐色 / T, C◎, 砂利△ 縮良
- 19 暗灰褐色 / T◎, LR, LB▲ 縮良
- 20 黒褐色 / LR, LB▲ 縮良

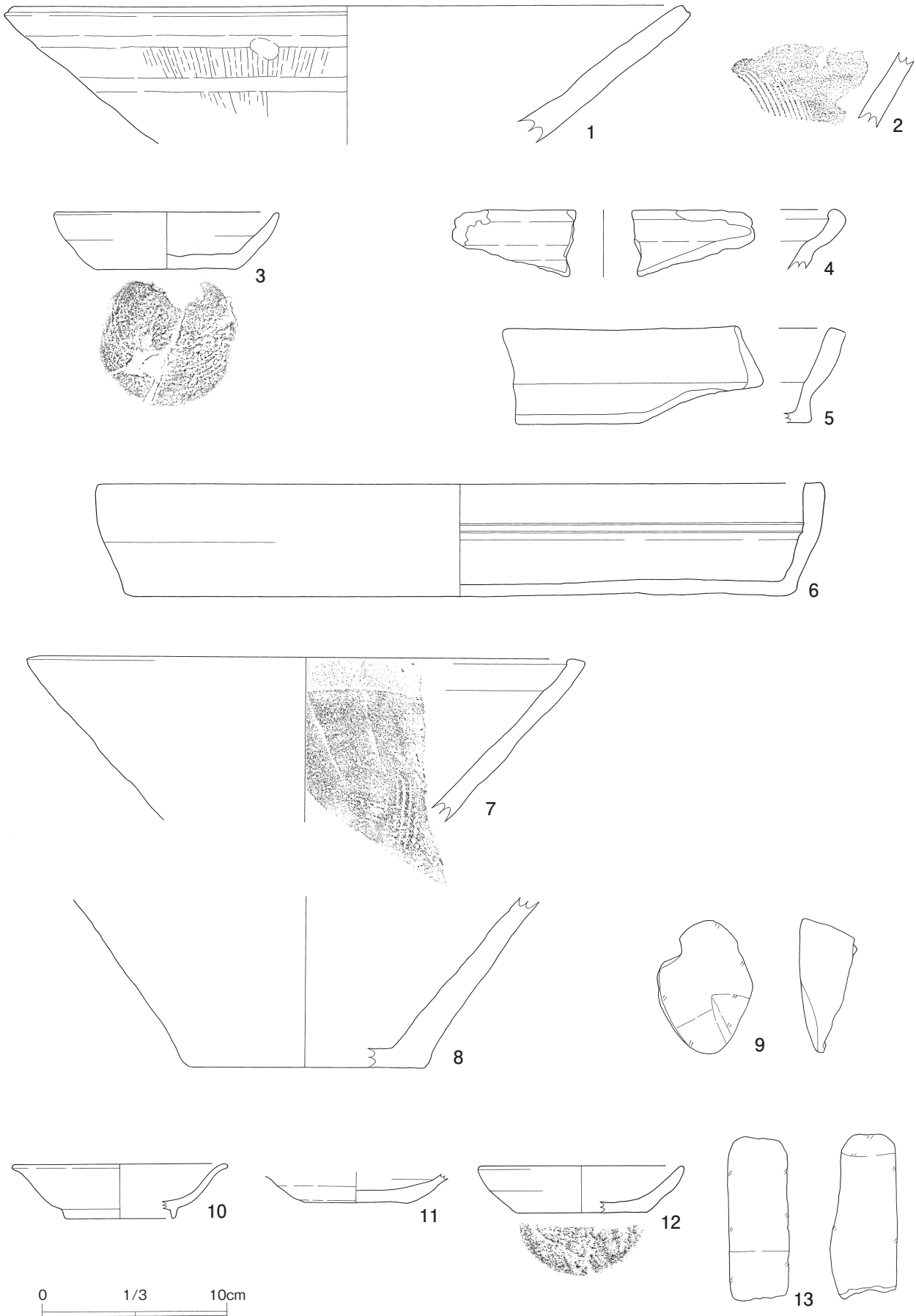


第29図 第39次遺構図1

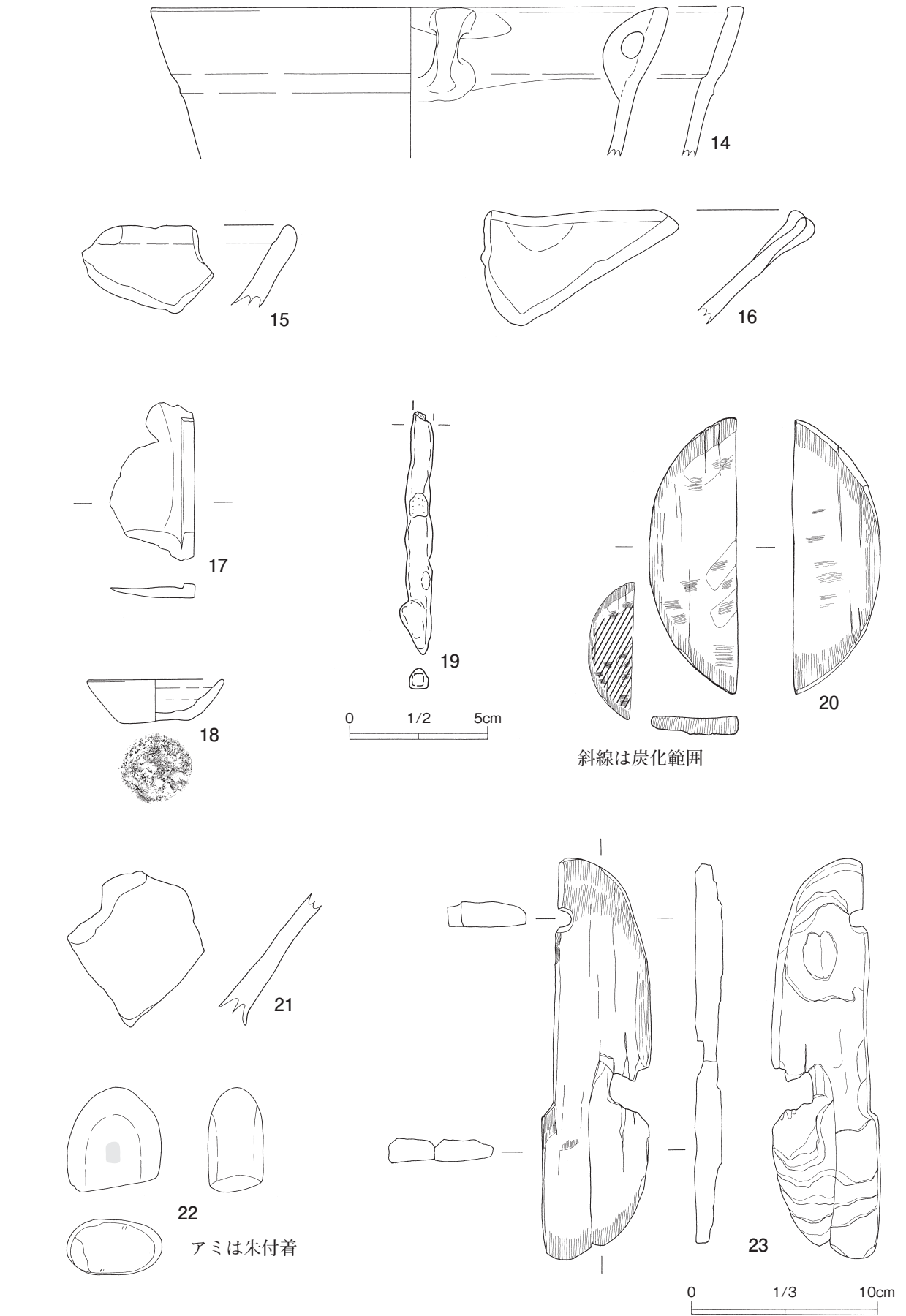


第30図 第39次遺構図 2

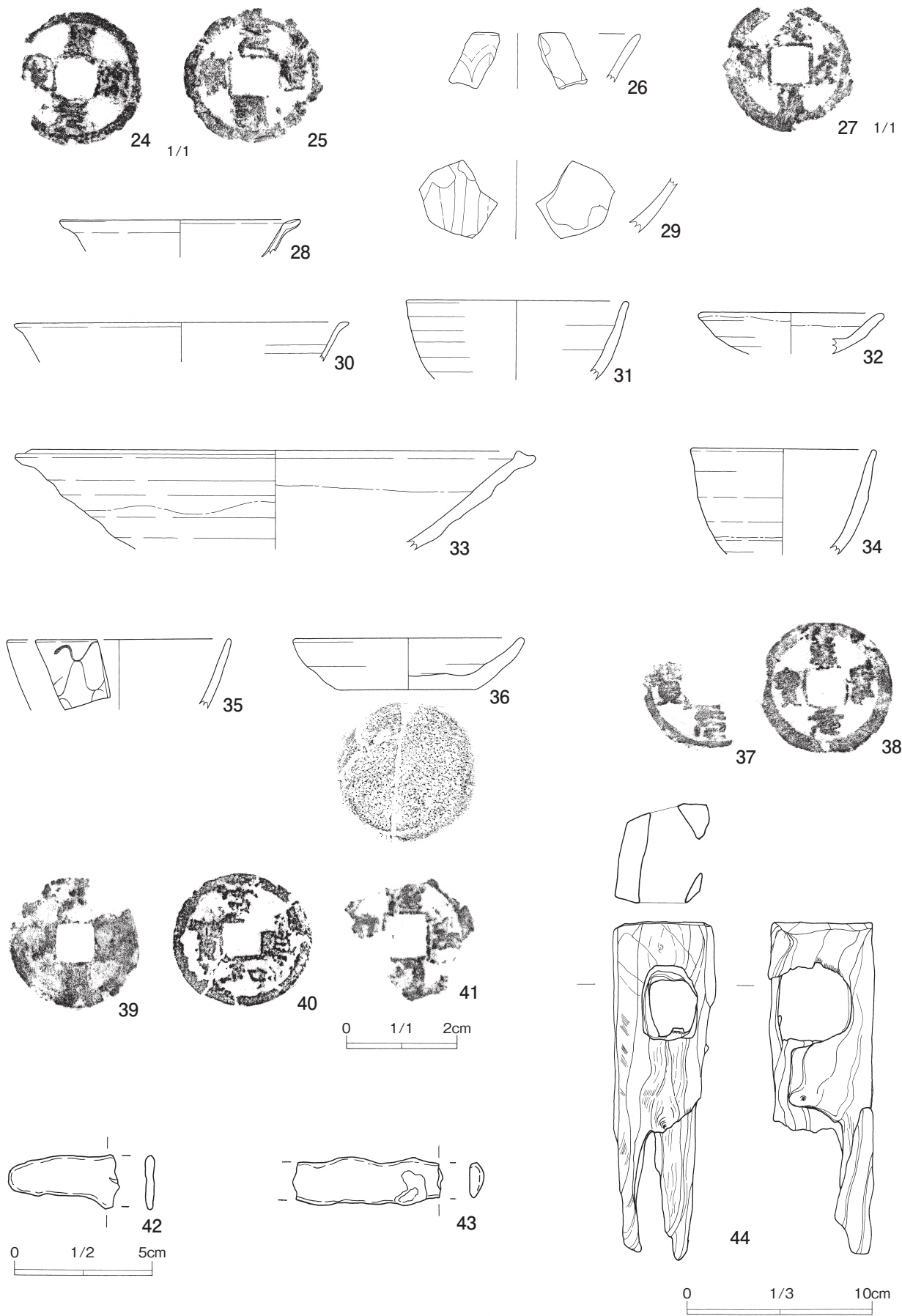




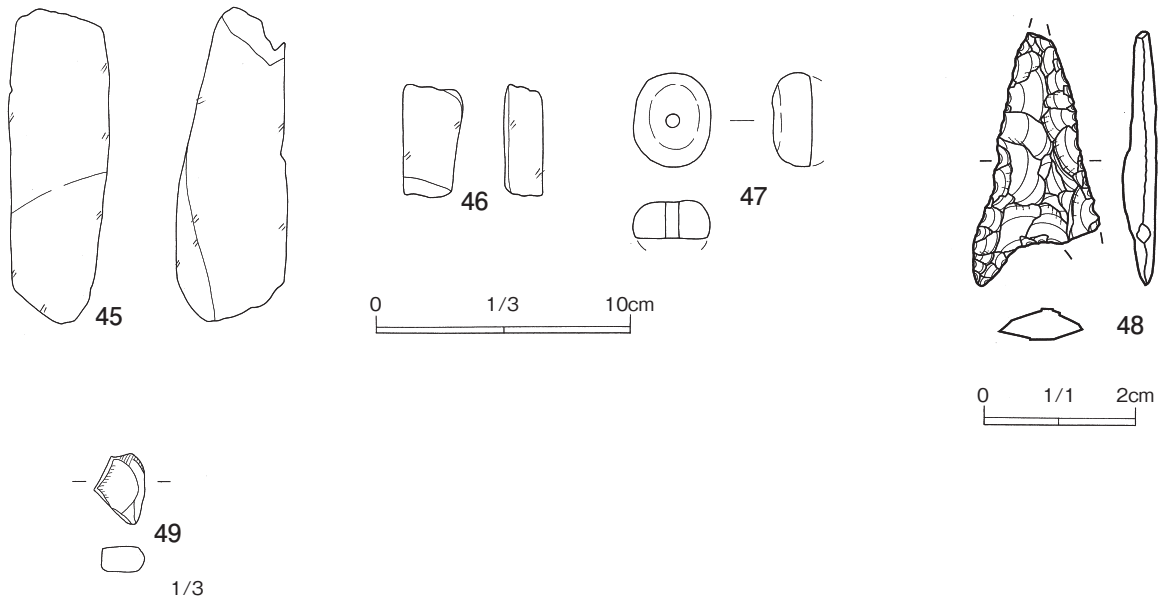
第31図 第39次遺物 1



第32図 第39次遺物 2



第33図 第39次遺物 3



第34図 第39次遺物 4

( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代
1号溝		直線	ほぼ直上	幅☆56	☆18	暗灰褐色/含 T		
2号溝		直線	ほぼ直上	幅☆35	☆15	暗灰褐色	焙烙/土鍋	
2T1号溝			ほぼ直上	幅120	20		瀬美(播鉢=登1,2)/常滑(片口鉢=8形式カ)/片口鉢/素焼播鉢/かわらけ=15中~16c前	17c初~
3T1号溝				幅(170)	☆60	暗灰褐色(灰味)	中国(白磁皿15中~16c中)/瀬美(縁釉小皿=大1カ/かわらけ=16c後~末	16c後~
4T1号溝				幅(130)	☆60	暗灰褐色	片口鉢=13c後、14c後/土鍋=15c後/硯	15c後~
1号井戸		円形	ロート状	170	250	暗灰褐色	かわらけ=16c中?	
2号井戸		不整円形	ほぼ直上	(186)	215	不明	常滑(片口鉢=14c以降)/軽石/種子(桃)	14c~
1号土壌		隅丸長方形	ほぼ直上	(160)×70	18	乳灰褐色		
2号土壌		円形	ほぼ直上	174	30	暗灰褐色/含 T		
3号土壌		長方形?	ゆるやか	(92)×(70)	16	暗灰褐色		
4号土壌		楕円形	ほぼ直上	112×78	☆25	不明		
5号土壌	欠番							
6号土壌	欠番							
7号土壌		円形	ゆるやか	180	☆28	暗灰褐色	播鉢/銭貨	
8号土壌		隅丸長方形	ほぼ直上	130×(70)	☆20	暗灰褐色	龍泉(青磁碗=13c)	13c~
9号土壌		隅丸長方形	ほぼ直上	110×92	20	不明	甕	
10号土壌	欠番							
11号土壌		長方形	ほぼ直上	(226)×(170)	20	不明	かわらけ/銭貨/弾丸/スラグ	
12号土壌		円形	ほぼ直上	160	☆26	灰褐色		
13号土壌		長方形?	ゆるやか	(108)×(74)	☆44	暗灰褐色		

第9表 第39次遺構一覧表

( ) は残存値。※は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	片口鉢	常滑	2T1溝 (No. 48)	*37.0	—	—	8形式カ		鉢002	
2	播鉢	瀬戸美濃	2T1溝 (No. 18)	—	—	—	登1・2		鉢006	
3	かわらけ	在地	2T1溝 (No. 59)、2T	12.0	7.5	3.1		15c 中~16c 前	K003	
4	土鍋	在地	2T1溝 (No. 45)	—	—	—		14c~15c 前	D001	外面煤付着
5	ほうろく	在地	2T1溝 (No. 55)	—	—	5.1			H001	外面煤付着
6	ほうろく	在地	2T1溝 (No. 57)、3T1溝、	*39.2	*36.0	6.1			H002	
7	播鉢	在地	2T1溝	*30.0	—	—			鉢007	
8	片口鉢	在地	2T1溝 (No. 10)	—	*13.0	—			鉢008	
9	磨石	石(角閃石安山岩)	2T1溝 (No. 54)	—	—	—			石006	
10	白磁皿	中国	3T1溝 (No. 41)	*11.6	*6.0	2.9	C-1	15c 中~16c 中	白002	
11	縁釉小皿	瀬戸美濃	3T1溝 (No. 42)	—	*5.6	—	大1カ		皿002	
12	かわらけ	在地	3T1溝 (No. 38・43)	*11.0	*7.0	2.5		16c 後~未	K004	
13	砥石	石(泥岩)	3T1溝	(9.0)	3.3	—			石001	
14	土鍋	在地	4T1溝 (No. 108)	—	—	—		15c 後	D002	
15	片口鉢	在地	4T1溝 (No. 110)	—	—	—		13c 後	鉢003	
16	片口鉢	在地	4T1溝 (No. 111)	—	—	—		14c 後	鉢004	
17	碗	石	4T1溝 (No. 105)	(8.7)	(4.5)	0.9			石005	
18	かわらけ	在地	1井 (No. 119)	7.4	3.7	2.2~2.4		16c 中?	K001	見込ナデ、被熱、 内外煤付着
19	釘? (角)	鉄	1井 (No. 120)	8.7	0.5	—			0039-001	
20	桶(底板)	木	1井	(18.0)	—	1.0			0039-0004	
21	片口鉢	常滑	2井	—	—	—		14c 以降	鉢005	砥石
22	磨石	石(角閃石安山岩)	2井 (No. 124)	(6.0)	5.1	3.0			石007	朱付着
23	下駄	木	2井	21	(6.0)	1			0039-0005	
24	錢貨(聖宋元宝)	銅	3T1溝 (No. 32)	—	—	—			0039-0005	
25	錢貨(元豊通宝)	銅	7溝 (No. 94)	—	—	—			0039-0006	
26	青磁碗	龍泉窯系中国	8溝 (No. 122)	—	—	—	I-5	13c	青003	
27	錢貨(元豊通宝)	銅	11溝 (No. 81)	—	—	—			039-0007	
28	青磁杯	龍泉窯系中国	3T	*13.0	—	—	III-2	13c 中~14c 前	青001	
29	青磁碗	龍泉窯系中国	一括	—	—	—	I-5	13c	青002	
30	白磁碗	中国	一括	*18.0	—	—	V-4	12c~13c	白001	
31	丸碗	瀬戸美濃	一括	*12.0	—	—	大3・4		碗001	
32	縁釉小皿	瀬戸美濃	一括	*10.0	—	—	大1		皿001	
33	卸目付大皿	瀬戸美濃	2T	*28.0	—	—	古後III		鉢001	
34	丸碗	肥前(唐津)	No. 98、一括	*10.0	—	—		17c 前	碗002	
35	染付碗	肥前(磁器)	2T	*12.0	—	—		17c 後	伊001	
36	かわらけ	在地	2T	12.4	7.5	2.8		15c 中~16c 前	K002	見込ナデ
37	錢貨(〇〇元宝)	銅	一括	—	—	—			0039-0001	
38	錢貨(紹聖元宝)	銅	一括	—	—	—			0039-0002	
39	錢貨(不明)	銅	No. 77	—	—	—			0039-0003	
40	錢貨(宣和通宝)	銅	No. 77	—	—	—			0039-0004	
41	錢貨(元〇通宝)	銅	側溝	—	—	—			0039-0010	
42	刀子	鉄	2T	(4.0)	1.9	0.3			0039-0005	
43	刀子?	鉄	2T	(5.5)	1.2	0.4			0039-0006	
44	加工材	木	2T1溝、井	(18.3)	(5.4)	—			0039-0002	ホゾ穴あり
45	砥石	石(泥岩)	一括	(12.6)	4.5	—			石002	
46	砥石	石	一括	(4.5)	3.9	—			石003	
47	有孔石製品	石	3T (No. 24)	3.9	3.0	1.5			石004	
48	石鏃	石(安山岩)	4T1溝	21.7	20.8	5.4			0039-0001	
49	火打石?	石	P No. 87	2.8	2.0	1.0			0039-0002	

第10表 第39次遺物一覧表



調査前風景

## 第Ⅶ章 第41次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成5年3月23日、開発者神田茂氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋（仮換地36街区4画地の一部、5画地）における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

5月14日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任嶋村英之が担当した。

調査協力員

五十嵐喜一郎 大熊文 大塚光枝 佐藤ヨシ  
関口のぶ 野口二三子 馬場タチ子 山口保夫  
吉田美津 若林美知子

文化庁通知 6委保記第5-316号

平成6年4月27日

調査期間 平成6年1月17日～3月22日

調査面積 83m<sup>2</sup>

(調査の経過)

建設予定地に調査区を設定し遺構確認レベル（ローム層）まで重機により掘り下げた。遺構検出を行ったが、調査区を斜めに簡易水道管が横断するが攪乱を伴うのでそのままとした。東端で骨・六道銭が出土するため東側を拡張した。散在する攪乱部分を先行して掘り下げ限界を確定した。墓壙や溝内に墓壙があり手間がかかるため、進行上溝と墓壙を併行して調査した。さらに遺構の広がりを確認するべく南側を拡張調査をした。時間的制約もあり検出するにとどめた。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

北に35・36次、東にKB2調査区が位置する。35・36次では溝が縦横に多数検出された。KB2区では当調査区の溝につながるものが確認されている。

### 第2節 遺構と遺物

溝が調査区全域に6条・土壙が35基検出され、そのほとんどが墓壙である。

【溝】

**1号溝** 北寄りを東西方向に弧状に走り、幅150cm、深さ55cmを計り規模は調査区随一である。多くの土壙群より古い。溝内で人骨が出土しているが掘り込み不明な墓壙と思われる。KB2区14・1・21号溝、私武7次2号溝につながる。下層で炭化物が層状に堆積していた。溝と現代の水道管の軸はほぼ一致しており長い期間この走行軸継承されていたものと思われる。

○出土遺物 青磁香炉（1）瀬戸美濃稜皿（2）、種子に金泥を施した板碑（4）がある。覆土中位で水平に出土し、溝に伴うものか不明である。天文14年（1545）の銘が刻まれる。

**2号溝** 幅70cmの小規模なもので南北に走る。肥前磁器碗が出土しており廃城後と思われる。

**3号溝** 幅44cmで、4号溝より古く17世紀初頭までの唐津皿（6）が出土している。

1・3溝は廃城以前、2・4は廃城後である。

【土壙】

調査区内で中央から東部にまとまって35基確認された。東側に重複するものが多い。多くは規模が100×50cm内外で長方形を呈する。

実測図は、骨・銭貨等の出土状況を示した土壙を先行して縮尺1/20で、他を1/40で掲載した。

**2号土壙** 4壙と重複。銭貨1枚（13）・かわらけ片（12）出土。

**3号土壙** 頭骨・脊椎・脚骨出土。掘込不明。頭北

**4号土壙** 2壙と重複。銭貨6枚（14～19）・歯・かわらけ出土。小規模。

**5号土壙** 歯出土。中央のみ残存。

6号土壙 歯・銭貨6枚錆着(20)・人骨出土。頭位北。

7号土壙 頭骨・脚骨出土。頭北顔西。

8号土壙 32壙より古い。歯2箇所北側1溝No.3人骨のものか。頭位北?

9号土壙 歯・かわらけ(21-原位置移動の可能性あり)出土。

10号土壙 歯。かわらけ(22-伏位)出土。掘込不明。頭位北。

11号土壙 歯・脚骨?出土。掘込不明。頭位北?

12号土壙 頭骨・歯・脚骨・銭貨6枚(26~31)・かわらけ3点(23~25)出土。区域外拡張のため分割調査。頭位北。

13号土壙 銭貨6枚(32~38)出土

14号土壙 頭骨・脚骨?・銭貨3枚(41~43)・針状鉄製品2点(40)出土。頭位北。

16号土壙 歯・人骨出土。掘込不明。

17号(22)土壙 歯・銭貨6枚(44~49)出土。南枕?いずれも南側の土壙のものの可能性あり。

18号土壙 歯・頭骨出土。掘込不明

19号土壙 完形かわらけ(50-油煙付着)出土。

20号土壙 かわらけ(51)・銭貨6枚(52~57)出土。土壙北端に集中。北端に墓壙が重複か

23号土壙 歯・人骨出土。頭位北。

24号土壙 歯・大腿骨・銭貨9枚錆着+1枚(61)・かわらけ(60)出土。頭位北。

25号土壙 下顎・腕骨?・銭貨2枚(拓本無)・か

わらけ出土。

27号土壙 歯・銭貨6枚(65~70)・かわらけ出土。

28号土壙 歯(上下額)出土。

31号土壙 頭骨・大腿骨-重なる?・銭貨6枚(71~76)。針状鉄製品(77)出土。頭位北?

32号土壙 頭骨・脚骨・銭貨6枚(78~83)出土。頭位北顔西方。8・27壙より新しい。

33号土壙 歯・人骨出土。

34号土壙 人骨出土。

35号土壙 歯・人骨・銭貨6枚(拓本無)出土。

1溝No.1人骨 人骨・歯出土。掘込不明。

1溝No.2人骨 頭骨・歯出土。掘込不明。

1溝No.3人骨 人骨・銭貨8枚(86~91)・かわらけ(84・85)出土。南枕?掘込不明。

#### 第1トレンチ

1-1Tで1号溝が確認されかわらけ(100~102)が出土している。1-2Tで土壙群が確認され、確認面上位からかわらけ(101・102)・銭貨(108・109)が出土している。

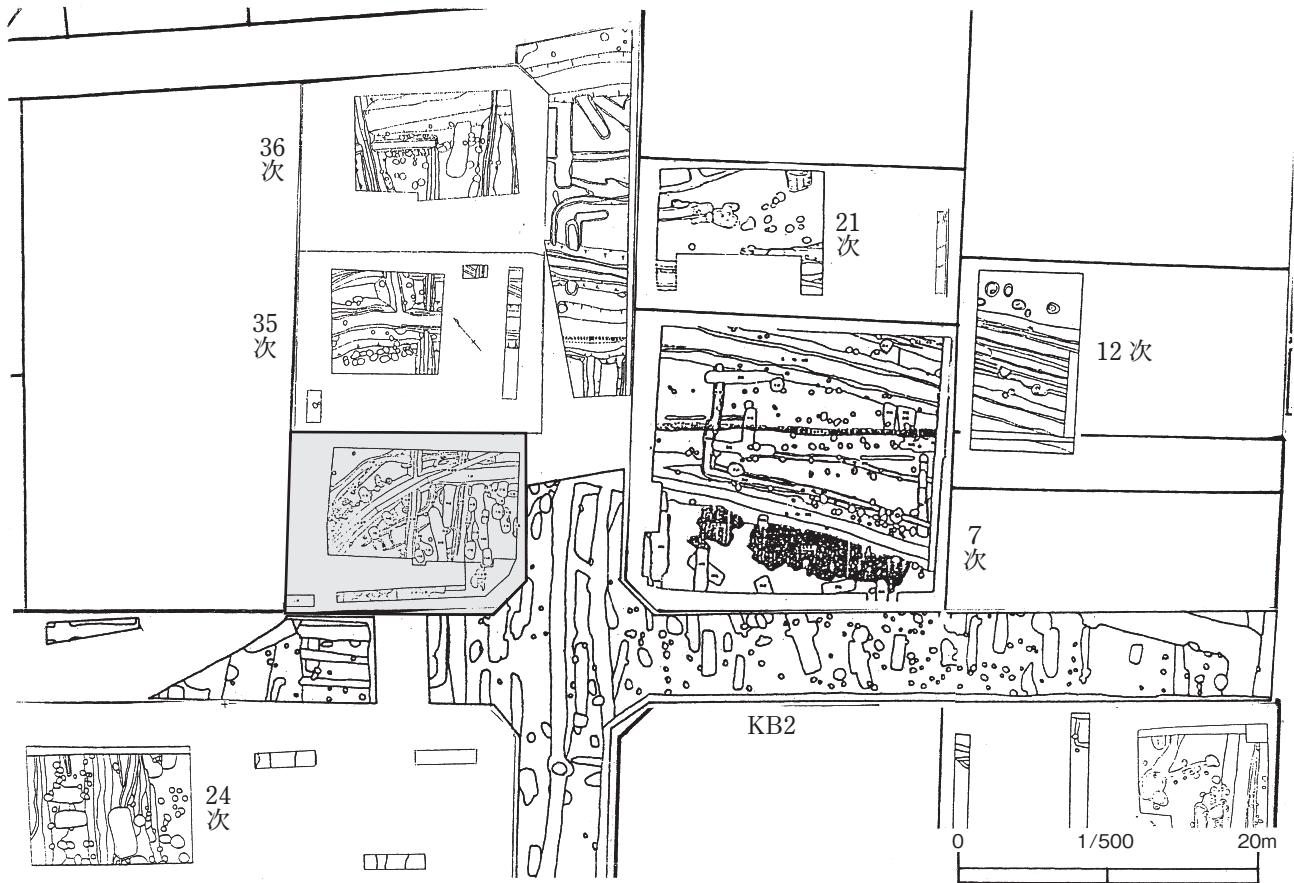
#### 遺構外出土遺物

陶磁器では志野丸碗(95)・丸皿(96)が、スラグは100g出土。

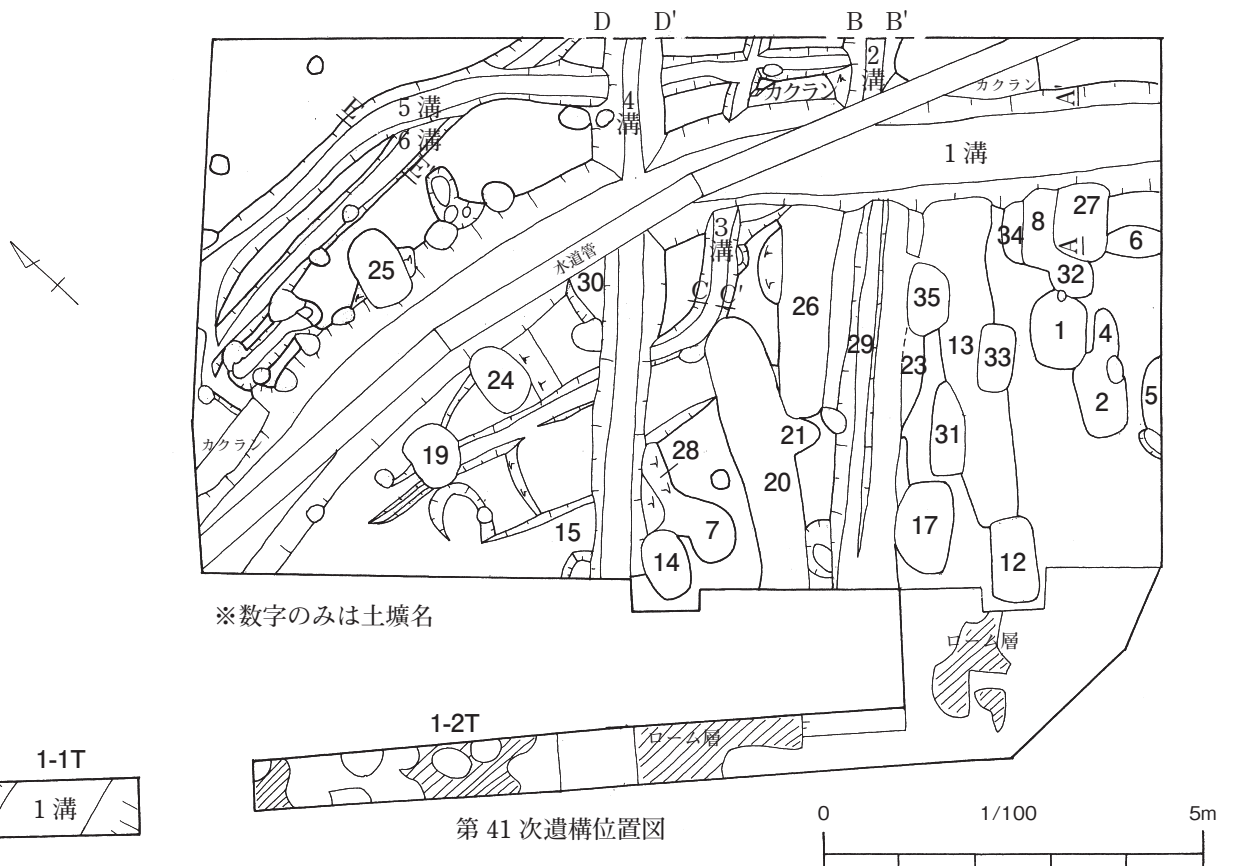
他に縄文土器(111)・磨石(112)・石鏃(113)がある。



調査前風景



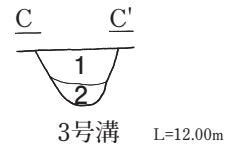
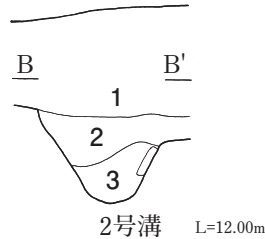
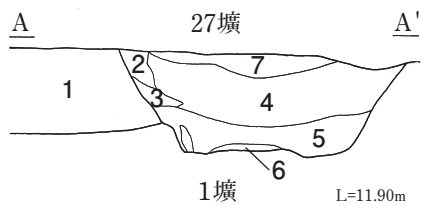
第41次周辺の調査



第41次遺構位置図

第35図 第41次周辺の調査と遺構位置図





27号墳 1号溝セクション

- 1 暗灰褐色 / LB◎, LR◎
- 2 暗灰褐色 / LB, LR◎
- 3 LB (ソフト・ハード) の2次堆積
- 4 暗灰褐色 / LR▲, C▲, SR▲
- 5 暗灰褐色 (灰色) / FE◎, LB, C△, SR△
- 6 灰白色粘質土 / 白色粘土 B, LR
- 7 暗灰褐色 / LR☆, C▲, SR▲

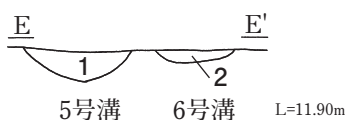
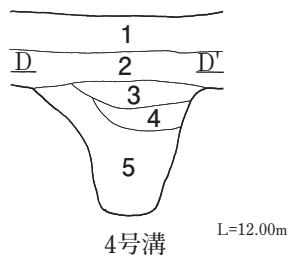
→27号墳  
1号溝

2号溝セクション

- 1 表土
- 2 暗灰褐色 / LR◎, C△, SR▲
- 3 暗灰褐色 / FE◎, LR▲

3号溝セクション

- 1 暗灰褐色 / LR◎, S△, CR△
- 2 暗灰褐色 / LR☆, CR△



土層説明凡例  
色調/含有物  
テフラ=T  
ローム=L  
炭化物=C  
焼土=S  
酸化鉄=FE  
黒褐色=BB  
黒色=B  
褐色=Br  
粒子=R  
ブロック=B

非常に多い=☆  
多量=◎  
少量=△  
微量=▲  
万遍なく=アンダーライン  
やや明るい=やや明  
やや暗い=やや暗  
非常にやわらかい=軟度高  
やわらかい=軟質  
やややわらかい=軟度低  
かたい=堅緻  
縮まり良し=縮良  
縮まり悪し=縮悪  
粘性強し=粘強  
粘性有り=粘有

4号溝セクション

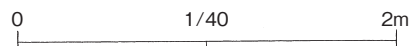
- 1 表土
- 2 暗灰褐色 / LR☆, BBR▲, CR▲ 堅緻
- 3 暗灰褐色 / LR◎, C▲, SR▲
- 4 暗灰褐色 / LR
- 5 暗灰褐色 (黄色) / LR△, C▲, SR▲

5号溝セクション

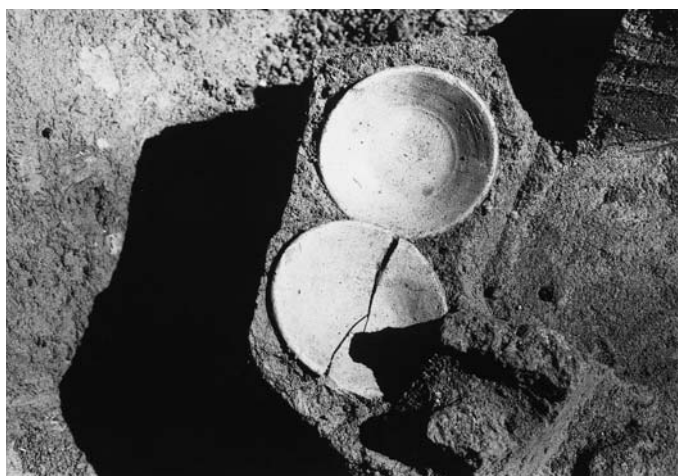
- 1 黒褐色

6号溝セクション

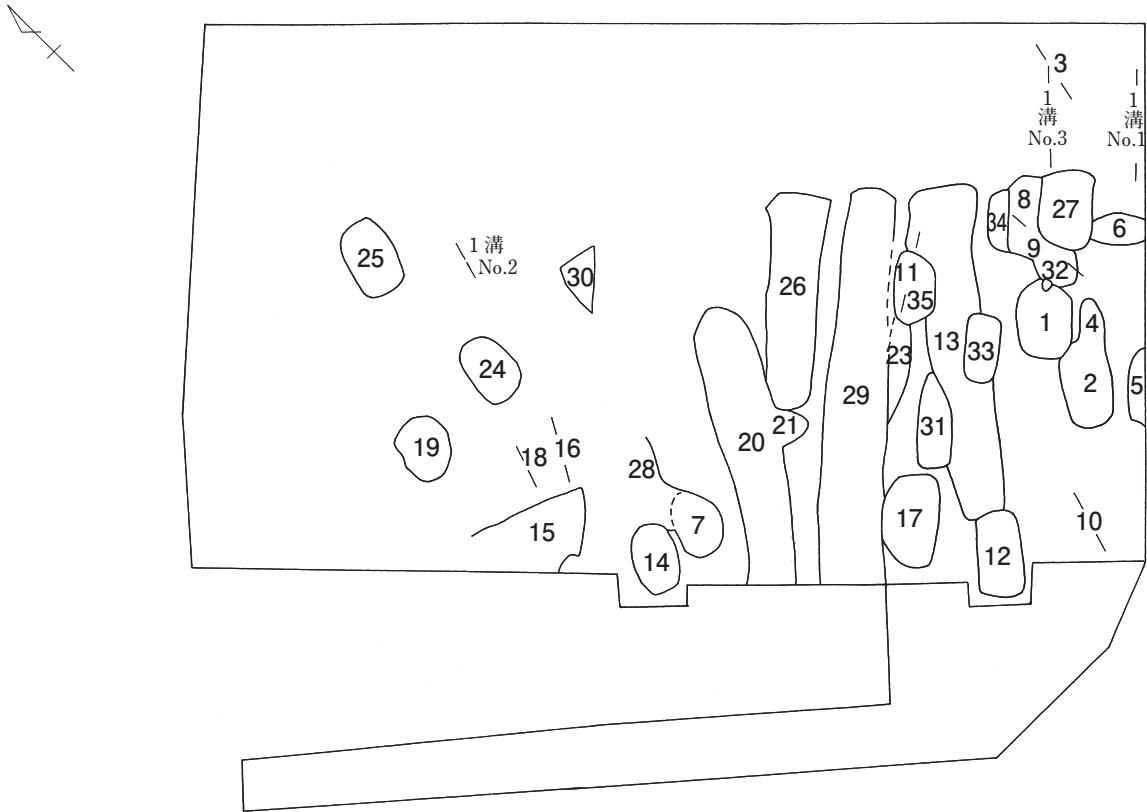
- 2 暗灰褐色 / LR



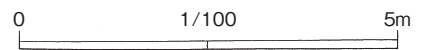
第36図 第41次遺構 1



1号溝 No. 3人骨かわらけ (No. 84, 85) 出土



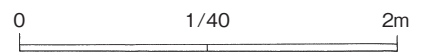
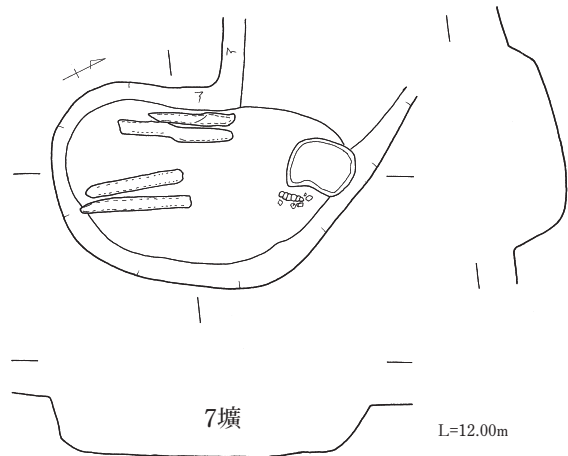
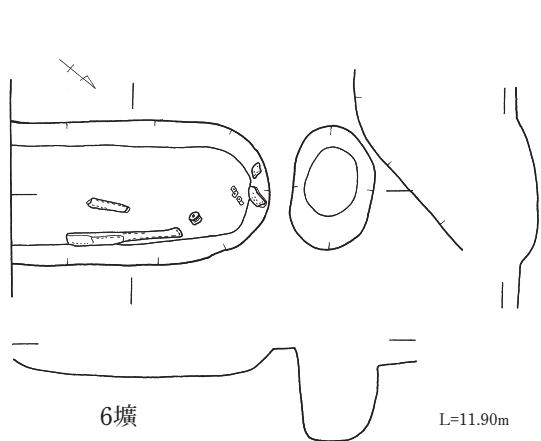
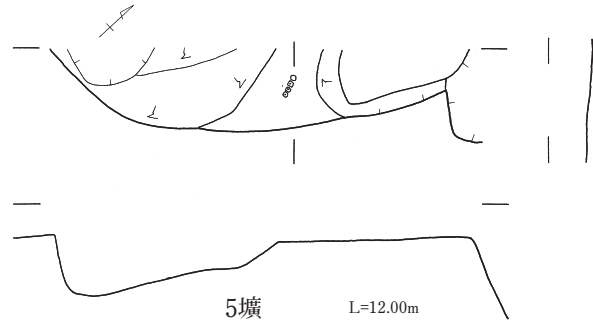
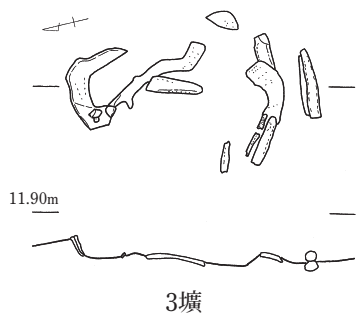
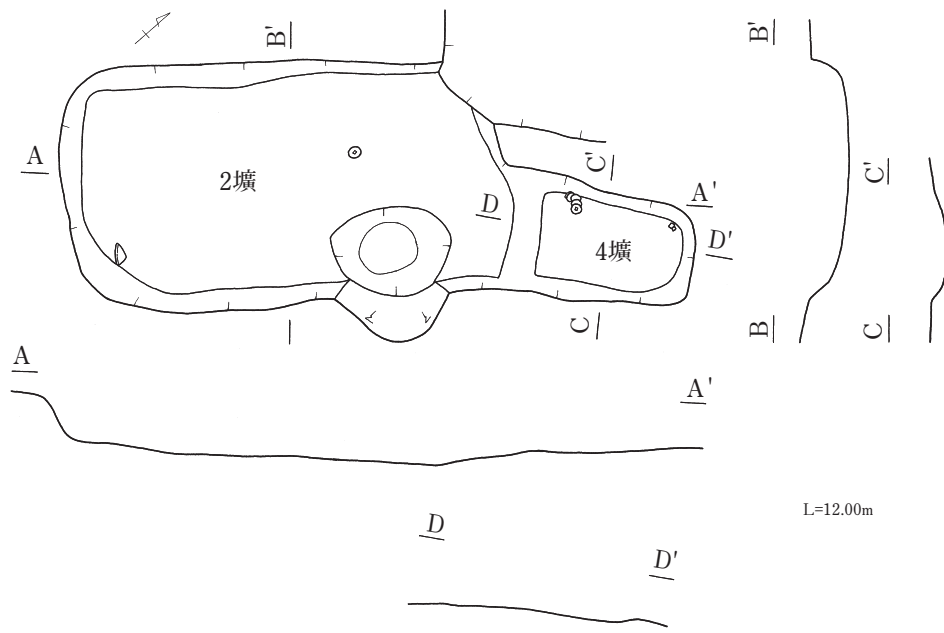
土壙位置図



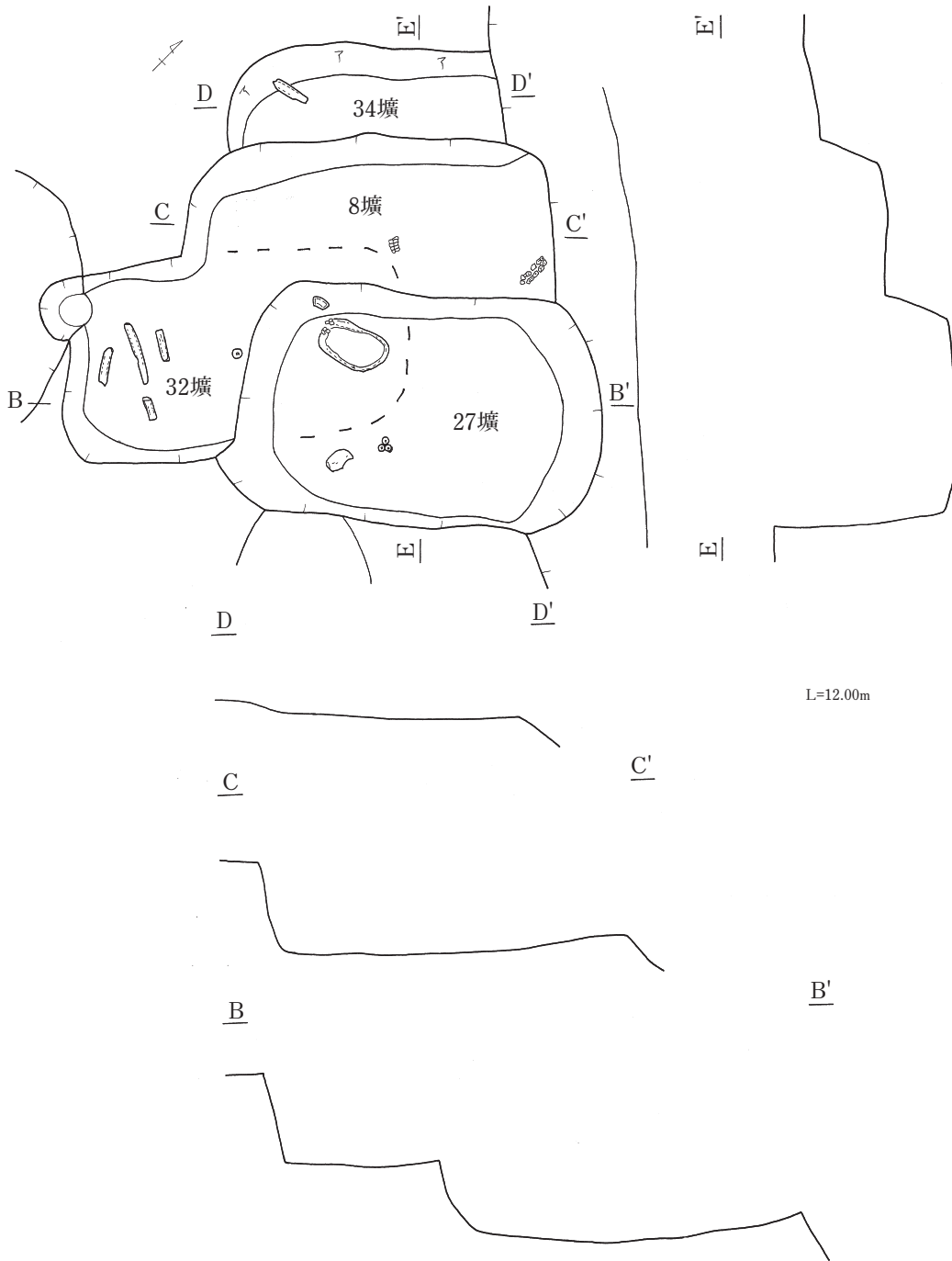
第37図 第41次遺構 2 (土壙位置図)



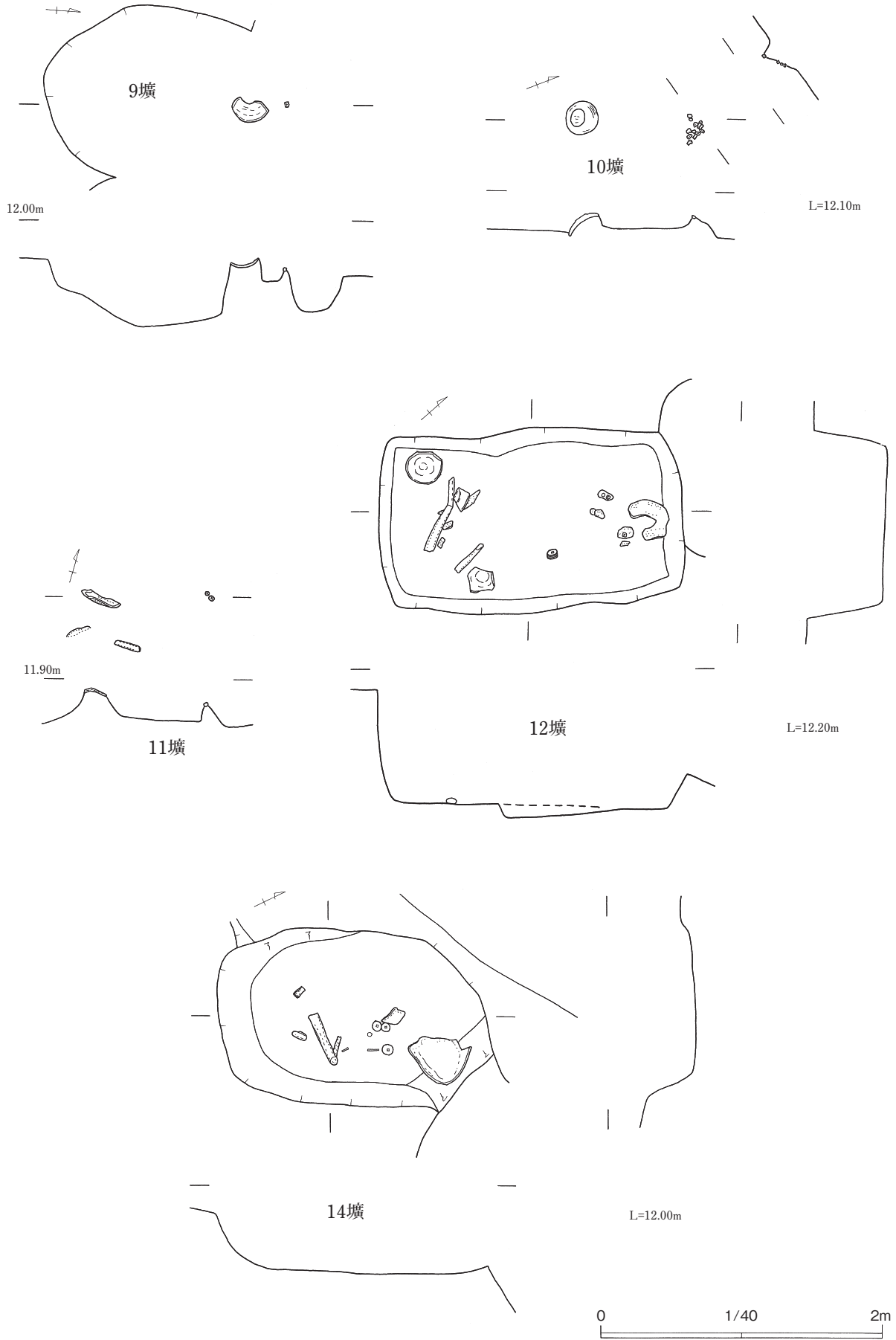
1T かわらけ (No.102) 出土



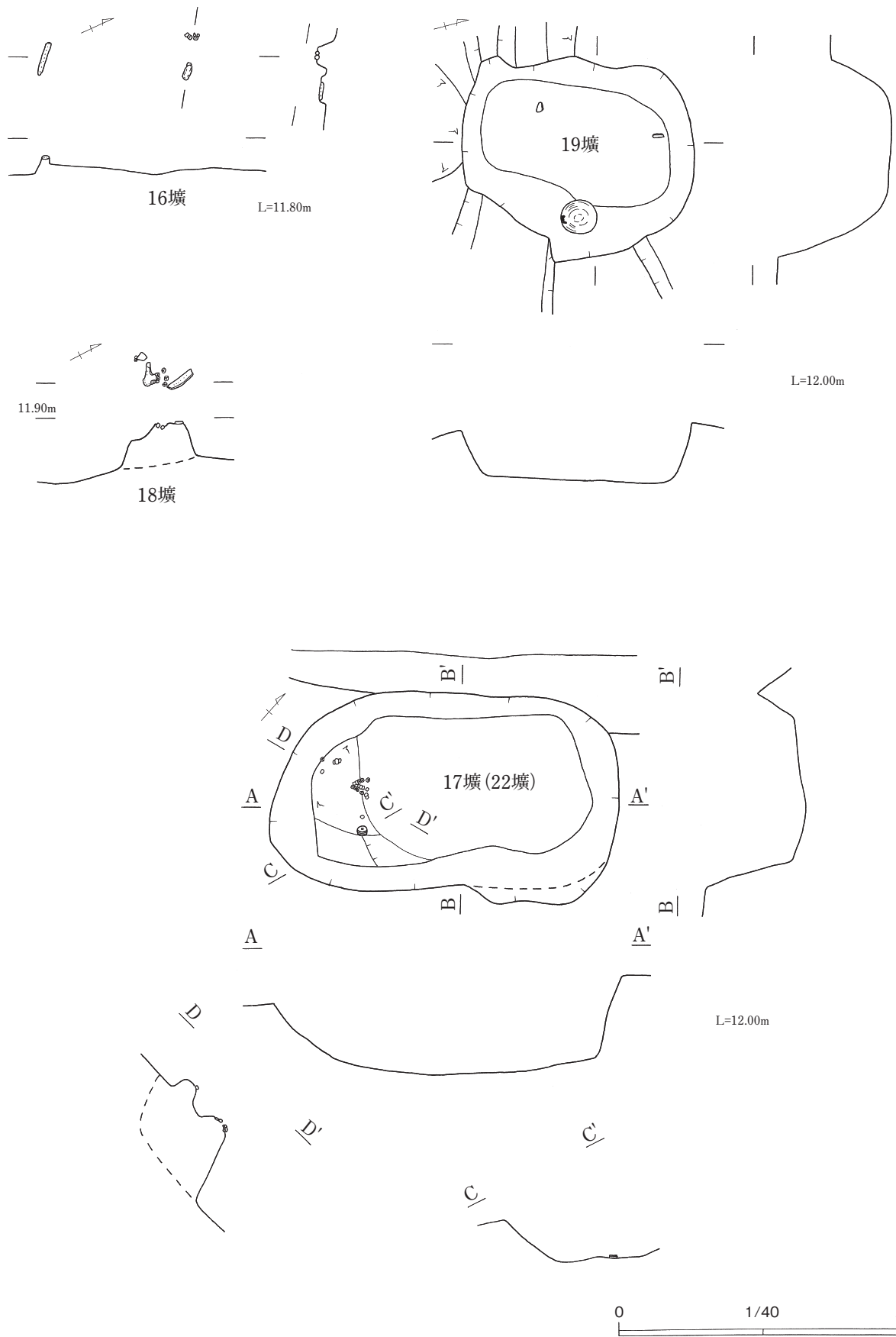
第38図 第41次遺構3



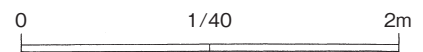
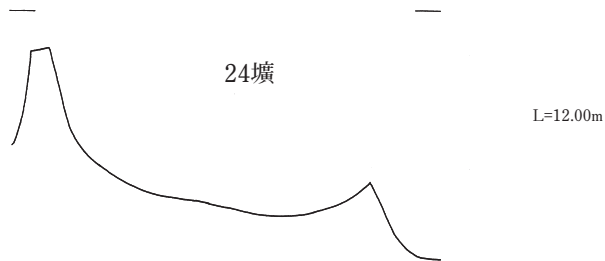
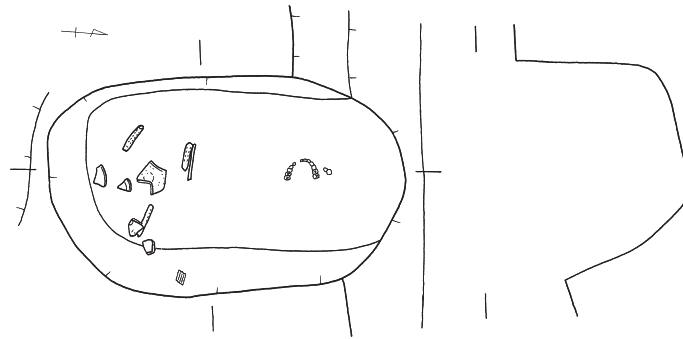
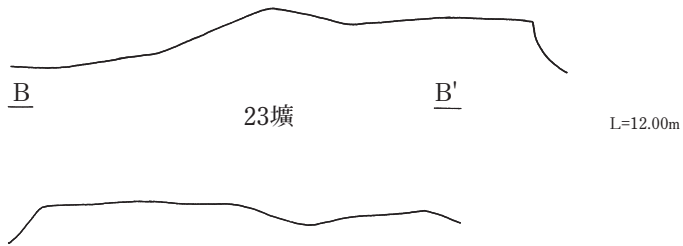
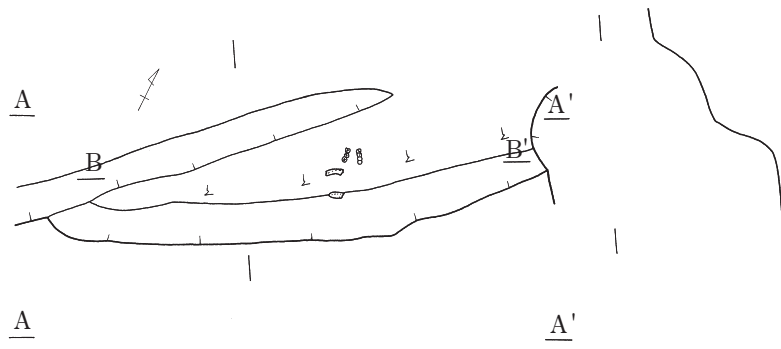
第39図 第41次遺構 4



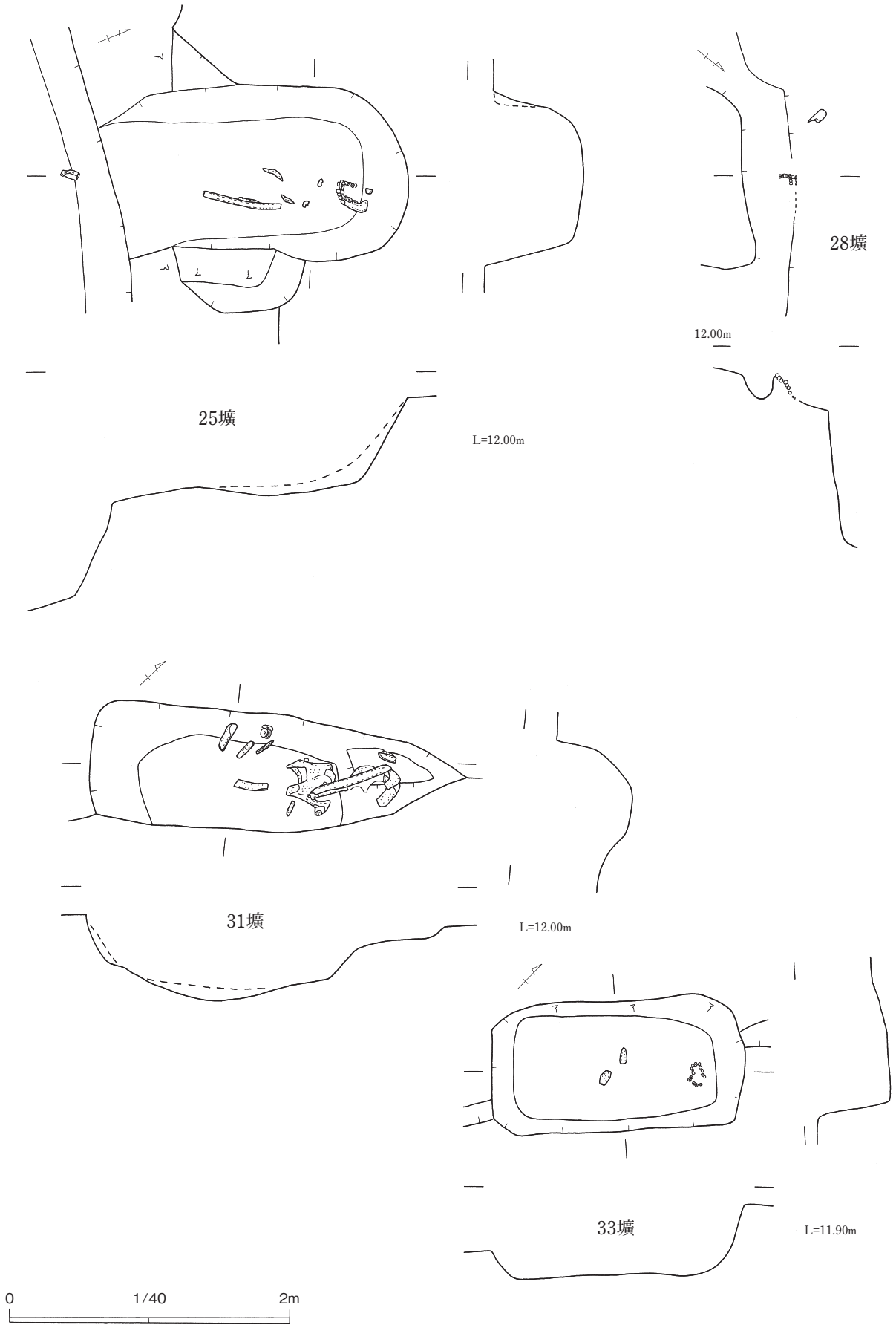
第40図 第41次遺構5



第41図 第41次遺構6

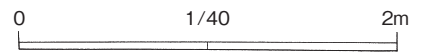
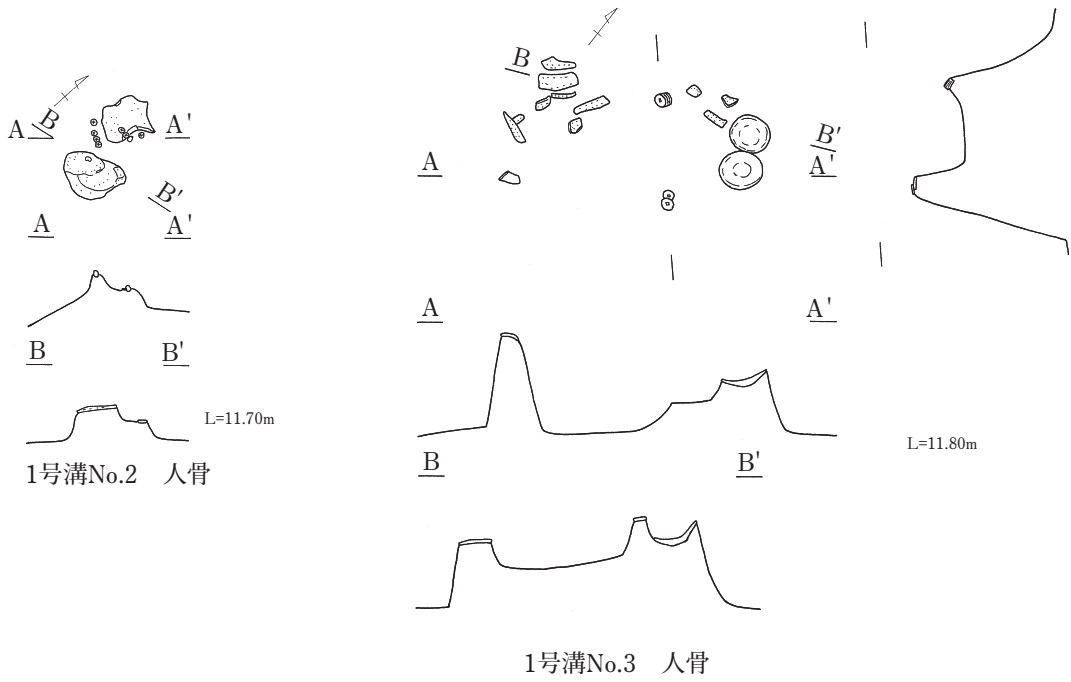
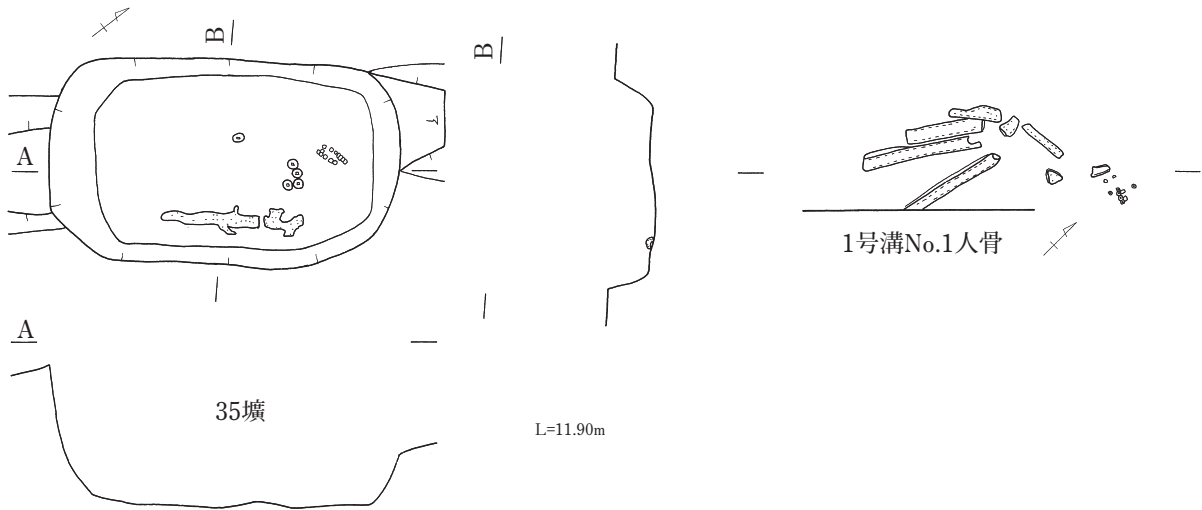


第42図 第41次遺構7

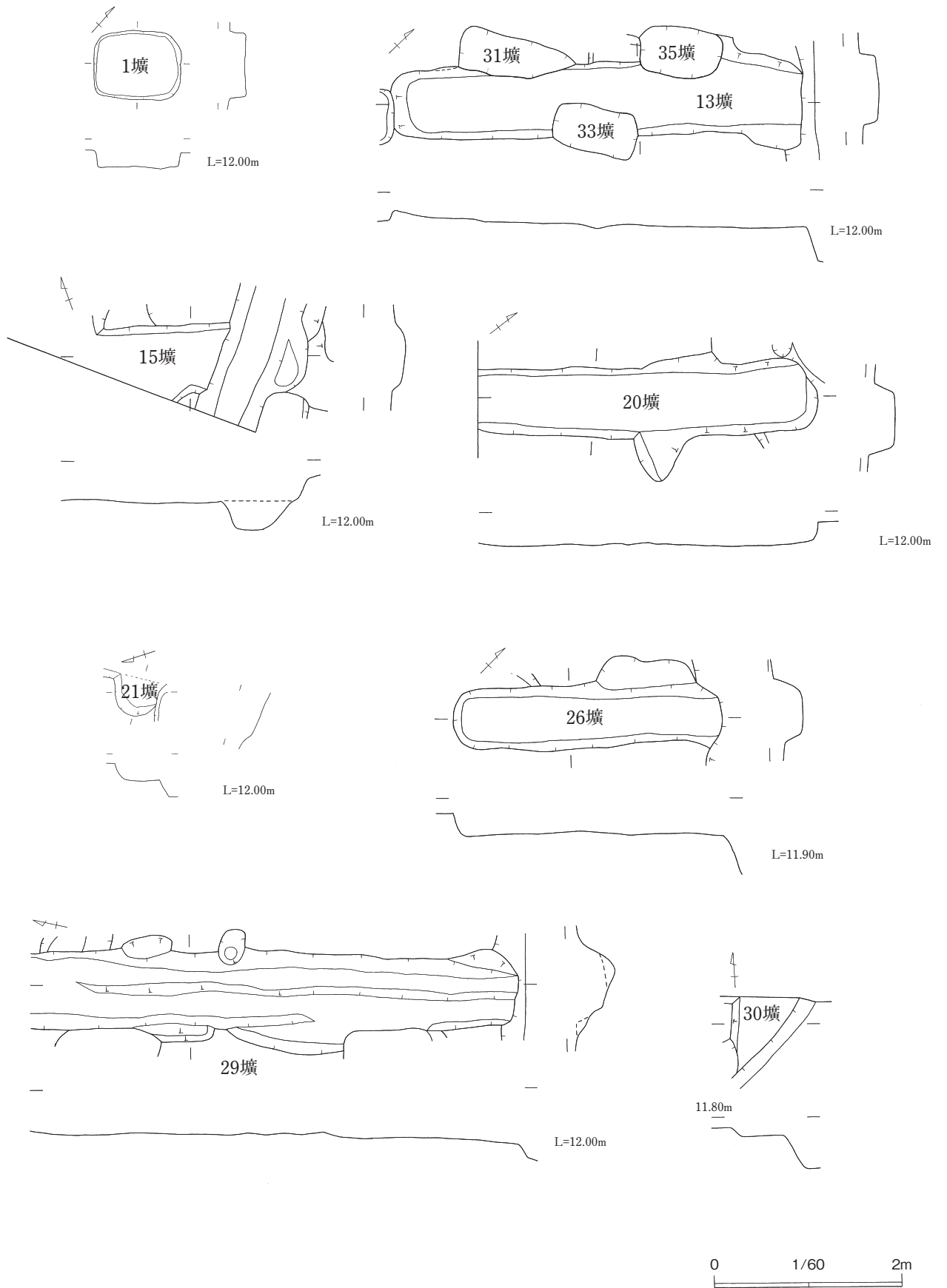


第43図 第41次遺構 8





第44图 第41次遺構9



第45図 第41次遺構10

( )は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	25・27壕→○ →2・4溝、13・ 25壕	弧状に屈 曲	箱堀	幅☆150	☆55	暗灰褐色	龍泉?(青磁香炉=15c?)/ 瀬美(稜皿=大3カ)/かわらけ =15中~16c前/金泥板碑		
2号溝	1溝、17・23壕? →○→29壕	直線	毛抜き堀	幅☆70	☆45	暗灰褐色	肥前磁器(碗=17~18c)/か わらけ/板碑	17c~	
3号溝	○→4溝/?1・ 5溝	L字に屈 曲	毛抜き堀	幅☆44	☆30	暗灰褐色/含LR	唐津(鉄絵皿=16末~17c前) /かわらけ/板碑		
4号溝	1・3・5溝、15壕 →○/?28・30 壕	直線	箱築研	幅☆94	☆70	暗灰褐色	瀬美(志野丸皿=登1・天目= 登2、登1カ2)/唐津(鉄絵皿= 16末~17c前)/肥前磁器(白 磁)/銭貨/人骨	17c~	
5号溝	○→4・6溝	弧状に屈 曲する	ゆるやか	幅☆58	☆16	黒褐色			
6号溝	5溝→○	直線	毛抜き堀	幅☆42	☆7	暗灰褐色/含LR	石臼		
1号土壕	2壕	長方形	直上	94×74	17	暗灰褐色/含 LB(多)・LR (多)・S・CR(微)		不明	
2号土壕	1・4壕	長方形	直上	(118)×65	12	暗灰褐色/含 LRしまり良し	かわらけ/銭貨	戦国時代	墓壕
3号土壕	溝	不明	不明	68×43	7	暗灰褐色/含LR	人骨	不明 戦国時代?	遺物のみ 墓壕
4号土壕	2壕	長方形	ゆるやか	(50)×28	5	暗灰褐色/含LR	かわらけ/銭貨/歯	戦国時代	墓壕
5号土壕	ピット等	楕円形	不明	110×(20)	不明	暗灰褐色/含 LR・LB・BBrL	歯		墓壕?
6号土壕	なし	隅丸長方 形	ゆるやか	(69)×37	7	暗灰褐色/含 LR・LB	銭貨/人骨	戦国時代	墓壕
7号土壕	28壕	楕円形	ほぼ直上	85×50	15	暗灰褐色/含 LR・LB	人骨		墓壕
8号土壕	9・27・32・34・ 壕、1溝	長方形	直上	(106)×(45)	36	暗灰褐色/含 LB(やや多)・ LR・CR(微)	歯		墓壕
9号土壕	32壕→○か /?8壕	楕円形	ほぼ直上	(77)×60	23	暗灰褐色(やや 黒味)/含LB (多)・LR	かわらけ=15中~16c前/歯	15c中~	墓壕
10号土壕	なし	不明	不明	55×15	8	暗灰褐色/含 LR少量	かわらけ=16c中/歯	16c中~	遺物のみ 墓壕
11号土壕	土壕、溝→○	不明	不明	55×26	(10)	暗灰褐色/含 LR少含	骨/歯		遺物のみ 墓壕
12号土壕	13壕?	長方形	直上	108×66	40	暗灰褐色/含 LB(多)・LR・ BBrL(微)	かわらけ=15中~16c前/銭 貨/人骨/歯	15c中~	墓壕
13号土壕	11・31・33壕、1 溝→○/?12・ 35壕	長方形	直上	(440)×80	18	暗灰褐色/含LR・ LB(少)・CR(少) ・SR(少)	志戸呂(播鉢=大4相当)/銭 貨/歯	16c末~	墓壕
14号土壕	○→4溝	長方形	ゆるやか	(96)×(62)	20	暗灰褐色/含LR	針/銭貨/人骨		墓壕
15号土壕	○→4溝	長方形?	ほぼ直上	(146)×70	22	暗灰褐色/含 LB(多)・LR・ CR(少)・焼骨片	かわらけ		?
16号土壕	土壕集中区	不明	不明	57×20	12	暗灰褐色/含LR	人骨/歯		遺物のみ 墓壕
17号土壕	○→2溝	隅丸長方 形	ほぼ直上 北辺ゆる やか	120×69	33	暗灰褐色/含 LB(多)・LR (多)・CR(微)	銭貨/人骨		墓壕
18号土壕	不明	不明	不明	20×15	20	暗灰褐色/含 CR(多)・CR (少)・CR(少)	歯/頭骨		遺物のみ 墓壕
19号土壕	○→3溝	長方形	直上	81×65	38	暗灰褐色/含 LR(多)	かわらけ=15中~16c前	15c中~	?
20号土壕	26壕→○→3 溝	長方形	直上	(364)×76	24	暗灰褐色/含 LR(少)	かわらけ/銭貨		墓壕
21号土壕	20壕	円形	ほぼ直上	55×(40)	18	暗灰褐色/含LR (多)・LB(多)	銭貨		?
22号土壕	=17壕								
23号土壕	○→29壕	不明	ゆるやか	(90)×40	☆18	暗灰褐色/含 LR(やや多い)	人骨/歯		墓壕?

第11表 第41次遺構一覧表1

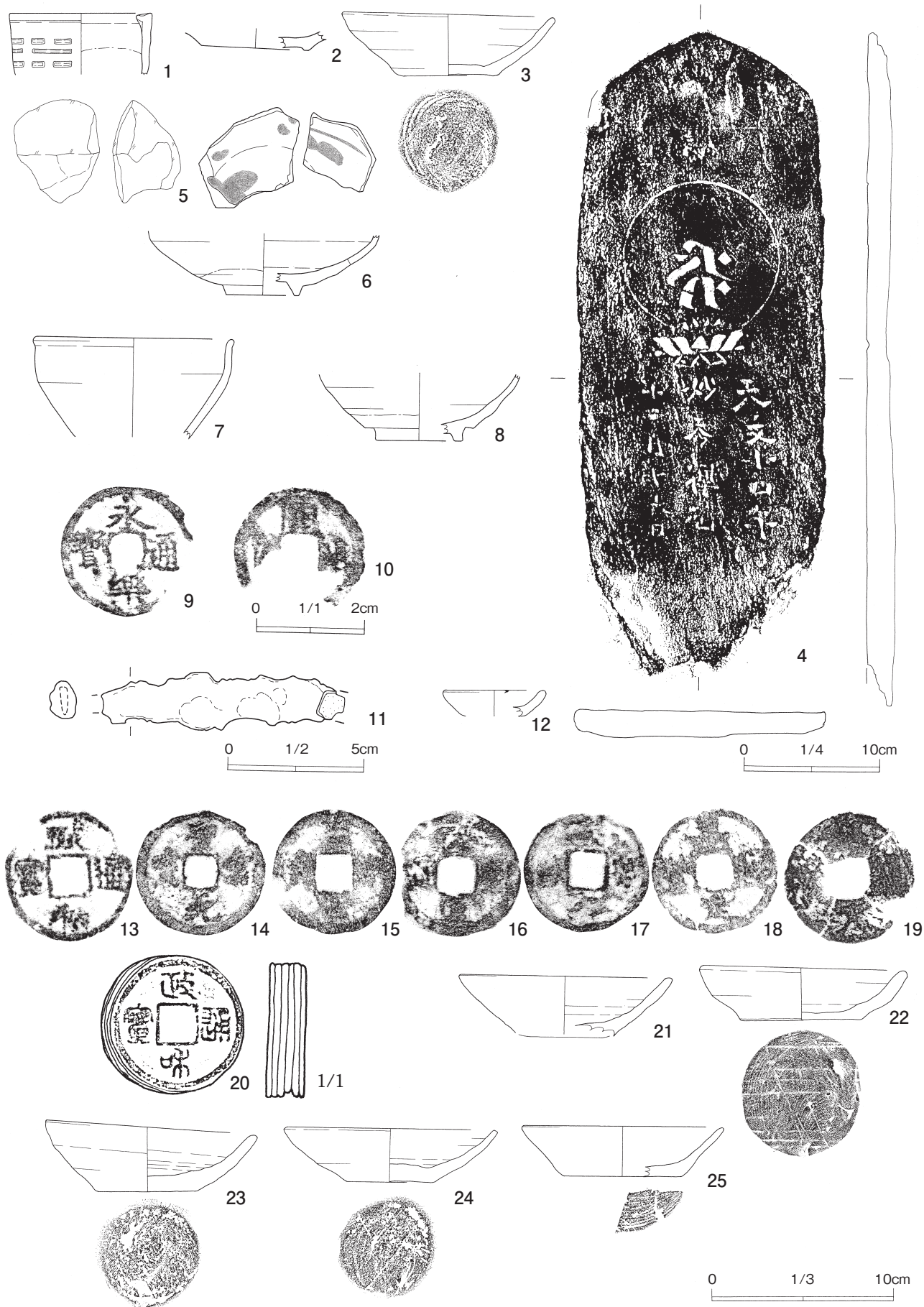
( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

24号土壇	1溝→○	隅丸長方形	直上	(92)×58	44	暗灰褐色/含LR(少)	かわらけ/銭貨/歯		墓壇
25号土壇	1溝→○	長方形	直上	(106)×62	34	暗灰褐色/含LR(非常に多い)・LB(少)	かわらけ/銭貨/歯/人骨		墓壇
26号土壇	○→20壇、1溝(逆?)	長方形	直上	(292)×68	24	暗灰褐色/含LR・LB	瀬美(徳利=登1)/かわらけ/銭貨	17c 初~	?
27号土壇	○→1溝、32壇/? 8壇	長方形	直上	108×68	52	暗灰褐色/含LB(やや多い)・LR・CR・SR	かわらけ/銭貨/歯		墓壇
28号土壇	? ○→4溝	長方形?	ほぼ直上	(54)×(20)	10	暗灰褐色/含LR(多)・LB(多)	歯		墓壇
29号土壇	2溝→○	長方形	ゆるやか	(520)×80	32	暗灰褐色/含LR・SR(少)・CR(少)	瀬美(片口=18c)/肥前(刷毛目)/肥前磁器(碗)/かわらけ/焙烙/スラグ90g	18c~	
30号土壇	1・4溝	不明	ゆるやか	(62)×(80)	12	暗灰褐色/含LR・LB・CR(少)・SR(少)			
31号土壇	○→13壇	長方形	ほぼ直上	135×(43)	☆24	暗灰褐色(やや暗い)/含LB(多)・LR(非常に多い)・S・CR(微)	針/銭貨/骨		墓壇
32号土壇	8・27壇	長方形	直上	(推定)106×56	27	暗灰褐色/含LR・LB	かわらけ/銭貨/人骨		墓壇
33号土壇	○→13壇	長方形	ほぼ直上	90×(46)	☆26	暗灰褐色/含LB(多)・LR(多)・C(少)	歯/骨		墓壇
34号土壇	8壇、1溝	長方形	ゆるやか	(80)×(26)	8	暗灰褐色/含LR(多)	人骨		墓壇
35号土壇	○→13・29壇	長方形	直上	92×53	12	暗灰褐色/含LR(非常に多い)・LB(多)	銭貨/歯/骨		墓壇
1号溝 No. 1人骨	なし	不明	不明	74×27	不明	不明	人骨/歯		遺物のみ
1号溝 No. 2人骨	なし	不明	不明	25×20	☆(10)	不明	人骨/歯		遺物のみ
1号溝 No. 3人骨	なし	不明	不明	72×40	(40)	不明	かわらけ=16c 中?/銭貨/人骨	16c 中?~	遺物のみ

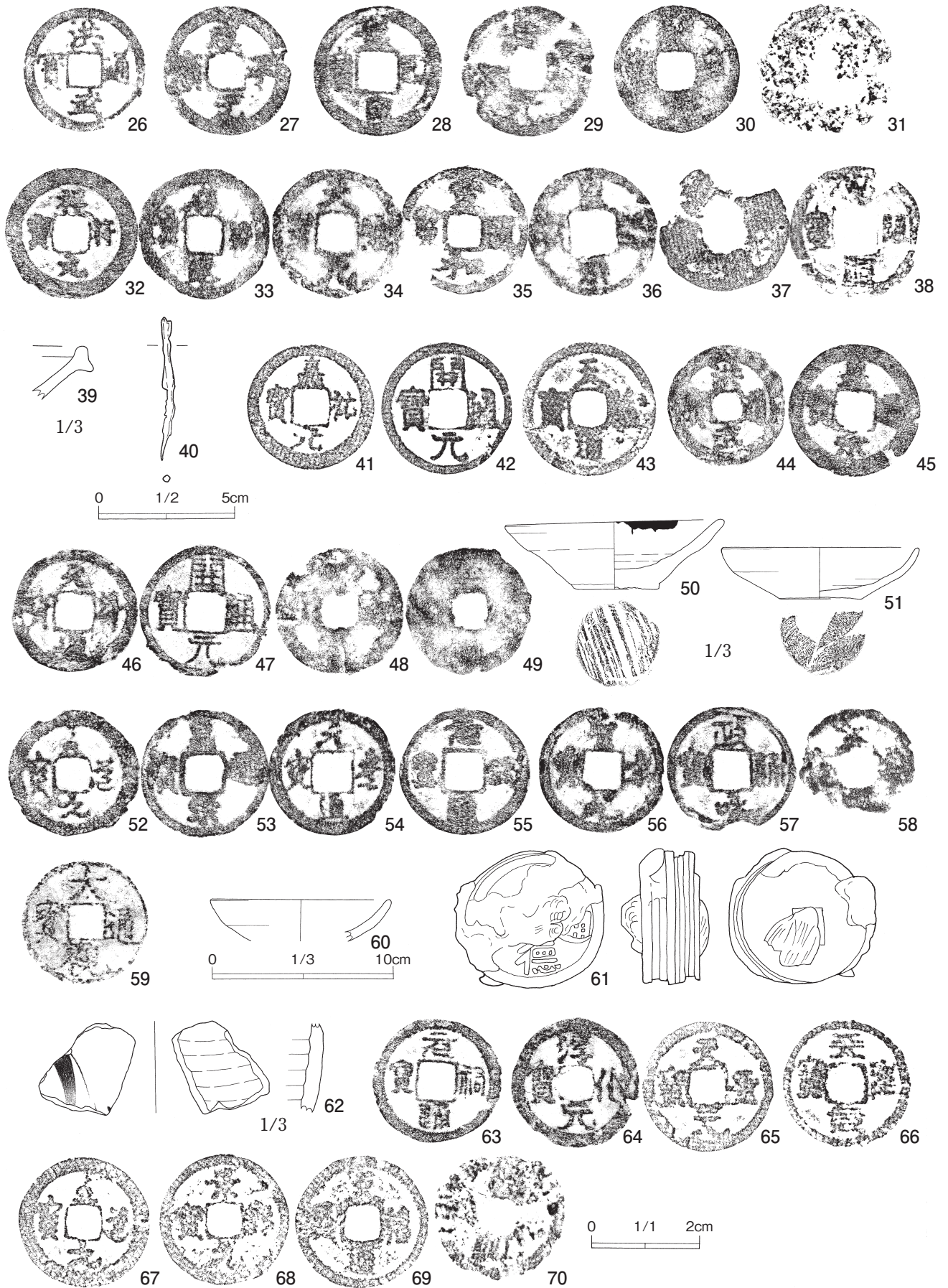
第12表 第41次遺構一覧表 2



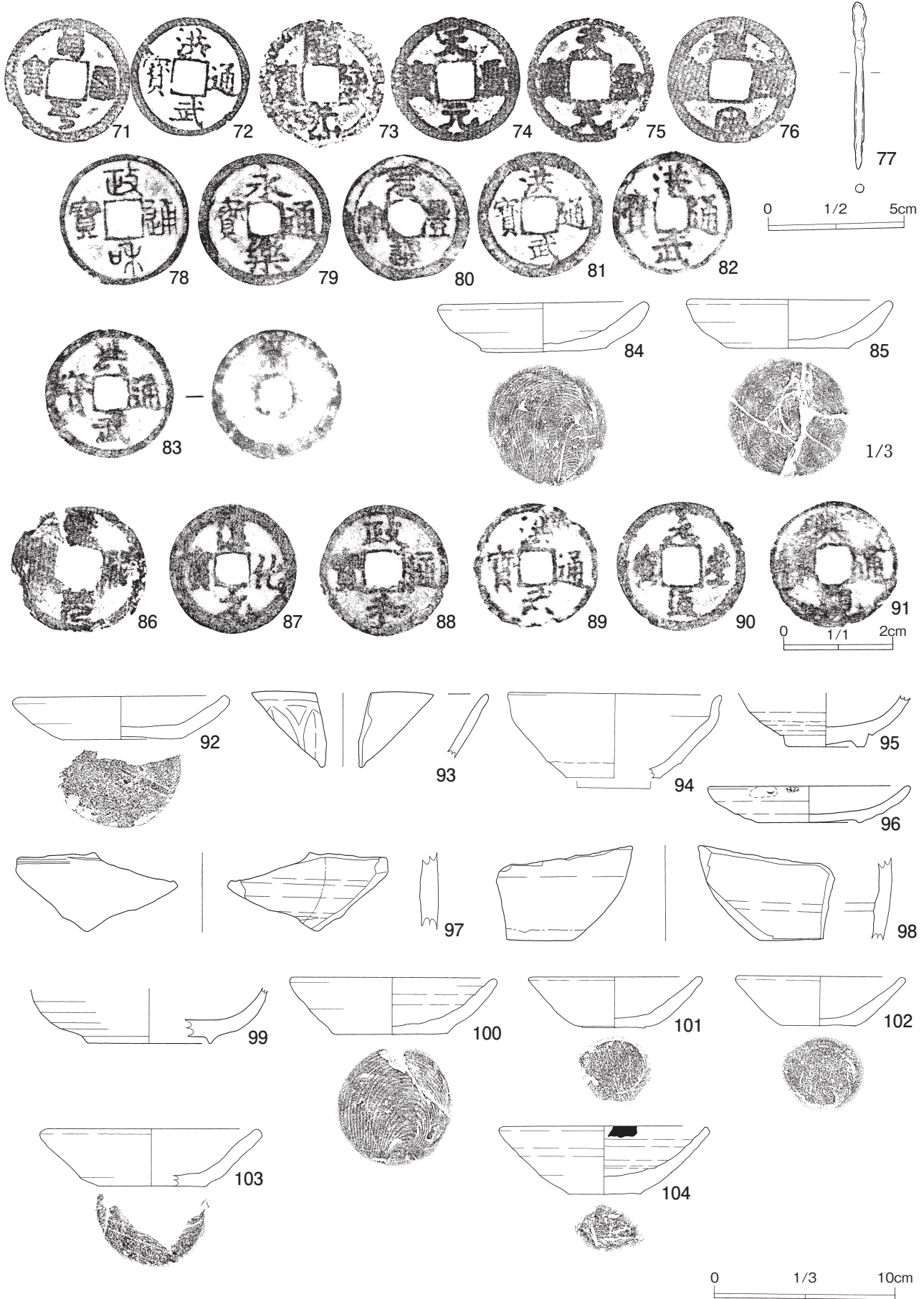
1号溝 No. 1人骨



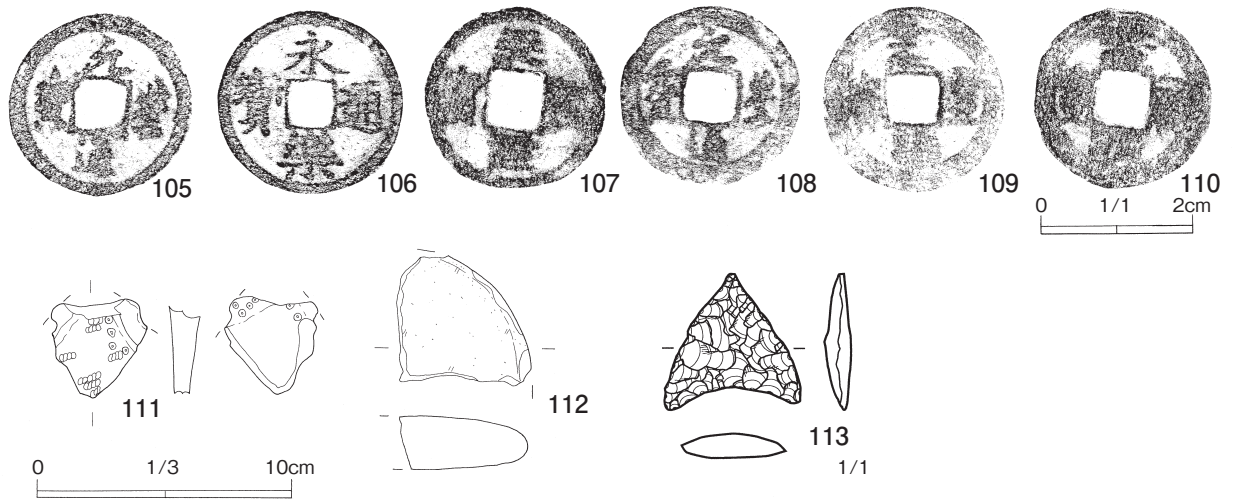
第46図 第41次遺物 1



第47図 第41次遺物 2



第48図 第41次遺物 3



第49図 第41次遺物 4



1号溝 板碑 (No. 4) 出土



( ) は残存値。※は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	青磁香炉	龍泉窯系? 中国	1溝 (No. 4)、No. 7・11	*7.8	—	—		15c?	町青102	
2	稜皿	瀬戸美濃	1溝 (No. 20)	—	*6.0	—	大3カ		皿004	
3	かわらけ	在地	1溝 (No. 14)	11.8	5.6	3.2~3.5		15c 中~16c 前	町 K314	底面ケズリ
4	板碑	石(緑泥片岩)	1溝 (No. 19)	(50.2)	18.7	1.8			0041-0001	
5	磨石	石(角閃石安山岩)	2溝、29壙	5.1	4.7	3.7			0041-0001	
6	鉄絵皿	肥前(唐津)	3溝 (No. 5)、4溝 (No. 1・13)	—	*4.0	—		16c 末~17c 前	皿003	
7	天目	瀬戸美濃	4溝 (No. 6)	*11.0	—	—	登2		天001	
8	天目	瀬戸美濃	4溝 (No. 15)	—	*4.8	—	登1カ2		天002	
9	銭貨(永樂通宝)	銅	4溝 (No. 10)	—	—	—			0041-0058	
10	銭貨(開元通宝)	銅	4溝 (No. 10)	—	—	—			0041-0059	
11	小柄(刀身)	鉄	4溝 (No. 5)	8.8	2.2	0.5			0041-0002	
12	かわらけ	在地	2壙 (No. 1)、32壙 (No. 2)	*5.6	—	—		不明	町 K320	小型
13	銭貨(政和通宝)	銅	2壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0005	
14	銭貨(聖宋元宝)	銅	4壙 (No. 1)	—	—	—			0041-0006	
15	銭貨(不明)	銅	4壙 (No. 1)	—	—	—			0041-0007	
16	銭貨(元豊通宝)	銅	4壙 (No. 1)	—	—	—			0041-0008	
17	銭貨(不明)	銅	4壙 (No. 1)	—	—	—			0041-0009	
18	銭貨(嘉定通宝)	銅	4壙 (No. 1)	—	—	—			0041-0010	
19	銭貨(開元通宝)	銅	4壙 (No. 1)	—	—	—			0041-0011	
20	銭貨(政和通宝)	銅	6壙	—	—	—			町金179	6枚錆着
21	かわらけ	在地	9壙 (No. ?)、一括	11.8	—	—		15c 中~16c 前	町 K322	内面ナデ
22	かわらけ	在地	10壙 (No. 2)	11.5	6.7	2.7~3.1		16c 中	町 K315	内面ナデ 底面ケズリ
23	かわらけ	在地	12壙 (No. 1)	11.7	5.4	3.1~3.6		15c 中~16c 前	町 K308	見込ナデ
24	かわらけ	在地	12壙 (No. 3)	*11.8	5.0	3.0		15c 中~16c 前	町 K309	見込ナデ
25	かわらけ	在地	12壙 (No. 2)	*11.2	*6.5	2.8		15c 中~16c 前	町 K310	
26	銭貨(洪武通宝)	銅	12壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0016	
27	銭貨(咸平元宝)	銅	12壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0014	
28	銭貨(皇宋通宝)	銅	12壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0015	
29	銭貨(開元通宝)	銅	12壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0012	
30	銭貨(開元通宝)	銅	12壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0013	
31	銭貨(不明)	銅	12壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0017	
32	銭貨(祥符元宝)	銅	13壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0019	
33	銭貨(祥符通宝)	銅	13壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0020	
34	銭貨(天聖元宝)	銅	13壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0021	
35	銭貨(宣和通宝)	銅	13壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0024	
36	銭貨(皇宋通宝)	銅	13壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0022	
37	銭貨(不明)	銅	13壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0023	
38	銭貨(嘉祐通宝)	銅	13項 (No. 1)	—	—	—			0041-0018	
39	播鉢	志戸呂	13壙	—	—	—	大4		鉢001	
40	針状製品	鉄	14壙 (No. 1、2)	5.3	0.2	—			0041-0003	
41	銭貨(嘉祐元宝)	銅	14壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0064	
42	銭貨(開元通宝)	銅	14壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0065	
43	銭貨(天禧通宝)	銅	14壙 (No. 4)	—	—	—			0041-0067	
44	銭貨(洪武通宝)	銅	17壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0028	
45	銭貨(皇宋通宝)	銅	17壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0026	
46	銭貨(元符通宝)	銅	17壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0027	
47	銭貨(開元通宝)	銅	17壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0025	
48	銭貨(元祐通宝)	銅	17壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0029	
49	銭貨(熙寧元宝)	銅	17壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0030	
50	かわらけ	在地	19壙 (No. 1)	12.1	4.6	3.6~3.8		15c 中~16c 前	町 K313	見込ナデ 底面板目 油煙付着
51	かわらけ	在地	20壙 (No. 2)、一括	*10.9	4.5	2.9		不明	町 K324	
52	銭貨(至道元宝)	銅	20壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0031	
53	銭貨(皇宋通宝)	銅	20壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0032	
54	銭貨(元豊通宝)	銅	20壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0033	
55	銭貨(元祐通宝)	銅	20壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0034	
56	銭貨(聖宋元宝)	銅	20壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0035	
57	銭貨(政和通宝)	銅	20壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0036	
58	銭貨(元祐通宝)	銅	21壙 (No. 1)	—	—	—			0041-0037	
59	銭貨(大觀通宝)	銅	21壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0038	
60	かわらけ	在地	24壙 (No. 1)、一括	*10.0	—	—		不明	町 K325	
61	銭貨(宣徳通宝)	銅	24壙 (No. 5)	—	—	—				9枚錆着
62	徳利	瀬戸美濃	26壙 (No. 2)	—	—	—	登1		袋003	
63	銭貨(元祐通宝)	銅	26壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0041	
64	銭貨(淳化元宝)	銅	26壙 (No. 3)	—	—	—			0041-0042	
65	銭貨(天聖元宝)	銅	27壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0072	
66	銭貨(天聖元宝)	銅	27壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0073	
67	銭貨(至道元宝)	銅	27壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0069	
68	銭貨(景德元宝)	銅	27壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0070	
69	銭貨(天禧通宝)	銅	27壙 (No. 2)	—	—	—			0041-0071	

第13表 第41次遺物一覧表 1

( ) は残存値。※は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

70	錢貨(不明)	銅	27壙 (No. 2)	—	—	—		0041-0074		
71	錢貨(治平通宝)	銅	31壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0079		
72	錢貨(洪武通宝)	銅	31壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0080		
73	錢貨(開元通宝)	銅	31壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0075		
74	錢貨(天聖元宝)	銅	31壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0076		
75	錢貨(天聖元宝)	銅	31壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0077		
76	錢貨(皇宋通宝)	銅	31壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0078		
77	針状製品	鉄	31壙 (No. 2)	6.1	0.2	—		0041-0005		
78	錢貨(政和通宝)	銅	32壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0045		
79	錢貨(永樂通宝)	銅	32壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0049		
80	錢貨(元豐通宝)	銅	32壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0044		
81	錢貨(洪武通宝)	銅	32壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0046		
82	錢貨(洪武通宝)	銅	32壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0047		
83	錢貨(洪武通宝)	銅	32壙 (No. 1)	—	—	—		0041-0048	見込ナデ	
84	かわらけ	在地	1溝 No. 3人骨 (No. 3)	11.7	7.0	2.7	16c 中?	町 K311		
85	かわらけ	在地	1溝 No. 3人骨 (No. 5)	11.4	6.9	2.7	16c 中?	町 K312		
86	錢貨(景祐元宝)	銅	1溝 No. 3人骨 (No. 4)	—	—	—		0041-0053		
87	錢貨(淳化元宝)	銅	1溝 No. 3人骨 (No. 4)	—	—	—		0041-0052		
88	錢貨(政和通宝)	銅	1溝 No. 3人骨 (No. 4)	—	—	—		0041-0056		
89	錢貨(洪武通宝)	銅	1溝 No. 3人骨 (No. 4)	—	—	—		0041-0057		
90	錢貨(元豐通宝)	銅	1溝 No. 3人骨 (No. 4)	—	—	—		0041-0054		
91	錢貨(大觀通宝)	銅	1溝 No. 3人骨 (No. 4)	—	—	—		0041-0055		
92	かわらけ	在地	P79?	*12.0	6.6	2.4	15c 中~16c 前	町 K321	底面板目	
93	青磁碗	龍泉窯系中国	一括	—	—	—	I-5類	13c~	青001	
94	天目	瀬戸美濃	一括	*11.8	—	—	登1	17c 初~前	町天071	
95	志野丸碗	瀬戸美濃	一括	—	*4.3	—	大4末ヵ		碗001	
96	志野丸皿	瀬戸美濃	No. 16	*11.0	*5.8	2.0	登1		皿001	内外スス 付着
97	梅瓶	瀬戸美濃	一括	—	—	—	古中		袋001	
98	徳利	瀬戸美濃	一括	—	—	—	大3		袋002	
99	丸皿	初山	No. 13	—	*6.8	—	大3後		皿002	
100	かわらけ	在地	1T (No. 2・?)	11.5	6.4	3.2		16c 中?	町 K316	見込ナデ
101	かわらけ	在地	1T (No. 4)	*9.6	*3.5	2.8		15c 中~16c 前	町 K317	見込ナデ 中型
102	かわらけ	在地	1T (No. 4)	*9.4	*4.2	2.8		15c 中~16c 前	町 K318	見込ナデ 中型
103	かわらけ	在地	一括	12.2	6.0	3.2			町 K319	見込ナデ
104	かわらけ	在地	No. 9、一括	*11.6	4.0	3.8			町 K323	見込ナデ 油煙付着
105	錢貨(元豐通宝)	銅	No. 12	—	—	—		0041-0001		
106	錢貨(永樂通宝)	銅	No. 12	—	—	—		0041-0002		
107	錢貨(天聖元宝)	銅	No. 12	—	—	—		0041-0003		
108	錢貨(元豐通宝)	銅	1T (No. 3)	—	—	—		0041-0050		
109	錢貨(元豐通宝)	銅	1T (No. 3)	—	—	—		0041-0051		
110	錢貨(元祐通宝)	銅	No. 21	—	—	—		0041-0004		
111	縄文土器	土器	1溝	—	—	—				
112	磨石	石(花崗岩)	一括	5.2	5.3	2.1		0041-0001		
113	石鏃	石(黒曜石)	一括	18.0	18.0	3.6		0041-0001		

第14表 第41次遺物一覧表 2



1号溝 かわらけ (No. 3) 出土

## 第Ⅷ章 第43次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成5年1月13日、開発者柿沼光男氏から騎西町教育委員会に宛て、大字根古屋字前100における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は建設予定地は騎西城武家屋敷跡の範囲内に該当することから埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成5年12月27日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、社会教育課主任島村範久が担当した。

調査協力員

五十嵐喜一郎 岡田金之助 小森谷アサ 佐藤ヨシ  
福島清作 山口保夫 若林美知子

文化庁通知 教文第1-033号

平成6年5月24日

調査期間 平成6年5月23日～7月13日

調査面積 119m<sup>2</sup>

(調査の経過)

今回は母屋と駐車場建設予定地をそれぞれA区・B区とし並行して調査を行った。重機により遺構確認面(ローム層)まで掘り下げ溝・土壌の調査を行った。湧水に備え両区の北側に側溝を掘り排水した。調査区はA区は10m×9m、B区は6.5m×6mである。黒色の落込確認のためA区南西コーナー、土壌確認のため南中央部を拡張し調査した。1号井戸の覆土をフローテーションし、煙管・かわらけなどを確認した。遺構名は当初調査区毎に振ったが途中で通しナンバーとした。

遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査)

根古屋・外川土地区画整理区域外なので近接する調査区はない。150m東の4次調査では溝5条、尖頭器・縄文時代の落とし穴?、近世～現代の陶磁器等が出土している。

### 第2節 遺構と遺物

A区B区あわせて南北・東西に溝が11条走り、土壌22基が調査区全面に、井戸1基が分布する。

【溝】いずれも小規模なものである。

多くは18c以降のもので、在城期の可能性を残すものは9号溝のみである。

9号溝 B区西端で南北に走り深さ20cmである。瀬戸美濃播鉢・かわらけが出土した。

10号溝 焼土が広く堆積していた。

【井戸状遺構】A区西端に位置する。

1号井戸 羅宇が遺存していた煙管(5)・加工材(6)・長さ9cmの竹や片面黒色の漆器(未図化)が出土している。

【土壌】22基で確認された。良好な形態掘り込みを有するものは3・5・15・21号土壌である。

3号土壌 平面長方形。礫出土。

5号土壌 平面長方形。

15号土壌 平面長方形。中国染付碗(10)出土。

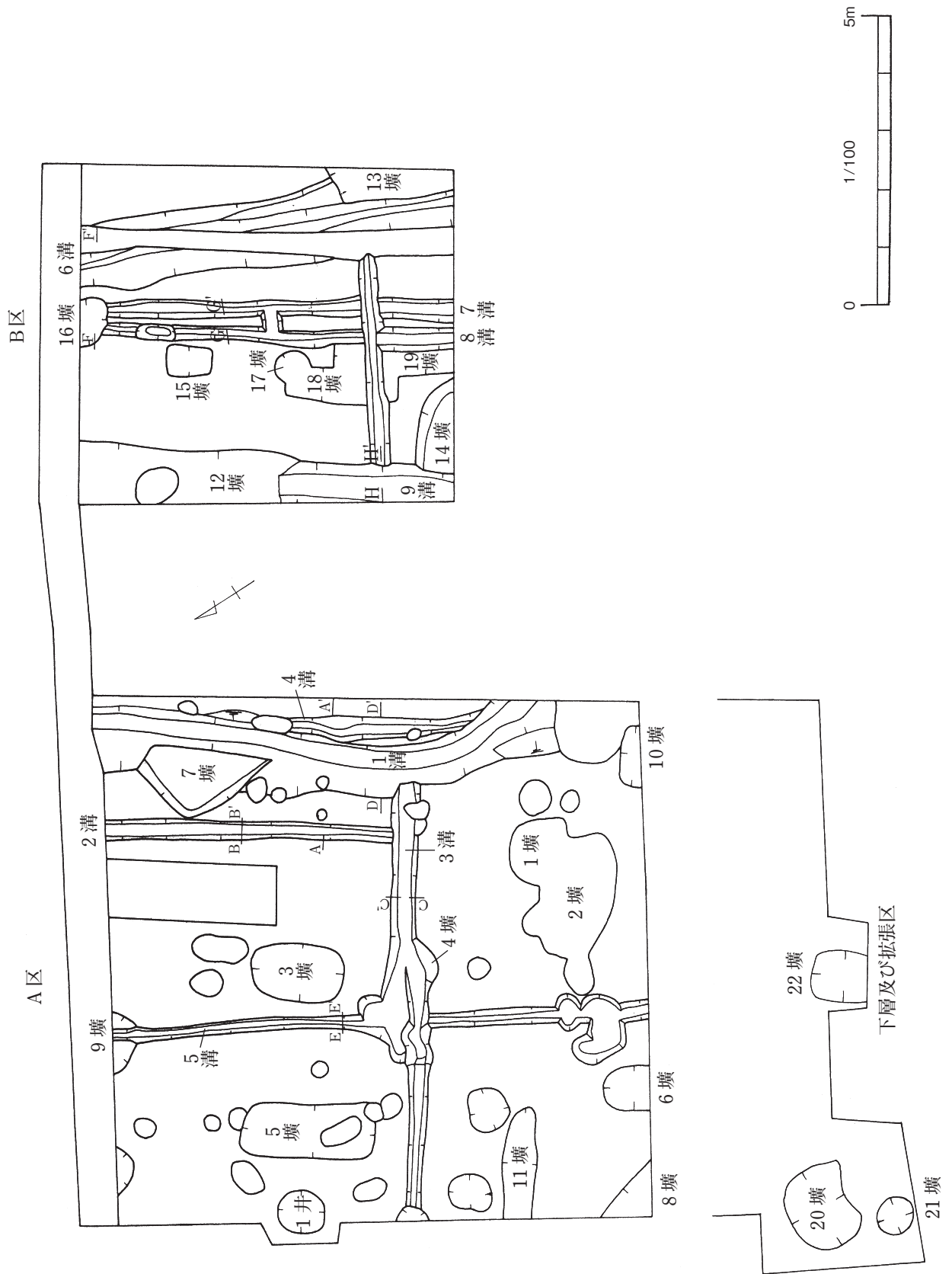
21号土壌 平面円形。

遺構外出土遺物

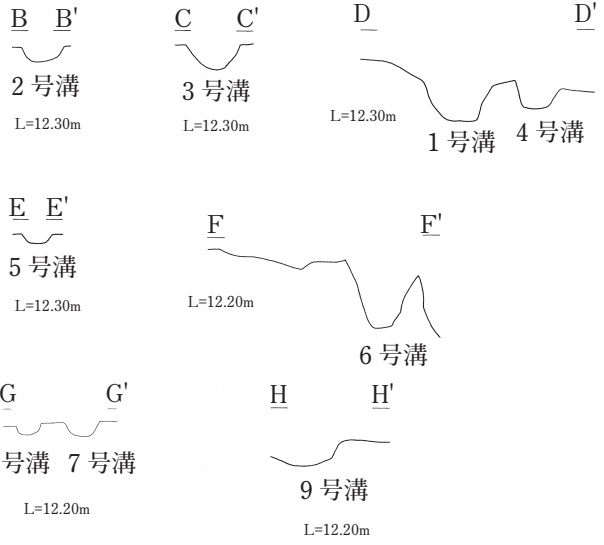
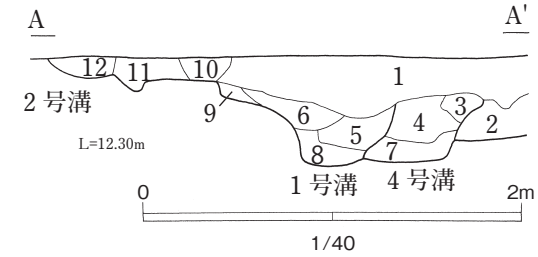
13C～19Cの陶磁器類が出土している。龍泉窯青磁碗(13)・中国染付皿(14)、瀬戸美濃卸皿(15)・梅瓶(18)、唐津大皿(19)、肥前染付碗(20・21)・皿(22)、瀬戸美濃染付端反碗(25～27)・碗(24・28・29)がある。

銅製品は植物文を刻んだ板状製品(33)・銭貨(34・35)で35は寛永通宝である。

他に縄文土器で称名寺期(36～39)・安行期(40)がある。

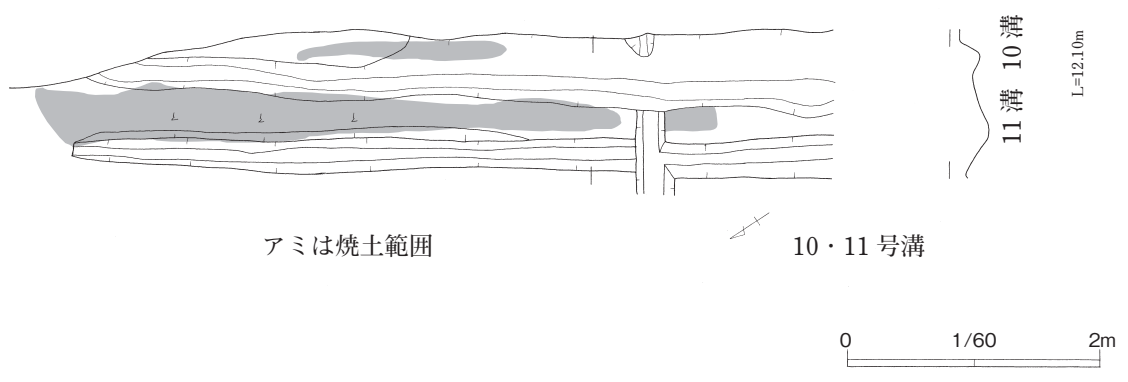


第50図 第43次遺構位置図

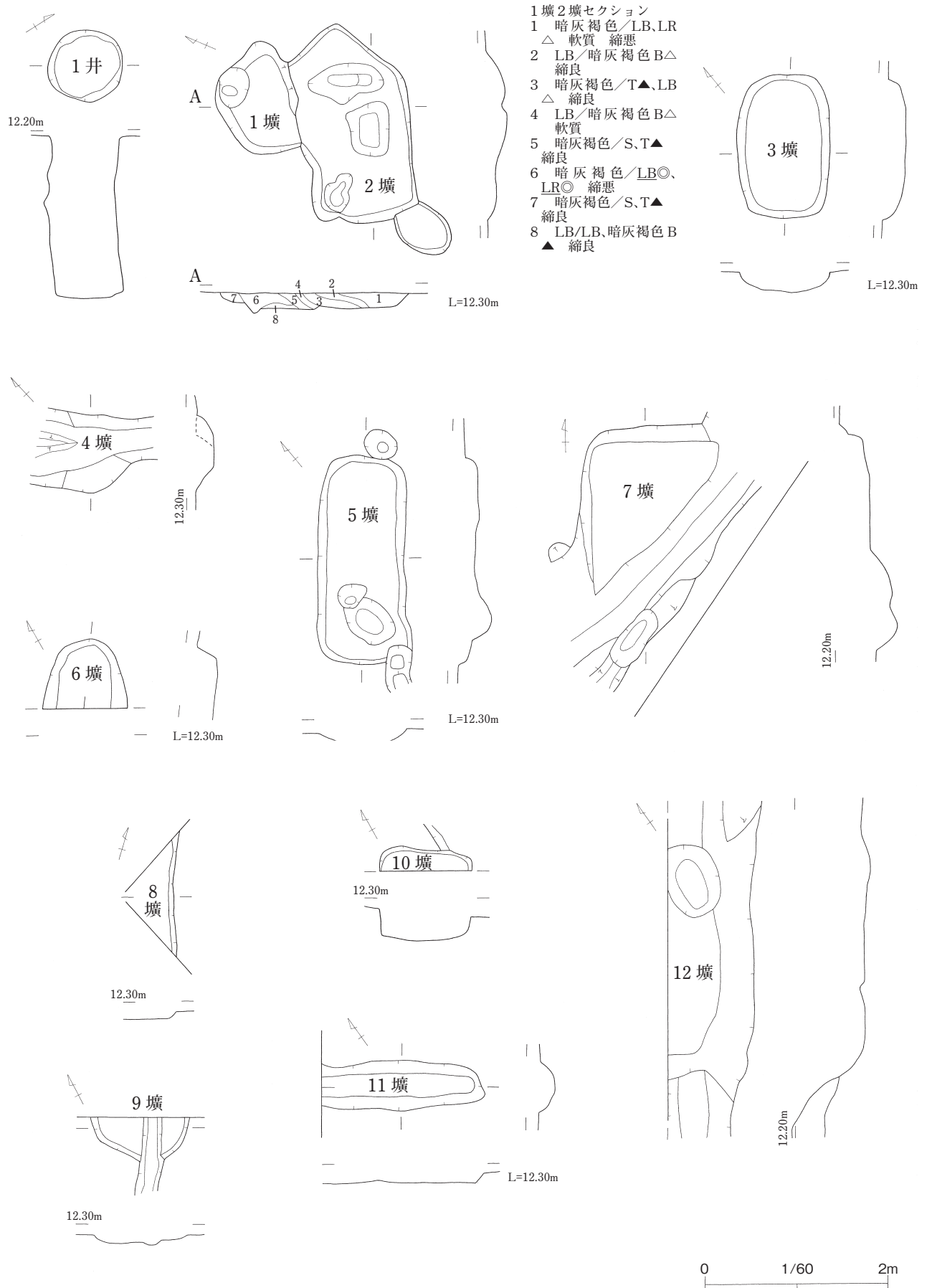


- 2 溝 1 溝 4 溝 セクション
- 1 暗灰褐色 / LR△、S、C▲ 軟質 締悪
  - 2 LB/L (ソフト)、BB△ 締良
  - 3 暗灰褐色 / LR◎ 締良
  - 4 暗灰褐色 / LR△、LB▲ 締良 } 4 溝
  - 5 暗灰褐色 (明) / LR△、LB▲ 締良 } 1 溝
  - 6 暗灰褐色 / LB◎、LR△ 軟質
  - 7 LB/L (ハード)、暗灰褐色 B△ → 4 溝
  - 8 暗灰褐色 (暗) / LR△ 締良 } 1 溝
  - 9 L (ソフト)
  - 10 暗灰褐色 / LR、LB△ 軟質
  - 11 暗灰褐色 / LB△ 締悪
  - 12 暗灰褐色 / LR△、S▲ 軟質 → 2 溝

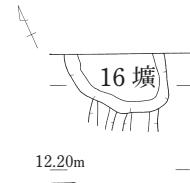
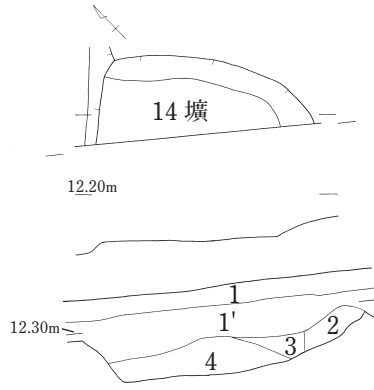
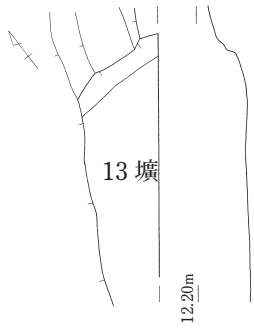
- 土層説明凡例
- 色調 / 含有物
  - テフラ=T
  - ローム=L
  - 炭化物=C
  - 焼土=S
  - 酸化鉄=FE
  - 黒褐色=BB
  - 黒色=B
  - 褐色=Br
  - 粒子=R
  - ブロック=B
- 非常に多い=☆  
 多量=◎  
 少量=△  
 微量=▲  
 万遍なく=アンダーライン  
 やや明るい=やや明  
 やや暗い=やや暗  
 非常にやわらかい=軟度高  
 やわらかい=軟質  
 やややわらかい=軟度低  
 かたい=堅緻  
 締まり良し=締良  
 締まり悪し=締悪  
 粘性強し=粘強  
 粘性有り=粘有



第51図 第43次遺構 1

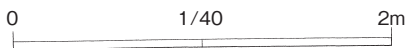
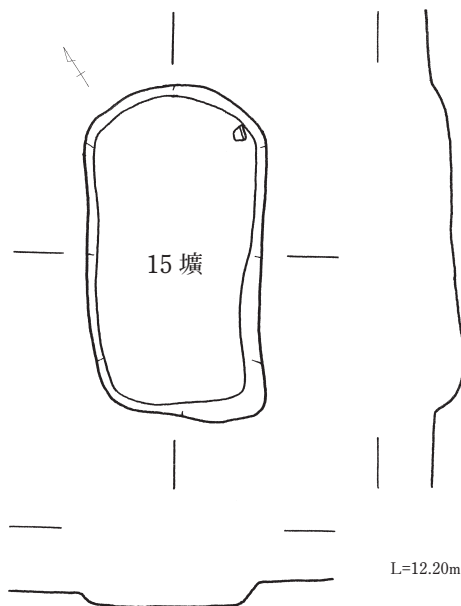
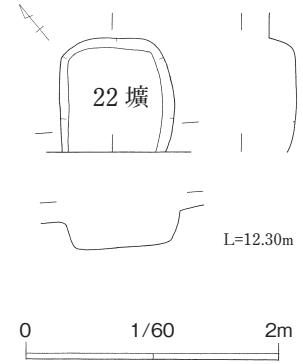
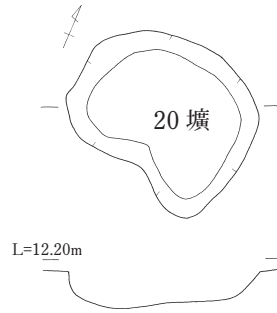
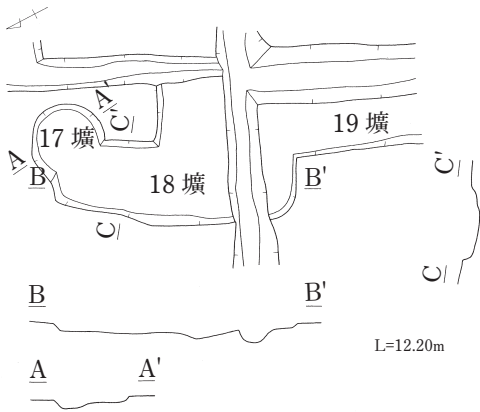


第52図 第43次遺構 2



14壙セクション

- 1 表土
- 1' 暗灰褐色 / LR△、T△ 軟質 締悪
- 2 暗灰褐色 / LB△、LR△ 軟質 締悪
- 3 暗灰褐色 (2層より暗) / LB△、LR△ 締悪
- 4 暗灰褐色 / LB○、LR○ 締悪



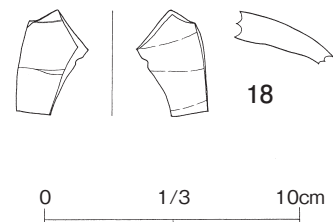
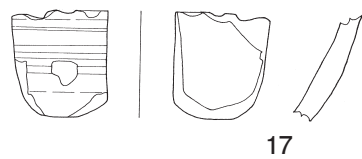
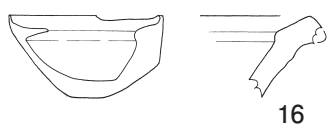
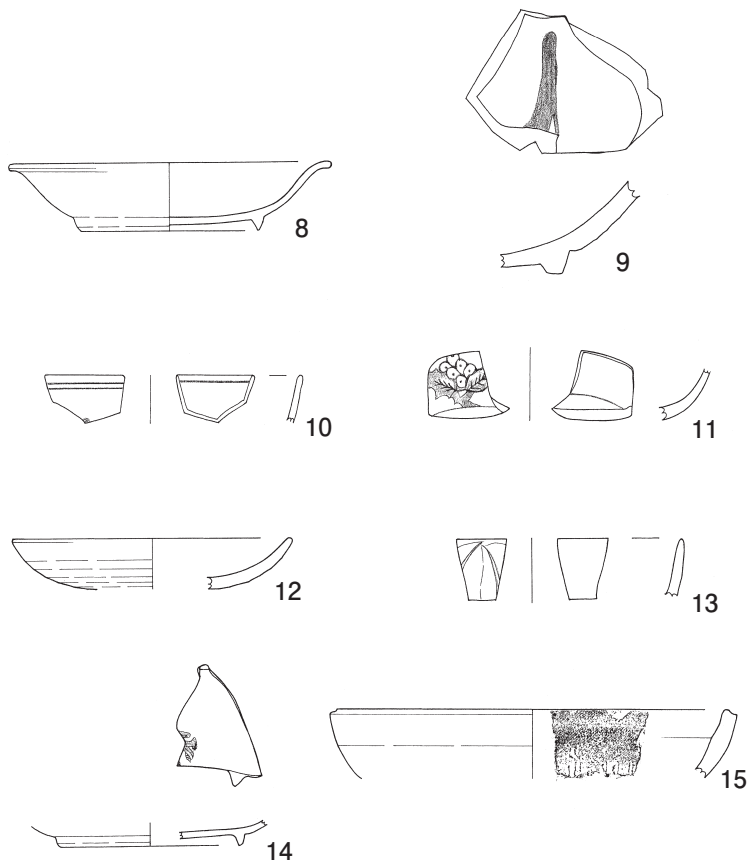
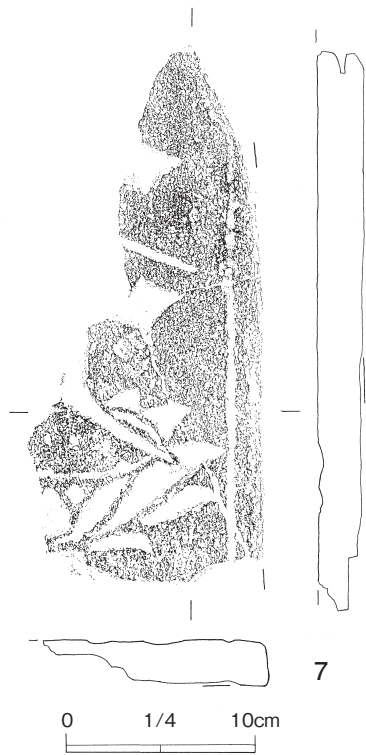
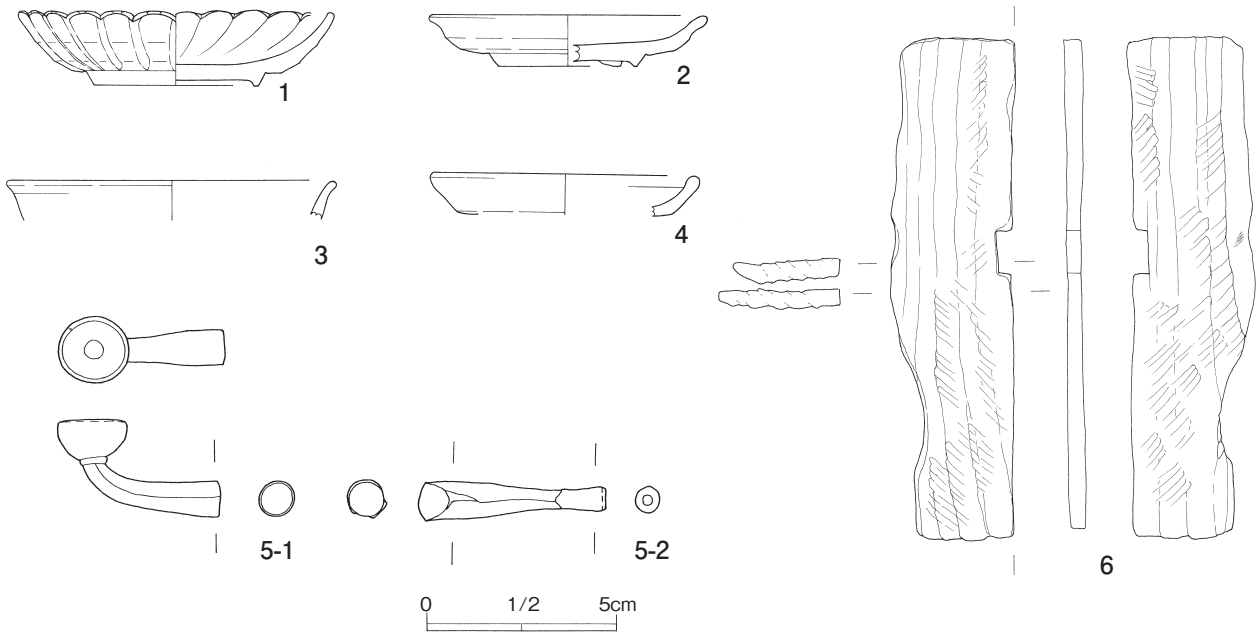
第53図 第43次遺構3

( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=酸化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

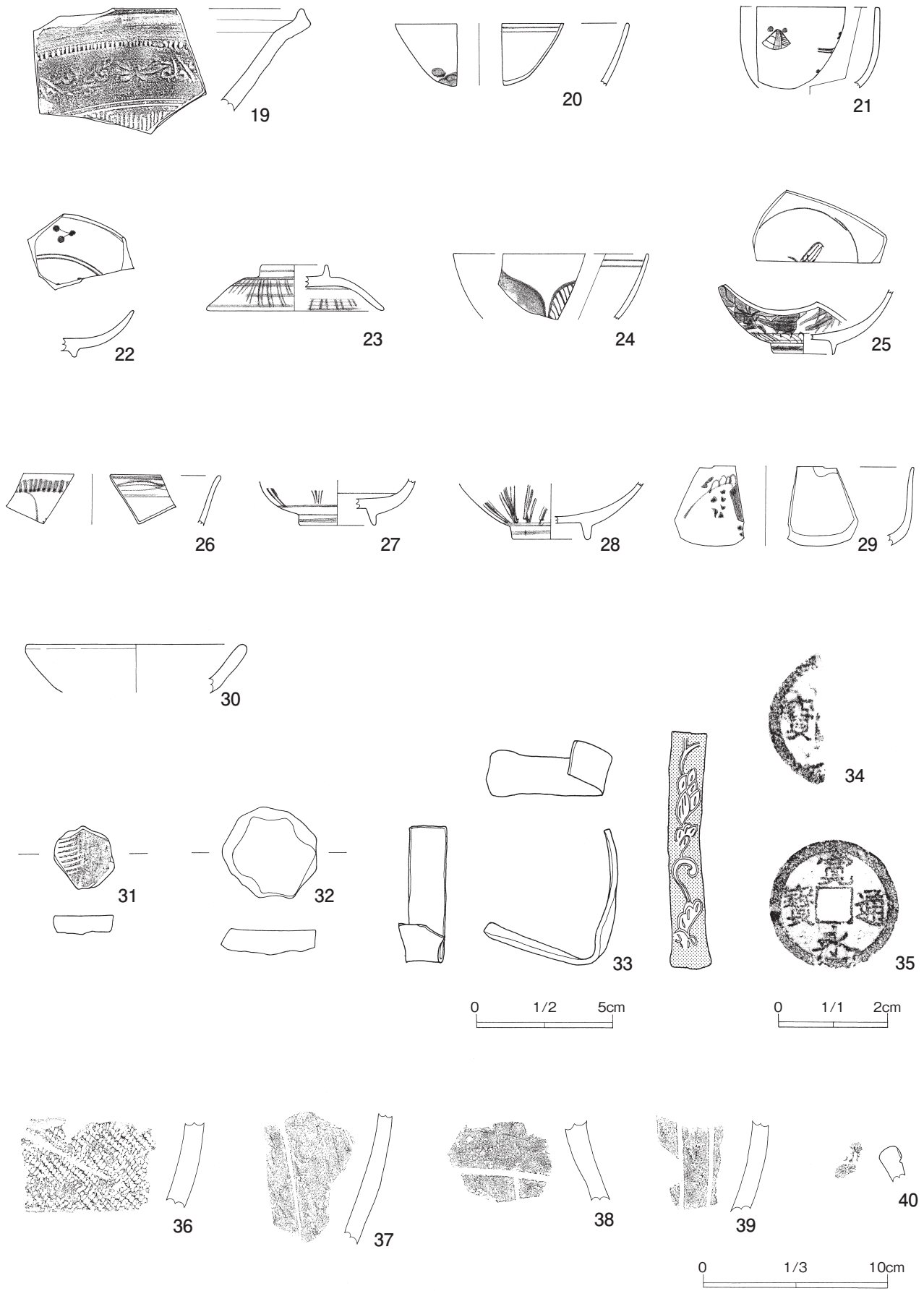
遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	4溝、7塲→○→3溝	やや屈曲する	箱葉研	☆(98)	☆60	暗灰褐色	瀬美(小坏・染付碗・染付小坏・染付蓋)=19c、(德利(磁器)・染付鉢)=19~20c/志戸呂(灯明皿=18~19c)/信楽(丸碗=18~19c)/肥前(皿=17c後~18c・丸碗=17後~19c/肥前磁器(白磁碗)/瓦	19c~	
2号溝	3溝と同時期5塲→○→4塲	直線	ほぼ直上	☆36	☆12	暗灰褐色	かわらけ・焙烙		
3号溝	1・9溝→○→5・8溝、4塲	直線	ほぼ直上	☆44	☆19	暗灰褐色	瀬美(丸碗=17c前)/焙烙/かわらけ	19c~	
4号溝	○→1溝	直線	ほぼ直上	☆(50)	☆10	暗灰褐色	瀬美(白磁小坏・染付碗・染付蓋)=19c(德利(磁器)・染付鉢)=19~20c/志戸呂(灯明皿=18~19c)/信楽(丸碗=18~19c)	19c~	
5号溝	3溝→○	直線	ほぼ直上	☆40	☆16	暗灰褐色	瀬美(德利=18c)/かわらけ	18c~	
6号溝		直線	箱葉研	☆(86)	☆60	暗灰褐色(暗い)	肥前磁器(染付碗=18~19c・青磁香炉=江戸)/瓦	18c~	
7号溝	3溝→○	直線	ゆるやか	☆52	☆24	暗灰褐色 しまり悪い		19c~	
8号溝	3溝、17・18塲→○	直線	ほぼ直上	☆44	☆28	暗灰褐色		19c~	
9号溝	○→12塲、3溝	直線	ほぼ直上	☆(52)	☆20	上層LB	瀬美(掃鉢=大2~4、登1・2)/かわらけ/焙烙	17c~	
10号溝	11溝	直線	ゆるやか	79	18	黒褐色	かわらけ		
11号溝	10溝	直線	葉研	26	17	暗灰褐色			
1号井戸		円形	直上	82	177	(上層)ポロポロ(中位層)しまり有り(下層)柔らかい	肥前磁器(白磁碗・染付碗)=江戸/焙烙/かわらけ/煙管(吸口・雁首)/竹	17c~	
1号土塲	2塲	不整長方形	ゆるやか	124×90	☆24	暗灰褐色/含LB多しまり悪い			カクラン?
2号土塲	1塲、1P	不整長方形	ほぼ直上	224×122	☆16	暗灰褐色/含LB(多)・S(微)しまり悪く柔らかい			カクラン?
3号土塲		長方形	ほぼ直上	158×103	☆22	暗灰褐色/含LR(少)・C(微)しまり良し	礫		
4号土塲	3溝→○	不明	ほぼ直上	(70)×(60)	☆20	暗灰褐色		19c~	
5号土塲	○→2P	長方形	ほぼ直上	232×96	☆18	暗灰褐色(暗く黒っぽい)			
6号土塲		隅丸長方形	ほぼ直上	90×(74)	☆28	暗灰褐色/含BBrB(少)・LB(ソフト少)しまり悪い	かわらけ		
7号土塲	○→1溝	長方形	ほぼ直上	(180)×(150)	32	暗灰褐色			
8号土塲		不明	ほぼ直上	(140)×(58)	8	暗灰褐色/含T・LR(少)しまり悪くポロポロである			
9号土塲	5溝	楕円形?	ゆるやか	110×(50)	10	暗灰褐色/含LB(少)・LR(少)しまり悪くポロポロ			
10号土塲		長方形	オーバーハング	102×(28)	☆35	暗灰褐色(暗く)/まんべんなく含LB・LR(少量)			
11号土塲	○→8・9P	隅丸長方形	ほぼ直上	(181)×54	☆18	不明			
12号土塲	9溝→○	長方形?	ほぼ直上	(394)×(94)	☆80	暗灰褐色	瀬美(丸皿=18~19c・鉄絵皿=登1)/焙烙/かわらけ	18c~	
13号土塲	○→6溝	長方形	ほぼ直上	(216)×(64)	☆20	暗灰褐色			
14号土塲	9溝→○	楕円形?	ゆるやか	(120)×(69)	☆(66)	LB混じり	肥前磁器(色絵碗=18c)/かわらけ	18c~	
15号土塲	単独	長方形	ほぼ直上	90×49	8	暗灰褐色	中国(染付碗=16中~後半)	16c中~	
16号土塲	8溝→○	不整円形	ほぼ直上	80×(47)	18	暗灰褐色/LB混じり	瀬美(德利=17c)/肥前磁器(染付德利=17c)、万古(急須=19~20c)	19c~	
17号土塲	18塲	円形?	ほぼ直上	60	10	暗灰褐色			
18号土塲	8溝、17塲→○→3溝	長方形	ほぼ直上	144×66	8	暗灰褐色/含LB		19c~	
19号土塲	8溝→○→3溝	長方形?	ほぼ直上	100×42	☆8	暗灰褐色/LB		19c~	
20号土塲		不整円形	ほぼ直上	150×106	28	黒褐色	釘		
21号土塲		楕円形	ほぼ直上	60×67	☆30	上層暗灰褐色・下層黒褐色			
22号土塲		長方形	ほぼ直上	(90)×90	☆24	暗灰褐色			

第15表 第43次遺構一覧表





第54图 第43次遺物 1



第55図 第43次遺物 2

( )は残存値、\*は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径 (高さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	形式等	年代	遺物 ID	備考
1	志野菊皿	瀬戸美濃	1溝 No. 1	12.4	6.6	2.9	登1		皿001	
2	丸皿	瀬戸美濃	1溝 No. 2、A区 1層	*11.0	*5.5	2.0		17c 後	皿002	
3	丸碗	瀬戸美濃	3溝	*13.0	—	—		17c 前	碗001	
4	かわらけ	在地	1・4溝	*10.6	—	—		不明	K002	
5-1	煙管(吸口)	銅	1井	4.4	1.9	2.6			0043-0001	
5-2	煙管(雁首)	銅	1井	4.9	1.0	—			0043-0001	
6	加工材	木	1井	20.0	4.8	0.7			0043-0003	切り込みあり
7	板碑	石(緑泥片岩)	1井	(29.6)	(12.0)	2.4			0043-0001	
8	白磁皿	中国	12壙 No. 10	*12.6	*7.0	2.7	C-1	15c中~16c末	白001	
9	鉄絵皿	瀬戸美濃	12壙 No. 1	—	—	—	登1		皿003	
10	染付碗	中国	15壙 No. 1	—	—	—		16c中~後	染003	
11	染付碗	中国	16壙 No. 6	—	—	—		16c~17c初	染002	
12	灯明皿(油皿)	瀬戸美濃	A区 9P	*11.0	—	—		18c~19c	皿004	
13	青磁碗	龍泉窯系中国	A区 1層	—	—	—	B-O	13c中~14c	青001	
14	染付皿	中国	A区 1層	—	*7.0	—	E	16c中~17c	染001	
15	鈿皿	瀬戸美濃	A区 1層	*16.0	—	—	古中II		皿005	
16	搦鉢	瀬戸美濃	A区 1層	—	—	—	大4後・II		鉢002	
17	四耳壺	瀬戸美濃	A区	—	—	—	古中		袋001	
18	梅瓶	瀬戸美濃	B区 1層	—	—	—	古中		袋002	
19	大皿	肥前(唐津)	側溝	—	—	—		17c~18c	鉢001	
20	染付碗	肥前(磁器)	A区 1層	—	—	—		18c	伊001	
21	染付碗	肥前(磁器)	A区 1層	*7.4	—	—		19c	伊002	
22	染付皿	肥前(磁器)	A区 1層	—	—	—		17c 後	伊003	
23	染付蓋	肥前(磁器)	A区 1層	*9.6	*3.8つまみ径	2.5		18c~19c	伊004	
24	染付碗	瀬戸美濃	側溝	*10.6	—	—		19c	瀬001	
25	染付端反碗	瀬戸美濃	A区 1層	—	*3.4	—		18c 後~19c	瀬002	
26	染付端反碗	瀬戸美濃	A区 1層	—	—	—			瀬003	
27	染付端反碗	瀬戸美濃	A区	—	*4.2	—		19c	瀬004	
28	染付碗	瀬戸美濃	A区 1層	—	*4.0	—		19c	瀬005	
29	染付碗	瀬戸美濃	一括	—	—	—		19c	瀬006	
30	かわらけ	在地	A区 1層	*12.0	—	—		不明	K001	
31	土製円盤	瀬戸美濃	A区 1層	—	—	—		17c~	つぶて石001	
32	土製円盤	瀬戸美濃	A区 1層	—	—	—		17c~	つぶて石002	
33	板状製品	銅	A区1層	8.7 (復元)	1.3	0.2			0043-0002	毛彫り文様
34	錢貨(不明)	銅	A区	—	—	—			0043-0001	
35	錢貨(寛永通宝)	銅	B区	—	—	—			0043-0002	
36	縄文土器	土器	B区 12壙	—	—	—				
37	縄文土器	土器	B区	—	—	—	称名寺			
38	縄文土器	土器	B区 10溝(No. 1)	—	—	—	称名寺			
39	縄文土器	土器	1溝(No. 21)	—	—	—	称名寺			
40	縄文土器	土器	B区 16壙(No. 7)	—	—	—	安行			

第16表 第43次遺物一覧表

# 第IX章 まとめ

## 第1節 第17次調査

外側の障子堀の南に位置する『武州騎西之絵図』(以下絵図)では大手門の南方、□藤三右衛門の屋敷周辺である。検出した遺構は、溝・土壇・井戸がある。溝は絵図の方位軸と比べやや西へ振り3号溝は16世紀後半以降である。また切り合いから2・4・5・7壇は溝より新しく、溝から土壇・井戸への移行が考えられるがおおよそ16世紀代に収まる。

## 第2節 第28次調査

『絵図』では城郭部南方で、武家屋敷を東西に抜ける主要な道に面し、川添作太夫の屋敷周辺である。検出した遺構は溝・土壇・井戸・かわらけ集中などである。1号溝はKB10区1・4号溝につながる可

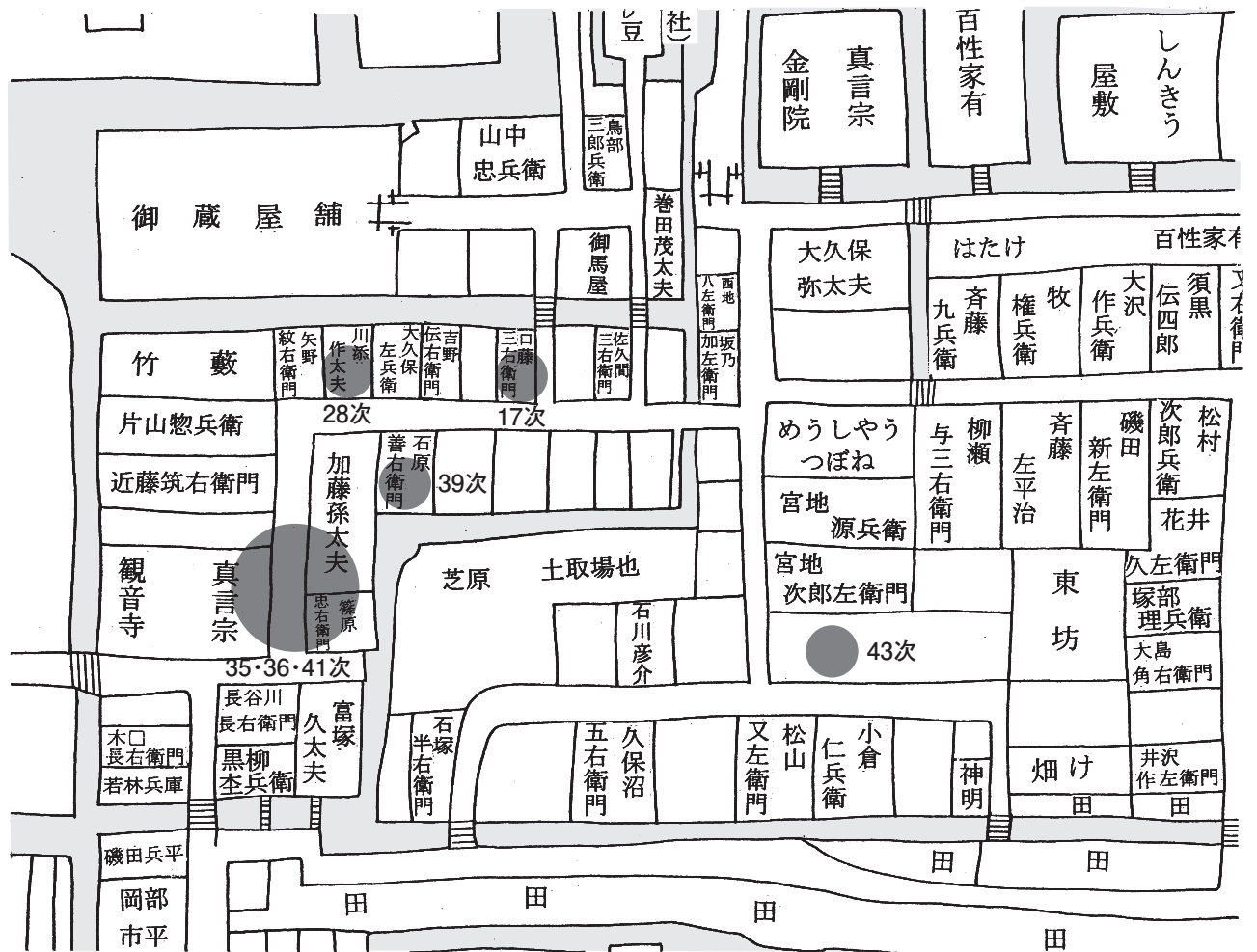
能性を有し、一辺約50mを計る方形の構堀を想定できる。出土遺物からかわらけ集中は15世紀中頃～16世紀前半で、焼土集中・1号土壇と同時期の墓域を構成するものか。構堀は15世紀後半～16世紀前半、3・4壇が15末以降であろう。3・4壇は形態から廃城以降の可能性もある。

## 第3節 第35・36次調査

調査区が隣接し同一の溝が検出されているため、まとめて述べる。

『絵図』では、篠原忠右衛門・加藤孫太夫の屋敷、観音寺周辺である。

○重複関係 35次は、6溝→5溝→4溝の順である。36次は5溝→1溝→4b溝(→3溝)と変遷する。両地区にまたがる溝の名称をおおよそ共通させているため、そのままの名称を使用し両地区の変遷を追う。



第56図 各調査区の武家屋敷内の推定位置

概略、6溝→5溝→(36次)1溝→4溝→(36次)3溝となる。  
 ○所属時期(他地区の成果/今回の成果)  
 6溝(KB2区18溝=16~17c初・私武7次2溝=16c前/15末~16c前)  
 5溝(KB2区18溝=16~17c初/16c前)  
 1溝(KB2区16溝=17初?/17c初)  
 4溝(私武41次4溝=17c初/17c後)  
 3溝(私武41次2溝=17~18c/18~19c)  
 以上から6溝(16c前)→5溝(16c中)→1溝(17c初)→4溝(17c後)→3溝(18c)としておく。

#### 第4節 第39次調査

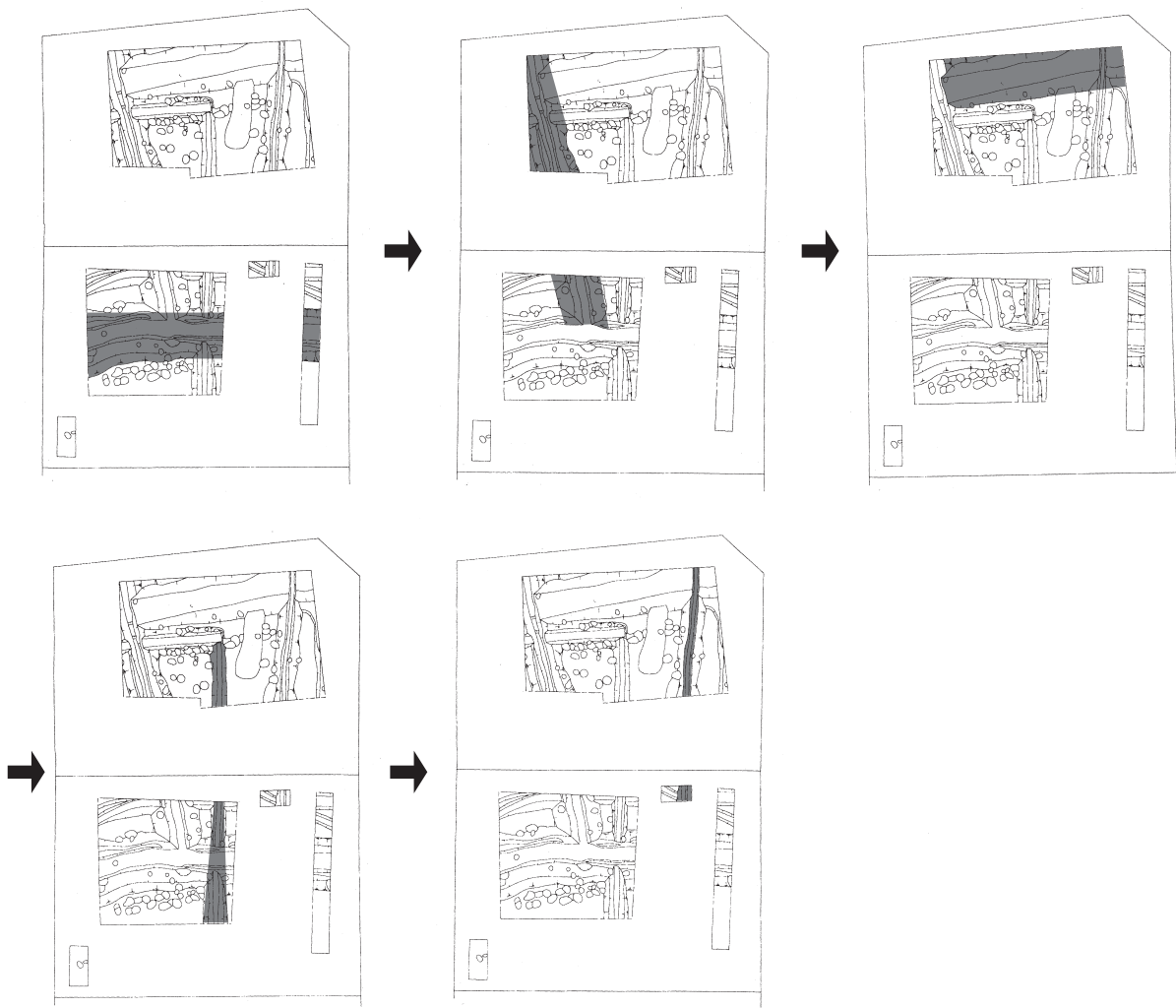
『絵図』では西に所在する外川村より来る道の延長上で、篠原忠右衛門あるいは石原善右衛門の屋敷

周辺である。検出された遺構はトレンチでは溝、調査区では井戸・土壇がある。1号井戸は16世紀代、2T1溝は17世紀絵図の頃か。2・7・12壇は平面円形・同規模で同時期と思われるが、時期は不明である。

#### 第5節 第41次調査

『絵図』篠原忠右衛門・観音寺周辺である。主に溝と土壇が所在し、隣接する第7次の成果と併せると、1号溝→墓域の変遷が追え、さらに溝以前にも墓域が存在していたことが窺える。墓壇は重複しており、繰り返し埋葬されていたものであろう。墓域は当調査区に留まらずKB2区6-32号線交差点西側付近まで広がる。また、7次では溝から五輪塔が出土している。

年代については、1号溝は16世紀前半まで、墓域



第57図 第35・36次遺構群の変遷

は副葬されたかわらけから16世紀代前半としておく。  
『絵図』の時代は3号溝が相当するか。

埋葬形態について見ると、人骨から頭位北向が多く西に顔向けているものが確認できる。六道銭は胸あたりに副葬されたようである。

## 第6節 第43次調査

『絵図』では武家屋敷のほぼ中央、宮地次郎左衛

門・小倉仁兵衛の屋敷に挟まれた無記名の敷地周辺である。遺構は溝・井戸・土壇が検出されている。9溝・15壇のみ騎西城期の遺構の可能性があり、他は18・19世紀以降の溝・土壇が多く、当該期に居住空間であったものと思われる。その中で13～16世紀の舶載磁器の存在が異質である。

### 参考文献

- 大橋 康二 1984 「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野 正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 小野 正敏 2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 『騎西町史』考古資料編1 2001 騎西町教育委員会
- 『騎西町史』考古資料編2 1999 騎西町教育委員会
- 『騎西町史』通史編 2005 騎西町教育委員会
- 『騎西城武家屋敷跡第7次発掘調査報告書』 騎西町遺跡調査会報告書第1集 1996 騎西町遺跡調査会
- 『騎西城武家屋敷跡妙光寺第1・2次発掘調査報告書』 騎西町遺跡調査会報告書第2集 1997 騎西町遺跡調査会
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」 九州近世陶磁学会
- 九州近世陶磁学会 2001 「国内出土の肥前陶磁」東日本の流通をさぐる 九州近世陶磁学会
- 小林 義典ほか 2002 「小田原城三の丸 藩校集成館跡第Ⅲ・第Ⅳ地点」小田原市文化財調査報告書第100集 小田原市教育委員会
- 中野 晴久 1994 「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集
- 中野 晴久 2005 「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集
- 藤澤 良祐 1987 「本業焼の研究(1)」研究紀要Ⅵ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 1988 「本業焼の研究(2)」研究紀要Ⅶ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 1989 「本業焼の研究(3)」研究紀要Ⅷ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤 良祐 2008 「中世瀬戸窯の編年」



# 圖 版







調査前風景



2号井戸完掘



1号井戸 漆碗出土



完掘（西側）



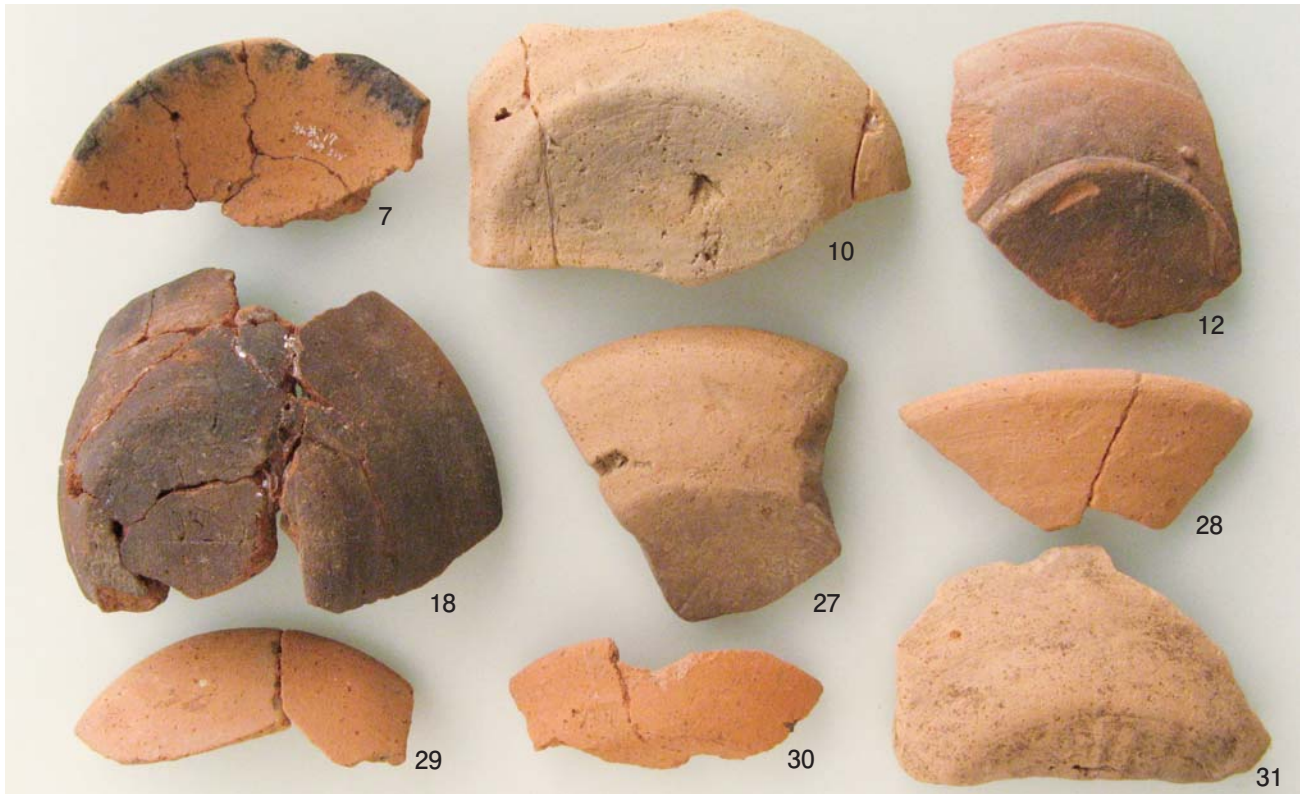
完掘（東側）



1号溝 (右) 2号溝 (北から)



3号溝



かわらけ



火打金



煙管



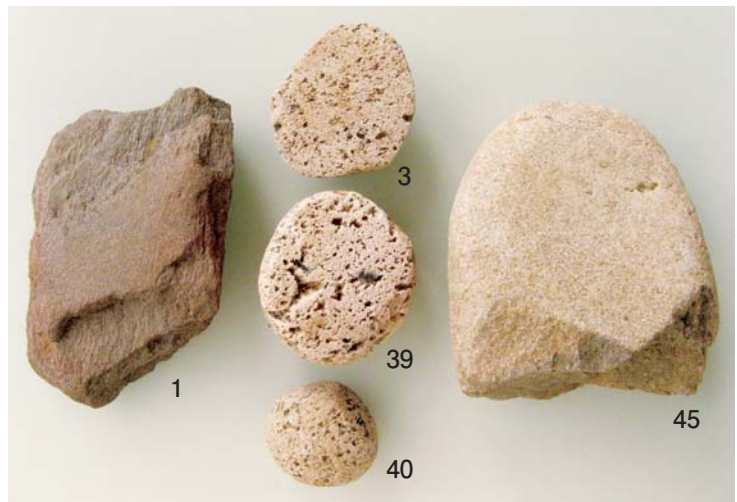
砥石



碁石



石鏃



磨石



完掘



完掘（北から）



1号溝



1号井戸



2号井戸



3号井戸





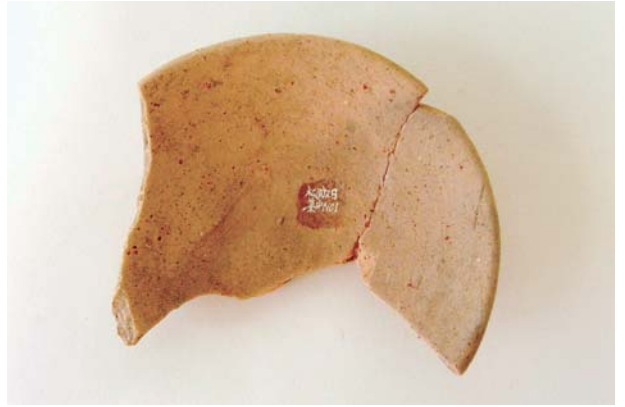
1号土壙 骨出土



烧土等集中



10



11



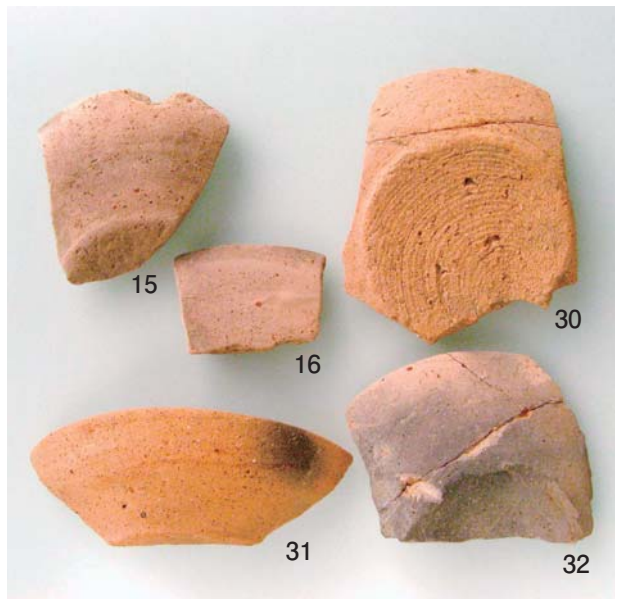
12



13



14



15

16

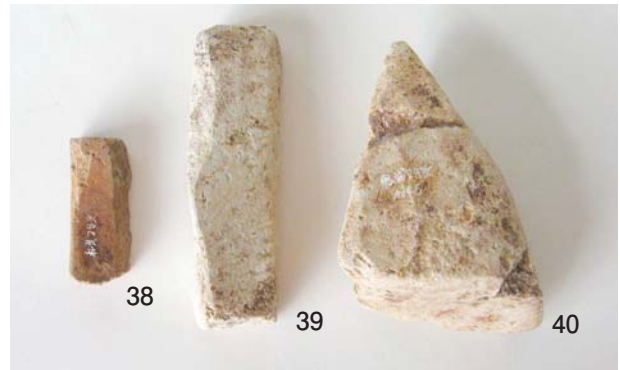
30

31

32



錢貨



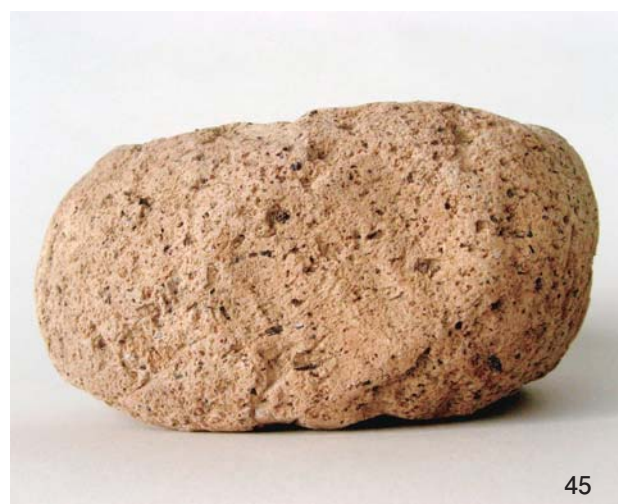
砥石



磨石



(上面)



(正面)

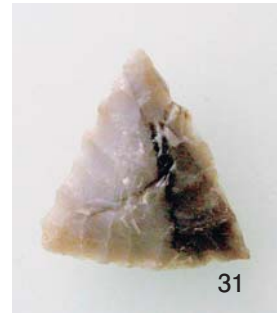
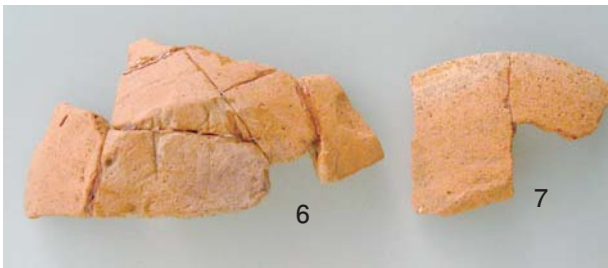
磨石



調査前風景



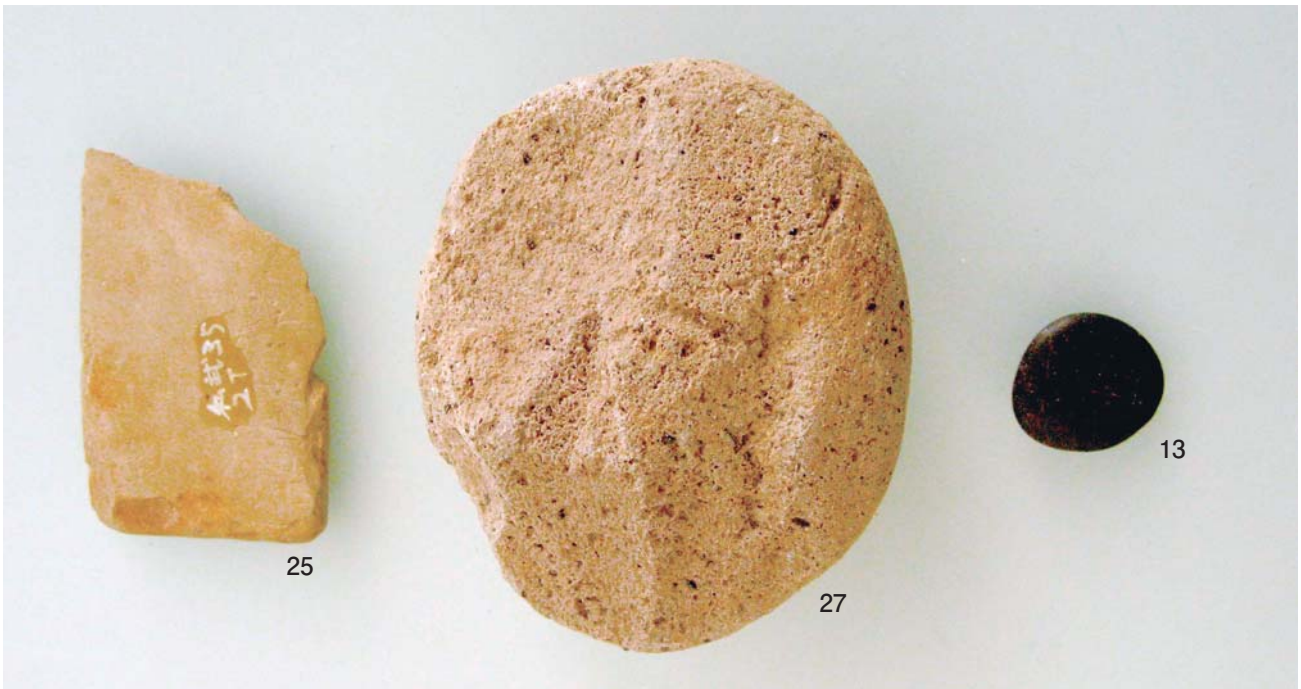
完掘（北から）



かわらけ

剥片

石鏃



硯様石製品・磨石・基石



西側完掘（北から）



東側完掘（北から）



西側完掘（東から）



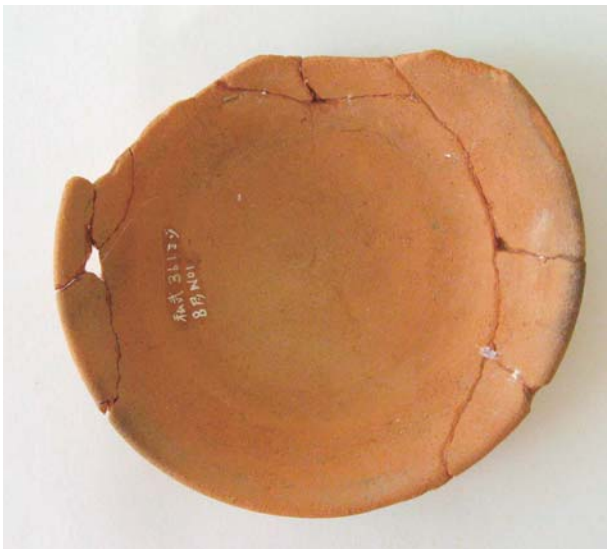
東側完掘（東から）



1号溝 かわらけ出土 (No.3)



3号溝 蓋出土 (No.10)



煙管

6



火打金

7



かわらけ

3



23





完掘 (東から)



1T (西から)



3T (南から)



4T (東から)



1号井戸



1号井戸 かわらけ出土 (No.18)



2号井戸完掘



2号土壙



9号土壙



7号土壙



12号土壙



3



12



18



36

かわらけ



6

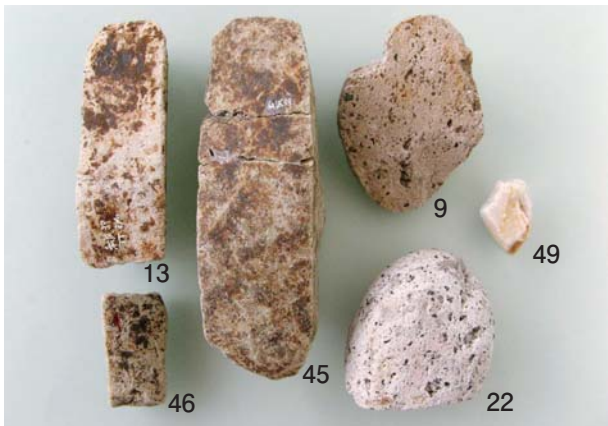
7

14

15

16

土鍋 焙烙



13

9

49

45

22

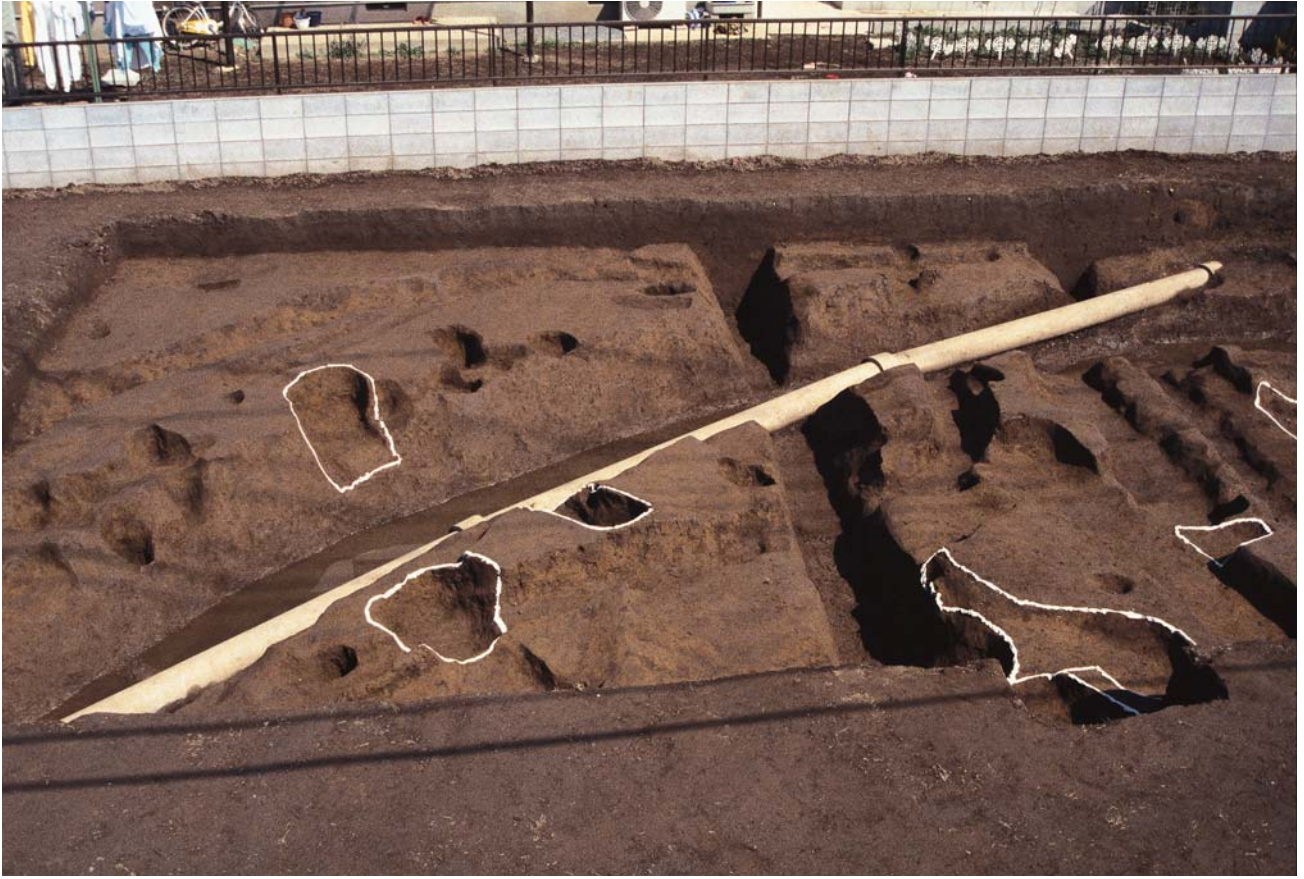
46

砥石 磨石 火打石



48

石鏃



墓壙分布（西側）



墓壙分布（東側）



3号土壙 人骨出土



6号土壙 遺物出土



6号土壙 錢貨出土



9号土壙 遺物出土



10号土壙 遺物出土



11号土壙 骨出土





12号土壙 遺物出土 (北半分)



12号土壙 遺物出土 (南半分)



14号土壙 遺物出土



14号土壙 遺物出土 (拡大)



17号土壙 (22号土壙) 遺物出土



18号土壙 骨出土



19号土壙 遺物出土



23号土壙 骨出土



24号度壙 (上層)



24号土壙 (下層)



25号土壙 遺物出土



27号土壙 遺物出土



28号土壙 歯出土



31号土壙 遺物出土 (下層)



31号土壙 遺物出土 (上層)



33号土壙 遺物出土





35号土壙 遺物出土



35号土壙 遺物出土



1号溝 No.2 人骨



1号溝 No.3 人骨





かわらけ



20



61

錢貨



40

77

針状製品



113

石鏃



A区 完掘 (南から)



B区 完掘 (南から)



A区 1・4号溝 完掘 (南から)



10号溝・11号溝完掘 (南から)



1号井戸



加工材

6



板状製品

33



煙管

5

## 報告書抄録

フリガナ	キサイジョウブケンシキアト								
書名	騎西城武家屋敷跡								
副書名	第17・28・35・36・39・41・43次発掘調査								
巻次									
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第1集								
編著者名	嶋村英之								
編集機関	加須市教育委員会								
所在地	〒347-8501 埼玉県加須市下三俣290番地								
発行年月日	西暦2011年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
きさいじょう 私市城 武家屋敷跡	埼玉県加須市 根古屋	11421	070						
	17次 仮52-16				36°06'09"	139°35'07"	19900709~0904	67	個人住 宅建設
	28次 仮33-6				36°06'10"	139°35'02"	19920127~0313	93	
	35次 仮36-4				36°06'07"	139°34'59"	19921006~1210	63	
	36次 仮36-4				36°06'07"	139°34'59"	19921006~1210	86	
	39次 仮50-4				36°06'05"	139°35'07"	19930610~0908	93	
	41次 仮36-4				36°06'07"	139°34'59"	19940117~0322	83	
43次 100		36°05'60"	139°35'17"	19940523~0713	119				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
きさいじょう 私市城 武家屋敷跡	城館跡	17次中近世	溝3条/井戸2基 /土壇7基	陶磁器・かわらけ・火打 金・煙管・銭貨・磨石	構堀の南西角か。  隣接する35・36次の溝は 繋がりが、5期の変遷を辿 ることが可能。  土壇のほとんどが墓壇で、 墓域を形成。 廃城以降の遺物・遺構が 主体。				
		28次中近世	溝3条/井戸3基 /土壇6基	陶磁器・かわらけ・砥石 ・縄文土器					
		35次中近世	溝8条/土壇1基	陶磁器・かわらけ・板碑 石臼					
		36次中近世	溝6条/土壇4基	陶磁器・かわらけ・火打 金					
		39次中近世	溝5条/井戸2基 /土壇11基	陶磁器・土鍋・桶側板・ 下駄・刀子・銭貨					
		41次中近世	溝6条/土壇35基	陶磁器・かわらけ・針? ・小柄・銭貨					
43次中近世	溝11条/井戸1基 /土壇22基	陶磁器・煙管							
要約	いずれの調査区も武家屋敷の西半分に所在する。43次調査以外は絵図以前の16世紀代の遺構・遺物が多数確認された。特に28次調査区では15世紀後半～16世紀前半の構堀を備える屋敷が、41次調査区では16世紀前半に墓域が展開していた。								



加須市埋蔵文化財調査報告書 第1集

---

## 騎西城武家屋敷跡

---

第17・28・35・36・39・41・43次調査

平成23年3月25日印刷

平成23年3月31日発行

発行 加須市教育委員会

〒347-8501 埼玉県加須市下三俣290番地

印刷 関東図書株式会社